

国語 科目 言語文化

单位数： 2 单位

使用教科書：（ 桐原書店『探求言語文化』 ）

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わりあうとする態度を養う。

57

單位數： 2 單位

教科担当者：(A組：松浦) (B組：松浦) (C組：江尻) (D組：松浦) (E組：江尻) (F組：江尻)

教科 国語 の目標：

【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力ようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 現代の国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			語・ 聞	書	読					
1 学 期	1 言葉に表す 読み手や書き手を意識しながら、 見たことや感じたこと、考えたこと を言葉に表現する。	【教材名】 ふしぎと人生	○	○	○	・随想の基本的な読み方を習得している。 ・二項対立的な内容を把握しながら、全体の 構成を的確にとらえている。	○	○	○	10
	2 筋道をつかむ 論理の展開を意識しながら、文章を 理解し、考えを述べる。	【教材名】 ほとほどのデザイン	○	○	○	・評論の読み方を習得している。 ・対比構造を読み取りながら、筆者の主張を 的確にとらえている。	○	○	○	
	定期考査						○	○		1
	3 視点を変える 普段と異なる視点から物事を見 て、固定されがちな考えを揺さぶっ てみる。	【教材名】 星の目で見える	○	○	○	・具体例を踏まえて「視点を変える」という ことがどういうことか理解し、その効果につ いて考えることができる	○	○	○	10
	4 他者と向き合う 立場の違い、時代や文化の違い、 価値観の違いなどを踏まえて、他者 を意識する。	【教材名】 神様	○	○	○	・小説の基本的な読み方を習得している。・ 人物、情景、心情などを表現に即して読み味 わうことで、描かれている世界を深く理解す ることができる。	○	○	○	
	定期考査						○	○		1
2 学 期	5 問いを立てる 物事を観察して矛盾を発見し、問 いのかたちにして考える。	【教材名】 問いの立て方とオリジナリティ	○	○	○	・研究活動において「問いを立てる」ことの重 要性や「問いを立てる」際の条件を理解するこ とができる。	○	○	○	10
	6 論理を組み立てる 複数の文章を比較して読むことに意欲 をもち、共通点や相違点をとらえるこ と。	【教材名】 羅生門	○	○	○	・登場人物の心理や行動の意味を、表現に即し て的確に読み取ることができる。	○	○	○	
	定期考査						○	○		1
	7 つながりを見いだす 他者との関係や社会とのつながり を通して、自分のあり方を考える。	【教材名】 遅れてきた「私」	○	○	○	・抽象度の高い文章においても論理の展開に着 目して、筆者の主張を的確にとらえることがで きる。	○	○	○	10
	8 常識を問い直す 当たり前とされがちなことを批判 的に問い直して、新しい考えを得 る	【教材名】 A I の判断	○	○	○	・A I の普及が人類に及ぼす影響について、筆 者の主張を読み取ったうえで、自分の考えを深 めることができる。	○	○	○	
	定期考査						○	○		1
3 学 期	9 情報に関連づける 文章や図表など、複数の情報を関 連づけて、物事をさまざまな角度から 捉える。 1 0 展望を描く 想像する力を発揮して、望ましい未 来の姿を思い描く。	【教材名】 食の履歴書 目の見えない人は世界をどう見てい るのか 夢十夜	○	○	○	・本文と引用や資料との関係を正確にとらえ、 筆者の主張を読み取ることができる。	○	○	○	12
	定期考査						○	○		1 合計 57

国語 科目 古典探究

单位数： 3 单位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ F 組

教科担当者：（A組：筒井） （B組：筒井） （C組：筒井） （D組：仲野） （E組：仲野） （F組：仲野）

使用教科書：（ 大修館書店『古典探究』 古文編 漢文編 ）

教科 国語 の目標：

【知 識 及 び 技 能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。

【思考力、判断力、表現力等】「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。

【学びに向かう力、人間性等】言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

科目 古典探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			語 文	書	読					
1 学 期	説話 ・物語の展開をとらえる。 ・話のおもしろさを味わう。	【教材名】 『十訓抄』 「大江山いくの道」	○	○	○	・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・説話文学に興味を持ち、登場人物の言動などから多様な価値観を読み取ろうとしている。	○	○	○	13
	物語 ・歌物語の特徴について理解し、味読する。	【教材名】 『伊勢物語』 「初冠」	○	○	○	・「詠むこと」において、分掌の種類を踏まえて、構成や展開などを的確にとらえている。 ・作品の文学史的な位置づけを理解し、登場人物の心情をつかもうとしている。	○	○	○	
	定期考査						○	○		1
	故事 必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深め、「画竜点睛」という成語の成り立ちについて進んで考察し、本文を解釈しようとしている。	【教材名】 『歴代名画記』 「画竜点睛」 「漱石枕流」	○	○	○	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	○	○	○	15
	歴史物語 「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について理解する。	【教材名】 ・漢詩の形式と表現 ・漢詩	○	○	○	・必要に応じて書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈すると共に、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。	○	○	○	
	定期考査						○	○		1
2 学 期	歴史物語 「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について理解する。 漢文（思想） 孟子が主張する「四端」と仁・義・礼・智の関係について理解する。	【教材名】 『大鏡』 「競べ弓」 和歌 『史記』 「沛公 項王に見ゆ」 「四面皆楚歌す」	○	○	○	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえている。 ・平安時代の貴族文化を踏まえて、登場人物の境遇や心情を理解しようとしている。	○	○	○	15
	定期考査						○	○		1
	日記文学 ・登場人物の関係、その行動や心情をとらえ、人物や事件について、作者がどのように思っているかを考える。	【教材名】 『更級日記』 「源氏の五十余巻」	○	○	○	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて構成や展開などを的確にとらえている。 ・歴史物語の特徴を踏まえ、人物や事件についての作者の視点を考えようとしている。。	○	○	○	15
	定期考査						○	○		1
3 学 期	物語 ・登場人物の関係、その行動や心情をとらえ、人物や事件について、作者がどのように思っているかを考え、さまざまな人物像を通して人間の生き方について考えを深める。	【教材名】 『源氏物語』 「光源氏の誕生」	○	○	○	積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	○	○	○	18
	定期考査						○	○		1
										合計 81

国語 科目 論理国語

單位數： 2 單位

使用教科書：（ 大修館書店『論理国語』 ）

の目標：

【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に関心し自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			話・聞	書	読					
1 学 期	評論 ・評論の基本的な読み方を習得する。 ・「言葉・世界・共同体」について、自分自身のあり方も踏まえて理解を深める。	【教材名】 『対話の精神』 『家族化するペット』	○	○	○	・内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしなが、要旨を正確に把握している。 ・関連する文章を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を多角的に深めている。	○	○	○	10
	定期考査						○	○		1
	評論 ・評論の読み方を文脈・段落・話題・全体要旨・問題意識・文章構成から主題への流れを踏まえて読む力をつける。 ・「科学の可能性・思考」について、自分自身のあり方を踏まえて理解を深める。	【教材名】 『自己をモデル化する知能』 『スキーマと記憶』	○	○	○	・内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしなが、要旨を把握している。 ・引用された小説の内容に関心を持ち、調べたり読んだりしている。	○	○	○	10
	定期考査						○	○		1
2 学 期	評論 ・文脈・段落・話題・全体要旨・問題意識・文章構成から主題への流れを踏まえて読む力をつける。	【教材名】 『こころ』 夏目漱石小説選 『現代日本の開化』	○	○	○	・内容や構成、論理の展開などを的確にとらえている。 ・小説の内容に関心を持ち、調べたり読んだりしている。	○	○	○	10
	定期考査						○	○		1
	評論 ・評論の読み方を文脈・段落・話題・全体要旨・問題意識・文章構成から主題への流れを踏まえて読む力をつける。 ・「日本語の多様性」について、自分自身のあり方を踏まえて理解を深める。	【教材名】 『「方言コスプレ」現象』	○	○	○	・思想や考え方について、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めている。	○	○	○	10
	定期考査						○	○		1
3 学 期	評論 ・評論の読み方を文脈・段落・話題・全体要旨・問題意識・文章構成から主題への流れを踏まえて読む力をつける。 ・「社会・グローバル化」について、自分自身のあり方を踏まえて理解を深める。	【教材名】 『分かち合う社会』 『心に「海」を持って』	○	○	○	・多面的多角的視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。 ・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。	○	○	○	12
	定期考査						○	○		1 合計 57

单位数： 2 单位

の目標：

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

[illegible]

单位数： 4 单位

)

の目標：

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

の目標：

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			話・ 聞	書	読					
1 学 期	物語 ・作者のものの見方や感じ方また教 養などについて理解する。 ・各章段の内容を、執筆と流布の経 緯に結びつけて理解する。	【教材名】 源氏物語	○	○	○	・古典の作品や文章の種類とその特徴につ いて理解を深めている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏ま えて、構成や展開などを的確にとらえている。	○	○	○	20
	定期考査						○	○		1
	随筆・日記 ・現代の社会と結びつけて古典文学 の世界を理解する。	【教材名】 枕草子 蜻蛉日記	○	○	○	・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成 や展開の仕方について理解を深めている。 ・平安時代の貴族文化を踏まえて、登場人物 の境遇や心情を理解しようとしている。	○	○	○	20
	定期考査						○	○		1
	歴史物語 ・登場人物の人物像、行動や心情を 捉え、作者がどのように捉えている かを考える。	【教材名】 大鏡	○	○	○	・「読むこと」において、文章の種類を踏ま えて、古典特有の表現に注意して内容を的確 にとらえている。 ・歴史物語に興味を持ち、歴史と物語の違 いについて、自分の考えを持とうとしている。	○	○	○	20
2 学 期	定期考査						○	○		1
	・問題演習を通して、文法事項や重 要語句についての知識や理解を深 め、古文の読解力を身に着ける。	【教材名】 「読解力を鍛える 発展」	○	○	○	・「読むこと」において、文章の種類を踏ま えて、古典特有の表現に注意して内容を的確 にとらえている。 ・時代背景を踏まえて、筆者の考えや論理展 開を理解しようとしている。	○	○	○	20
	定期考査						○	○		1
3 学 期										
										合計
										84

国語 科目 論理国語

單位數： 2 單位

使用教科書：（ 数研出版『精選論理国語』 ）

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 効果的な段落の構造や論の形式など文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わるうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学期	評論Ⅰ ・二項対立による比較対照に着目し、評論の基本的な読み方に習熟する。 ・異文化理解と言語や文化の壁の乗り越え方や考え方を理解する	【教材名】 『超えて行く翻訳』『「文化が違ふ」とは何を意味するのか?』	○	○	○	・文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について十分に理解し、正しく活用している。 ・内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。	○	○	○	10
	定期考査						○	○		1
	評論Ⅱ ・筆者の主張を踏まえて、「生命らしい知性」とは何か考察する。 ・状況に依存した思考とは具体的にどのようなことか説明する。	【教材名】 「生命の知性」「意志と選択」	○	○	○	・内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら、要旨を把握している。 ・効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。	○	○	○	10
	定期考査						○	○		1
2 学期	・「美」や「無常」について筆者はどのようなことを言おうとしているのかを具体例を手がかりにとらえ、考察する。 ・筆者の考える「歴史」について、自分の考える「歴史」と比較しながら話し合う。 ・文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確にとらえるとともに、小説を読み解く視点を広げる。	【教材名】 『無常ということ』『舞姫』	○	○	○	・内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら、要旨を把握している。 ・引用された小説の内容に関心を持ち、調べたり読んだりしている。	○	○	○	10
	定期考査						○	○		1
	評論Ⅲ ・労働を「アイデンティティを承認されるための必須条件」とする筆者の主張を具体的に理解する。 ・「労働」についての自分の考えを根拠とともに論述する。 ・論の展開をふまえ、逆説的な表現の内容を説明したり、筆者の主張の根拠をまとめたりする。 ・引用という表現技法の働きを引用以外の文章との関連性からとらえる。	【教材名】 『人はなぜ働かなくてはならないのか』『顔の所有』	○	○	○	・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。	○	○	○	10
	定期考査						○	○		1
3 学期										
										合計
										44

科目 論理国語演習

单位数： 2 单位

使用教材：（ いいずな書店『大学入試トライアル私大対策論理20』 桐原書店『徹底演習新しい共通テスト国語対策問題集現代文30』 ）

の目標：

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。 ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが要旨を把握している。 ・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。	・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めようとしている。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが要旨を把握しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・ 聞	書・ 読					
1 学期	問題演習 1 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが重要を把握する。	問題演習		○ ○	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが重要を把握している。		○	○ ○	20
	定期考査						○ ○		1
2 学期	問題演習 2 ・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。	問題演習		○ ○	・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。		○	○ ○	20
	定期考査						○ ○		1
	問題演習 2 ・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。	問題演習		○ ○	・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。		○	○ ○	20
	定期考査						○ ○		1
3 学期									
									合計
									63

教科 ： 地理歴史 科目 ： 地理総合

対象学年組 ： 第1学年A組～F組

教科担当 ： （A組 ：西村秀樹） （B組 ：西村秀樹） （C組 ：西村秀樹） （D組 ：西村秀樹） （E組 ：西村秀樹） （F組 ：西村秀樹）

使用教科書 ： 帝国書院 高等学校 新地理総合

教科 地理歴史科の目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

科目 地理総合の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に取り組む態度等】
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知	思	態	配当
Ⅰ 地図でとらえる現代世界 （１）「知識及び技能」 現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解すること。 日常生活の中で見られる様々な地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解すること。 （２）「思考力・判断力・表現力等」 現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現すること。 地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現すること。 （３）「主体的に取り組む態度等」 地図をもちいた現代社会の学習に主体的に関わり、見通しをもって学習し、科学的に探究しようとする態度を養う。	①地図と地理情報システム ・地球上の位置と時差 ・地図の役割と種類 ②結び付きを深める現代世界 ・現代世界の国家領域 ・グローバル化する世界	（１）「知識及び技能」 現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解している。 日常生活の中で見られる様々な地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。 現代世界の様々な地理情報について、地図や地理情報システム （２）「思考力・判断力・表現力等」 現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現している。 地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現している。 （３）「主体的に取り組む態度等」 地図をもちいた現代社会の学習に主体的に関わり、見通しをもって学習し、科学的に探究しようとしている。	○			10
				○		10
					○	
Ⅱ 国際理解と国際協力 （１）「知識及び技能」 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解すること。 世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解すること。 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解すること。 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることなどについて理解すること。 （２）「思考力・判断力・表現力等」 世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現すること。 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現すること。 （３）「主体的に取り組む態度等」 国際理解と国際協力の学習に主体的に関わり、見通しをもって学習し、科学的に探究しようとする態度を養う。	③生活文化の多様性と国際理解 ・生活文化の多様性 ・世界の地形と人々の生活 ・世界の気候と人々の生活 ・世界の言語・宗教と人々の生活 ・歴史的背景と人々の生活 ・世界の産業と人々の生活 ④地球的課題と国際協力 ・地球的課題と持続可能な社会 ・地球環境問題 ・資源・エネルギー問題 ・人口問題 ・食料問題 ・都市・居住問題 ・地球的課題の解決に向けて	（１）「知識及び技能」 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることなどについて理解している。 （２）「思考力・判断力・表現力等」 世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。 （３）「主体的に取り組む態度等」 国際理解と国際協力の学習に主体的に関わり、見通しをもって学習し、科学的に探究しようとしている。	○			10
				○		10
					○	

III 持続可能な地域づくりと私たち (1)「知識及び技能」 我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解すること。 ）様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付けること。 生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解すること。	⑤自然環境と防災 ・日本の自然環境 ・地震・津波と防災 ・火山災害と防災 ・気象災害と防災 ・自然災害への備え	(1)「知識及び技能」 我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。 様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付けている。 生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解している。	○			10
		(2)「思考力・判断力・表現力等」 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現すること。 生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。		○		10
		⑥生活圏の調査と地域の展望 ・生活圏の調査と地域の展望	(3)「主体的に取り組む態度等」 持続可能な地域づくりの学習に主体的に関わり、見通しをもって学習し、科学的に探究しようとする態度を養う。		○	

高等学校 令和8年度（3学年用）教科 地理歴史 科目 地理演習

教科： 地理歴史 科目： 地理演習 単位数： 4 単位

対象学年組：第 3 学年 E 組～ 組

教科担当：（ E組：西村秀樹 （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ）

使用教科書：（ ）

教科 地理歴史

の目標： 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

- 【知識及び技能】 現代世界の地域的特色とその地域及び世界の歴史との関連性を理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関する諸事象の意味や意義、特色や相互の関連を、多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題解決に向けて構想する力や、考察・構想したことを効果的に説明したりする力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。又、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、市民としての自覚、我が国の国土や歴史を大切にする気持ち、他国や他国の文化を尊重する心を育てる。

科目 地理演習		の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解する。又、地図や地理情報システムなどを用いた調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けるようにする。さらに、進路希望に合わせ共通テストや国公立大学・私立大学入試に対応できる知識・技能を身に付けさせる。	地理に関する事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に多面的・多角的な方向から考察し、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を養う。又、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に、議論したりする力を養う。	地理に関する諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探求しようとする態度を養うとともに、多面的多角的な考察や深い理解をする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	A．現代世界の系統地理的考察 【知識及び技能】 資源・エネルギー・工業・第3次産業に関する諸事象を基に、それらの事象の規則性、傾向性を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 資源・エネルギー・工業・第3次産業に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 資源・エネルギー・工業・第3次産業に関する課題について、関心と問題意識を高め、意欲的に解決しようとする姿勢を育む。	・第2章3節 エネルギー・鉱産資源 ・第2章4節 資源・エネルギー問題 ・第2章5節 工業 ・第2章6節 第3次産業 ※上記の内容に関する過去の入試問題についての演習 ※進度によっては、第4章人口、村落・都市に入る。	【知識及び技能】 資源・エネルギー・工業・第3次産業に関する諸事象を基に、それらの事象の規則性、傾向性を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 資源・エネルギー・工業・第3次産業に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 資源・エネルギー・工業・第3次産業に関する課題について、関心と問題意識を高め、自ら解決のため行動する姿勢が見られる。	○	○	○	24
	定期考査			○	○	○	1
	A．現代世界の系統地理的考察 【知識及び技能】 人口・村落・都市に関する諸事象を基に、それらの事象の規則性、傾向性を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 人口・村落・都市に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 人口・村落・都市に関する課題について、関心と問題意識を高め、意欲的に解決しようとする姿勢を育む。	・第4章人口、村落・都市 ※上記の内容に関する過去の入試問題についての演習	【知識及び技能】 人口・村落・都市に関する諸事象を基に、それらの事象の規則性、傾向性を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 人口・村落・都市に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 人口・村落・都市に関する課題について、関心と問題意識を高め、意欲的に解決しようとする姿勢を育もうとしている。	○	○	○	8
	B．現代世界の地誌的考察 【知識及び技能】 ・地域概念や地域区分の意義を理解する。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などを理解し、世界各国と日本との関係についても把握できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・地域区分概念・意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などについて、日本との関係も考えながら、様々な視点より考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・地域区分概念・意義を理解し、それを活用しようとする姿勢が身に付く。 ・世界各国と日本との関係を深く考え、より良い関係を築くための努力ができる。	・第1章現代世界の地域区分 ・第2章現代世界の諸地域 序節 地域の考察方法 1節 中国 2節 韓国 3節 ASEAN諸国 ※上記の内容に関する過去の入試問題についての演習	【知識及び技能】 ・地域概念や地域区分の意義を理解している。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などを理解し、世界各国と日本との関係についても把握している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・地域区分概念・意義を多面的・多角的に考察している。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などについて、日本との関係も考えながら、様々な視点より考察している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・地域区分概念・意義を理解し、それを活用しようとする姿勢が見られる。 ・世界各国と日本との関係を深く考え、より良い関係を築くため自ら努力しようと考えている。	○	○	○	16
	定期考査			○	○	○	1

2 学 期	B . 現代世界の地誌的考察 【知識及び技能】 ・地域 の概念や地域区分の意義を理解する。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などを理解し、世界各国と日本との関係についても把握できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・地域区分の概念・意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などについて、日本との関係も考えながら、様々な視点より考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・地域区分の概念・意義を理解し、それを活用しようとする姿勢が身に付く。 ・世界各国と日本との関係を深く考え、より良い関係を築くための努力ができる	・第2章現代世界の諸地域 4節 インド 5節 西アジアと中央アジア 6節 北アフリカとサハラ以南アフリカ ※上記の内容に関する過去の入試問題についての演習	【知識及び技能】 ・地域 の概念や地域区分の意義を理解している。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などを理解し、世界各国と日本との関係についても把握している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・地域区分の概念・意義を多面的・多角的に考察している。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などについて、日本との関係も考えながら、様々な視点より考察している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・地域区分の概念・意義を理解し、それを活用しようとする姿勢が見られる。 ・世界各国と日本との関係を深く考え、より良い関係を築くため自ら努力しようと考えている。	○	○	○	10
	B . 現代世界の地誌的考察 【知識及び技能】 ・地域 の概念や地域区分の意義を理解する。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などを理解し、世界各国と日本との関係についても把握できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・地域区分の概念・意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などについて、日本との関係も考えながら、様々な視点より考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・地域区分の概念・意義を理解し、それを活用しようとする姿勢が身に付く。 ・世界各国と日本との関係を深く考え、より良い関係を築くための努力ができる	・第2章現代世界の諸地域 7節 EU諸国 8節 ロシア 9節 アメリカ合衆国 ※上記の内容に関する過去の入試問題についての演習	【知識及び技能】 ・地域 の概念や地域区分の意義を理解している。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などを理解し、世界各国と日本との関係についても把握している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・地域区分の概念・意義を多面的・多角的に考察している。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などについて、日本との関係も考えながら、様々な視点より考察している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・地域区分の概念・意義を理解し、それを活用しようとする姿勢が見られる。 ・世界各国と日本との関係を深く考え、より良い関係を築くため自ら努力しようと考えている。	○	○	○	18
	定期考査			○	○	○	1
	B . 現代世界の地誌的考察 【知識及び技能】 ・地域 の概念や地域区分の意義を理解する。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などを理解し、世界各国と日本との関係についても把握できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・地域区分の概念・意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などについて、日本との関係も考えながら、様々な視点より考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・地域区分の概念・意義を理解し、それを活用しようとする姿勢が身に付く。 ・世界各国と日本との関係を深く考え、より良い関係を築くための努力ができる	・第2章現代世界の諸地域 10節 ラテンアメリカ 11節 オーストラリアとニュージーランド ※上記の内容に関する過去の入試問題についての演習	【知識及び技能】 ・地域 の概念や地域区分の意義を理解している。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などを理解し、世界各国と日本との関係についても把握している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・地域区分の概念・意義を多面的・多角的に考察している。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などについて、日本との関係も考えながら、様々な視点より考察している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・地域区分の概念・意義を理解し、それを活用しようとする姿勢が見られる。 ・世界各国と日本との関係を深く考え、より良い関係を築くため自ら努力しようと考えている。	○	○	○	10
	C . 現代世界におけるこれからの日本の国土像 【知識及び技能】 現代世界における日本の国土の特色や課題について、多角的で客観的な視点を身に付けることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 日本が抱える地理的な諸課題の形成要因について考察し、その過程や結果を表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 日本が抱える地理的な諸課題に対する問題意識を高め、意欲的に探求しようとしている。	・第1章持続可能な国土像の探究 ※上記の内容に関する過去の入試問題についての演習 ・地理総合・地理探究全体に関する受験問題演習 ※進捗の関係や進路希望によって、指導の順序や配当時間の変更の可能性もある。	【知識及び技能】 現代世界における日本の国土の特色や課題について、多角的で客観的な視点を身に付けようとしている。 【思考力、判断力、表現力等】 日本が抱える地理的な諸課題の形成要因について考察し、その過程や結果を表現できている。 【学びに向かう力、人間性等】 日本が抱える地理的な諸課題に対する問題意識を高め、意欲的に探求しようという姿勢が見られる。	○	○	○	14
3 学 期	定期考査			○	○	○	1
	受験問題演習	受験問題演習					
							合計 104

調布南高等学校 令和 8 年度 教科 地理歴史 科目 世界史探究

教 科： 地理歴史 科 目： 世界史探究 単位数： 4 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組 D 組

教科担当者：（A組： 荒井 ）（D組： 荒井 ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）

使用教科書：（ 山川出版社「世界史探究 詳説世界史」 ）

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して高養される日本国民として、我が国の風土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 世界史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を視野に入れて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して高養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A. 世界史へのまなざし 【知識及び技能】 人類の誕生と地球規模での拡散・移動を基に、人類の歴史と地球環境との関わりを理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 諸事象を捉えるための時間の尺度や、諸事象の空間的な広がりに着目し、主題を設定し、地球の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性を考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 世界史へのまなざしについて主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み、科学的に探求しようとする態度を養うこと。	世界史へのまなざし① 世界史へのまなざし②	【知識・技能】 ・人類の誕生と地球規模での拡散・異動を基に、人類の歴史と地球環境との関わりを理解している。 ・衣食住、家族、教育、余暇などの身の回りの諸事象を基に、私たちの日常生活が世界の歴史とつながることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・諸事象を捉えるための時間の尺度や、諸事象の空間的な広がりに着目し、主題を設定し、地球の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性を考察している。 ・諸事象の来歴や変化に着目して、主題を設定し、身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性を考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 自然環境と人類の進化について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	B. 諸地域の歴史的特質の形成 【知識及び技能】 オリエント文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的特質を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の文明について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み、科学的に探求しようとする態度を養うこと。	第1章 文明の成立と古代文明の特質	【知識・技能】 諸地域の風土が、それぞれの地で多様な生業とそれに基づく先史文化を生み出したこと、各地で人々の移動や交流がおこなわれたことを理解している。 【思考・判断・表現】 様々な資料をもとに、富や地位の差が生まれていった背景や原因、当時の政治や支配のあり方、当時の社会の特徴や世界の歴史に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	16
	1 学期中間考査			○	○		1
	B. 諸地域の歴史的特質の形成 【知識及び技能】 東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解すること。 南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解すること。 西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解すること。 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成について理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 概ね8世紀以前の諸地域の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、社会や文化の特色、宗教を基盤とした国家の特徴、周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の歴史的特質の形成について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み、科学的に探求しようとする態度を養うこと。	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成 第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	【知識・技能】 概ね8世紀以前の世界について、諸地域がそれぞれどのようにして独自の世界を形づくっていったのかを、それまでの時代や他の地域との違いや、時期ごとの変化をふまえたうえで理解している。 【思考・判断・表現】 概ね8世紀以前の世界について、様々な資料をもとに、それぞれの社会の特徴や近隣諸国との関係およびその変遷を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の歴史的特質の形成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	24
	1 学期期末考査			○	○		1

2 学 期	C. 諸地域の交流と再編 【知識及び技能】 概ね8～13世紀の世界について、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解すると共に、諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を構造的に理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 諸地域の交易とヨーロッパの進出に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、8～13世紀の世界における交流と再編について多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の交流と再編について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み科学的に探究しようとする態度を養うこと。	第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開 第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国	【知識・技能】 概ね8～13世紀の世界について、イスラーム世界・中世ヨーロッパ世界・東アジア世界が各々再編を経て、モンゴル帝国の下に統合をみる経緯を理解している。 【思考・判断・表現】 概ね8～13世紀の世界について、様々な資料をもとに、諸地域の交流・再編に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し、問いを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の交流と再編について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	28
	2学期中間考査			○	○		1
	C. 諸地域の交流と再編 【知識及び技能】 概ね14～18世紀の世界について、アジア諸地域の特質、及び主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 アジア諸地域及びヨーロッパ諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、14～18世紀の世界における交流と再編について多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の交流と再編について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み科学的に探究しようとする態度を養うこと。	第9章 大交易・大交流の時代 第10章 アジアの諸帝国の繁栄	【知識・技能】 概ね14～18世紀の世界について、ヨーロッパ主導の世界の一体化が始まる一方で、アジアにおいて多民族国家形成の試みが進められたことを理解している。 【思考・判断・表現】 概ね14～18世紀の世界について、ヨーロッパの海洋進出が諸地域にもたらした影響、及び清・オスマン帝国・ムガル帝国により構築された多民族共存のシステムが示唆する今日的意義を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の交流と再編について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	24
	2学期期末考査			○	○		1
3 学 期	C. 諸地域の交流と再編 【知識及び技能】 概ね14～18世紀の世界について、アジア諸地域の特質、及び主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 アジア諸地域及びヨーロッパ諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、14～18世紀の世界における交流と再編について多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の交流と再編について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み科学的に探究しようとする態度を養うこと。	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向	【知識・技能】 概ね14～18世紀の世界について、ルネサンスと宗教改革、主権国家体制の成立と市民革命、科学革命の具体的様相を理解している。 【思考・判断・表現】 概ね14～18世紀の世界について、様々な資料をもとに、宗教改革が今日のヨーロッパの宗派分布とキリスト教の世界伝播に与えた影響、主権国家体制が今日の国際関係の基盤を成していること、及び科学革命が今日の合理的思考の前提を提供したことについて、多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の交流と再編について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	40
	学年末考査			○	○		1
							合計
							145

高等学校 令和8年度

教科 地理歴史

科目 世界史演習

教科 地理歴史

科目 世界史演習

単位数 4 単位

対象学年組 第 3 学年 A 組～ F 組

教科担当者 (A組 荒井) (B組 荒井) (C組 荒井) (D組 荒井) (E組 荒井) (F組 荒井)

使用教科書 (山川出版社「世界史探究 詳説世界史」)

教科 地理歴史

の目標

【知識及び技能】現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や読資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 世界史演習

の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	D. 諸地域の結合・変容 【知識及び技能】 産業革命とアメリカ独立、フランス革命とナポレオンの展開などを基に、国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 大西洋両岸諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けて、産業革命やアメリカ独立、フランス革命につき多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の結合・変容について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み、科学的に探求しようとする態度を養うこと。	第12章 産業革命と環大西洋革命 「歴史総合」における既習範囲のため、簡単に復習する。 テーマ史・文化史の視点を交えて説明する。 30～90字程度の論述問題に関する技法の説明・演習を行う。	【知識・技能】 概ね18世紀後半の世界について、国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 概ね18世紀後半の世界について、様々な資料をもとに、産業革命と市民革命が今日の世界に残した遺産である“国民国家”の理念について、今日の世界におけるグローバリゼーションの潮流と比較・検討しつつ多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の結合・変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	D. 諸地域の結合・変容 【知識及び技能】 自由主義とナショナリズム、南北戦争の展開などを基に、国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 大西洋両岸諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けて、自由主義とナショナリズムの特徴、南北アメリカの変容につき多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の結合・変容について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み、科学的に探求しようとする態度を養うこと。	第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 「歴史総合」における既習範囲のため、簡単に復習する。 テーマ史・文化史の視点を交えて説明する。 30～90字程度の論述問題に関する技法の説明・演習を行う。	【知識・技能】 概ね19世紀前半の世界について、国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 概ね19世紀前半の世界について、様々な資料をもとに、当時の国際関係の基調が英露間の“グレート＝ゲーム”を軸に展開したことを、地政学やシーレーン防衛の観点から今日の中ロの動向と比較・検討しつつ多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の結合・変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	16
	1 学期中間考査			○	○	○	1
	D. 諸地域の結合・変容 【知識及び技能】 国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と諸改革などを基に、世界市場の形成とアジア諸国の変容を構造的に理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 世界市場の形成とアジア諸国の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けて、イギリスの覇権的特徴、アジア諸国の変容の地域的な特徴につき多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の結合・変容について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み、科学的に探求しようとする態度を養うこと。	第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 第14章 アジア諸地域の動揺 「歴史総合」における既習範囲のため、簡単に復習する。 テーマ史・文化史の視点を交えて説明する。 30～90字程度の論述問題に関する技法の説明・演習を行う。	【知識・技能】 概ね19世紀後半の世界について、世界市場の形成とアジア諸国の変容を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 概ね19世紀後半の世界について、様々な資料をもとに、欧米からの外圧に対処したアジア諸国の取組を、今日のNies諸国やBRICS諸国の台頭や地域経済協力の現状と比較・検討しつつ、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の結合・変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	24
	1 学期期末考査			○	○	○	1

2 学 期	D. 諸地域の結合・変容 【知識及び技能】 第二次産業革命と帝国主義諸国の抗争、アジア諸国の変革などを基に、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 列強の対外進出とアジア・アフリカの動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けて、世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の共通点と相違点、アジア諸国のナショナリズムの特徴につき多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の結合・変容について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み、科学的に探求しようとする態度を養うこと。	第15章 帝国主義とアジアの民族運動 「歴史総合」における既習範囲のため、簡単に復習する。 大学入学共通テスト、及び受講者の志望大学に沿った大学入試問題の演習を行う。	【知識・技能】 概ね19世紀後半の世界について、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 概ね19世紀後半の世界について、様々な資料をもとに、帝国主義の実態と問題点について、「一帯一路」構想などに象徴される中華人民共和国の今日における動向と比較・検討しつつ、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の結合・変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	14
	D. 諸地域の結合・変容 【知識及び技能】 第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成、アメリカ合衆国の台頭、アジア・アフリカの動向とナショナリズムを基に、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 第一次世界大戦と大戦後の諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けて読み解き、大戦後の国際協調主義とアジア・アフリカのナショナリズムを多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の交流と再編について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み科学的に探究しようとする態度を養うこと。	第16章 第一次世界大戦と世界の変容 「歴史総合」における既習範囲のため、簡単に復習する。 大学入学共通テスト、及び受講者の志望大学に沿った大学入試問題の演習を行う。	【知識・技能】 概ね20世紀前半の世界について、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 概ね20世紀前半の世界について、様々な資料をもとに、覇権国家が英から米へ推移する有様、及び「民族自決」の実態を、20世紀における米ソ対立、及び今日の民族紛争などと比較・検討しつつ、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の結合・変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	14
	2学期中間考査			○	○	○	1
	D. 諸地域の結合・変容 E. 地球世界の課題 【知識及び技能】 世界恐慌から冷戦終結に至る国際情勢を基に、国際関係の緊張と対立を構造的に理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 世界恐慌から冷戦終結に至る諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けて読み解き、20世紀における国際関係の変化とアジア諸地域の独立について多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の結合・変容について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み、科学的に探求しようとする態度を養うこと。	第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 第18章 冷戦と第三世界の台頭 「歴史総合」における既習範囲のため、簡単に復習する。 大学入学共通テスト、及び受講者の志望大学に沿った大学入試問題の演習を行う。	【知識・技能】 概ね20世紀後半までの世界について、国際関係の緊張と対立を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 概ね20世紀後半までの世界について、様々な資料をもとに、間戦期における国際協調の破綻から冷戦終結に至る経緯を、今日の地球社会に直接的な教訓を与える時代という面から多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の結合・変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	24
	2学期期末考査			○	○	○	1
3 学 期	大学入試問題演習	必要に応じて、個別指導を行う。					40
	学年末考査			○	○	○	1
							合計
							145

高等学校 令和8年度（2 学年用）教科 地理歴史科 科目 日本史探究			
教 科： 地理歴史科	科 目： 日本史探究	単位数： 4	単位
対象学年組：第 2 学年 A 組～ D 組			
教科担当者：（ B組:橋場 ） （ C組:橋場 ） （ E組:橋場 ） （ F組:橋場 ）			
使用教科書：（ 日本史探究『詳説日本史』 ）			
教科 地理歴史科 の目標：			
【知識及び技能】日本列島の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。			
【思考力、判断力、表現力等】歴史事象の意味や意義、特色や相互の関連を概念的に理解し、多面的・多角的に考察したり、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。			
【学びに向かう力、人間性等】歴史事象について、主体的に理解しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、日本や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。			
科目 日本史探究 の目標：			

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 日本文化のあけぼの 【知識及び技能】 人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づく。 【学びに向かう力、人間性等】 資料や地図、表などから情報を読み取り、考えることができる。	1 文化の始まり 日本列島と日本人／旧石器人の生活／縄文文化の成立／縄文人の生活と信仰 2 農耕社会の成立 弥生文化の成立／弥生人の生活／小国の分立／邪馬台国連合	【知識・技能】 日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解している。 【思考・判断・表現】 黒曜石などの考古資料をもとに、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、旧石器文化や縄文文化の特色を明らかにしようとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○	○	10
	第2章 古墳とヤマト政権 【知識及び技能】 地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 【思考力、判断力、表現力等】 ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 資料や地図、表などから情報を読み取り、考えることができる。	1 古墳文化の展開 古墳の出現とヤマト政権／前期中期の古墳／東アジア諸国の交渉／大陸文化の受容／後期の古墳／古墳時代の人々の生活／ヤマト政権と政治制度／古墳の終末 2 飛鳥の朝廷 東アジアの動向とヤマト政権の発展／飛鳥の朝廷と文化	【知識・技能】 国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解している。 【思考・判断・表現】 中国の歴史書の記事、日本列島内外の金石文、小国の王墓の副葬品などをもとに、中国大陸・朝鮮半島との交渉がもつ意味や、小国の形成過程について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、小国の形成について考察することを通じ、古墳文化の展開とのつながりを見出そうとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	第3章 律令国家の形成 【知識及び技能】 律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 【思考力、判断力、表現力等】 平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 資料や地図、表などから情報を読み取り、考えることができる。	3 律令国家の形成 律令国家への道／平城京の時代／律令国家の文化／律令国家の変容	【知識・技能】 隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解している。 【思考・判断・表現】 天智朝・天武朝・持統朝の政治動向に着目して、律令体制整備の過程について考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響などに着目して、律令体制の成立過程とのつながりを明らかにしようとしている。	○	○	○	26
2 学 期	定期考査			○	○		1
	第4章 貴族政治の展開 【知識及び技能】 大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 資料や地図、表などから情報を読み取り、考えることができる。	4 貴族生活の展開 摂関政治／国風文化／地方政治の展開と武士	【知識・技能】 藤原北家が権力を掌握していく過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。 【思考・判断・表現】 奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 唐の衰退と東アジア情勢の変化が日本社会に与えた影響を考察することを通じて、摂関政治期の社会の特色を明らかにしようとしている。	○	○	○	26
	定期考査			○	○		1

3 学 期	第5章 院政と武士の躍進 【知識及び技能】 院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 資料や地図、表などから情報を読み取り、考えることができる。	5 院政と武士の躍進 院政の始まり 院政と平氏政権	【知識・技能】 貴族政治や土地制度の変容などをもとに、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。 【思考・判断・表現】 武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 中世社会の特色について多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現し、追究しようとしている。	○	○	○	20
	第6章 武家政権の成立 【知識及び技能】 鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 資料や地図、表などから情報を読み取り、考えることができる。	6 武家政権の誕生 鎌倉幕府の成立 武士の社会 モンゴル襲来と幕府の衰退 鎌倉文化	【知識・技能】 諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。 【思考・判断・表現】 幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 鎌倉幕府の成立過程や封建制度の形成に関する課題を主体的に追究し、前の時代とのつながりを見出そうとしている。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
							合計
							137

教科 ： 公民 科目 ： 公共

対象学年組 ： 第 2 学年A組～F組

教科担当 ： （A組 ： 吉岡） （B組 ： 吉岡） （C組 ： 吉岡） （D組 ： 吉岡） （E組 ： 吉岡） （F組 ： 吉岡）

使用教科書 ： 実教出版 詳述公共

教科 公民科の目標	社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
【知識及び技能】	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

科目 公共の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 公共の扉						
（１）「知識及び技能」 ・自らの体験等を振り返り、人間としての在り方生き方について理解する。 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であること、対話を通して互いを理解したかめ合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取り組みや知恵に触れることなどを通して、自らの価値観を形成し他者の価値観を尊重することができる存在であることについて理解する。 ・よりよい公共的な空間を作り出す自立した主体になることがキャリア形成、よりよい社会の形成に結び付くことについて理解する。 ・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解する。 ・現代社会の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、様々な考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探究することが、よりよく生きていく上で重要なことについて理解する。 ・よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解する。 ・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解する。	「社会を作る私たち」 青年期 キャリア 日本の伝統文化等 「人間としてよく生きる」 ギリシア思想 宗教 人間の尊重、自由、尊厳 個人と社会 主体性の確立 他者の尊重 公正な社会等	（１）「知識及び技能」 ・自らの体験等を振り返り、人間としての在り方生き方について理解している。 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であること、対話を通して互いを理解したかめ合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取り組みや知恵に触れることなどを通して、自らの価値観を形成し他者の価値観を尊重することができる存在であることについて理解しようとしている。 ・よりよい公共的な空間を作り出す自立した主体になることがキャリア形成、よりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。 ・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 ・現代社会の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、様々な考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探究することが、よりよく生きていく上で重要なことについて理解している。 ・よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。 ・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。 ・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。	○	○	○	7
			○	○	○	7
			○	○	○	2
（２）「思考力・判断力・表現力等」 ・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現する。 ・倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。	「民主社会の倫理」 人間の尊厳と平等 自由と権利と責任・義務等	（２）「思考力・判断力・表現力等」 ・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ・倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	2
（３）「主体的に取り組む態度等」 ・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。 ・課題を追究したり解決したりする活動を通して公共的な空間における人間としての在り方生き方及び社会の在り方について関心を高め、課題を意欲的に追究する態度を養う。 ・課題を追究したり解決したりする活動を通して、選択・判断の手掛かりとなる行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方について理解できるようにするとともに、今後の学習で扱う社会的事象等について関心を高め、課題を意欲的に追究する態度を養う。 ・課題を追究したり解決したりする活動を通して、公共的な空間を作る上で、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図る基本的原理が必要であることや、そのような基本的原理を用いて、公共的な空間において生じる課題を考察することの大切さを理解できるようにする。		（３）「主体的に取り組む態度等」 ・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・課題を追究したり解決したりする活動を通して公共的な空間における人間としての在り方生き方及び社会の在り方について関心を高め、課題を意欲的に追究する態度を養おうとしている。 ・課題を追究したり解決したりする活動を通して、選択・判断の手掛かりとなる行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方について理解できるようにするとともに、今後の学習で扱う社会的事象等について関心を高め、課題を意欲的に追究する態度を養おうとしている。 ・課題を追究したり解決したりする活動を通して、公共的な空間を作る上で、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図る基本的原理が必要であることや、そのような基本的原理を用いて、公共的な空間において生じる課題を考察することの大切さを理解しようとしている。	○	○	○	2

2 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち （１）「知識及び技能」 ・法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。 ・政治参加と公正な世論の形成、地方自治、国家主権、領土（領海、領空を含む。）、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。 ・職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付け、課題を設定し、説明することができる。 （２）「思考力・判断力・表現力等」 ・法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。 （３）「主体的に取り組む態度等」 ・現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。 ・他者と協働して主題を追究したり解決したりする学習活動を通して、人間としての在り方生き方についての理解を深めつつ、法、政治及び経済などに関わるシステムの下で活動するために必要な知識及び技能、思考力、判断力、表現力等を身に付ける。 ・他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を通して、「憲法の下、適正な手続きに則のっとり、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解」できるようにする。 ・他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を通して、「よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解」できるようにする。 ・他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を通して、「公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重とを共に成り立たせることが必要であることについて理解」できるようにする。	「日本国憲法の基本的性格」 日本国憲法 平和主義 基本的人権 人権の広がり
---	---

高等学校 令和8年度（3 学年用）教科 公民 科目 政治・経済

教 科： 公民 科 目： 政治・経済 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 A 組～ F 組

教科担当者：（A組：大沢紘希）（B組：大沢紘希）（C組：大沢紘希）（D組：大沢紘希）（E組：大沢紘希）（F組：大沢紘希）

使用教科書：（ 実教出版 詳述 政治・経済 ）

教科 公民 の目標：

人間の尊厳と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに、自ら人間としての在り方生き方について考える力を養い、良識ある公民として必要な能力を育てる。

【知識及び技能】現代社会における諸課題を扱う中で、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させる。

【思考力、判断力、表現力等】現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚させる

【学びに向かう力、人間性等】現代社会について、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会など多様な角度から理解させるとともに、自己とのかかわりに着目して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察させる。

科目 政治・経済 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
政治・経済に関する事項について、身近な事象を事例として取り上げ、生徒が具体物を通じて政治的・経済的現象を考察できる能力を育てる。	政治的分野、経済的分野、国際関係分野の基本用語を正しく理解させ、用語の意味を自分の言葉で説明できるようにする。	授業ごとに学習事項についてのまとめを生徒に記述させたり、適宜レポートを課すなどして、要約力・表現力の向上を図る取組を実施する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A. 現代日本における政治・経済の諸課題 2. 現代日本の経済 【知識及び技能】 経済活動と市場、経済主体と経済循環、財政・金融の仕組み及び意義について、現実社会の諸事情を通してを理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 経済活動と社会福祉全般に関する事項に関して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。	・第1章 経済社会の変容 ・第2章 現代経済の仕組み	【知識及び技能】 ・経済の仕組みの歴史の変遷、資本主義の本質と課題に関して理解している。 ・市場の機能と各経済主体の役割等に関して理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 現代日本の経済の現状を踏まえつつ、現実社会の諸事情に関して、多面的・多角的に考察し、それを表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図ることができる。				9
	定期考查			○	○	○	1
	A. 現代日本における政治・経済の諸課題 2. 現代日本の経済 【知識及び技能】 経済活動と市場、経済主体と経済循環、財政・金融の仕組み及び意義について、現実社会の諸事情を通してを理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 経済活動と社会福祉全般に関する事項に関して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。	・第3章 現代経済と福祉の向上	【知識及び技能】 ・現代企業の特徴、経済成長、景気循環に関する事項について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 現代日本の経済の現状を踏まえつつ、現実社会の諸事情に関して、多面的・多角的に考察し、それを表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図ることができる。				13
	定期考查			○	○	○	1

2 学 期	A. 現代日本における政治・経済の諸課題 3. 現代日本における諸課題の探求 【知識及び技能】 少子高齢化における社会保障の充実・安定化、地域社会の自立等に関する事項を通して理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 社会保障、地方の活性化全般に関する事項に関して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。	・少子高齢化社会における社会保障の充実・安定化 ・地域社会の自立と政府	【知識及び技能】 ・少子高齢化の実態、推移等の事項に関して理解している。 ・社会保障の現実、課題等に関して十分理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 地方自治の本旨に基づく行政はどうあるべきか、住民と自治体の連携はどうあるべきか、多面的・多角的に考察し表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図ることができる。	○	○	○	5
	定期考査						
	A. 現代日本における政治・経済の諸課題 3. 現代日本における諸課題の探求 【知識及び技能】 少子高齢化における社会保障の充実・安定化、地域社会の自立等に関する事項を通して理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 社会保障、地方の活性化全般に関する事項に関して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。	・防災と安全安心な社会の実現	【知識及び技能】 ・地域社会の活性化に関する事項に関して理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 地方自治の本旨に基づく行政はどうあるべきか、住民と自治体の連携はどうあるべきか、多面的・多角的に考察し表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図ることができる。	○	○	○	10
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	・大学入試等への応用力養成 ・問題演習	個別指導		○	○	○	
	定期考査			○	○	○	1
							合計 41

高等学校 令和8年度（3 学年用）教科 公民 科目 政治・経済 演習

教 科： 公民 科 目： 政治・経済 演習 単位数： 4 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組選択者

教科担当者：（A～F組選択者：大沢絃希）

使用教科書： 浜島書店 最新図説 政経 2026
浜島書店 最新図説 公共 2025
啓隆社 ‘25共通テスト 実力トレーニング 公共、政治・経済
啓隆社 ‘26共通テスト 実力トレーニング 公共、政治・経済
授業プリント

教科 公民 の目標： 社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う

【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

科目 政治・経済 演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かおうとしている。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めようとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
B. グローバル化する国際社会の諸課題現代 1. 現代の国際政治 【知識及び技能】 国際政治と国際法の意義、国際連合の成立と活動、東西冷戦終結後の国際政治、核軍縮や管理について学習し、国際政治と日本の関係について考える。 【思考力、判断力、表現力等】 軍事力や力の政治によってのみでは、国際問題の最終的解決は不可能であり、国連をはじめとする多国間での協議の必要性、重要性に関し、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。	・国際政治の特質と国際法 ・現代国際政治の動向 ・国際連合と国際協力 上記各項目に関する問題演習	B. グローバル化する国際社会の諸課題現代 1. 現代の国際政治 【知識及び技能】 国際社会の変遷、人種、主権国家、領土などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛及び国際貢献について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 国際政治の特質や国際紛争の諸要因について把握し、国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について考察し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。	○	○	○	20
定期考査			○	○		1

1 学期	A. 現代日本における政治・経済の諸課題 2. 現代日本の経済 【知識及び技能】 現代の経済に関わる事象から課題を見いだし、その課題の本質や望ましい解決の在り方などについて、広い視野に立って多角的・多面的に考察し、様々な立場を踏まえながら公正に判断理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 現代の経済に関わる諸資料を様々な手段を通して収集し、かつ、集めた情報を主体的に選択し活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。 A. 現代日本における政治・経済の諸課題 3. 現代日本における諸課題の探求 【知識及び技能】 少子高齢社会と社会保障、地域経済の変貌と住民生活、雇用と労働を巡る問題、産業構造の変化と中小企業、農業と食糧問題などについて、政治と経済とを関連させて探求させる。 【思考力、判断力、表現力等】 社会保障、地方の活性化全般に関する事項に関して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。	・経済社会の変容 ・現代経済の仕組み ・現代経済と福祉の向上 ・少子高齢社会における社会保障の充実・安定化 ・地域社会の自立と政府 ・防災と安全安心な社会の実現 上記各項目に関する問題演習	【知識及び技能】 経済活動の意義、国民経済における家計、企業、政府の役割、市場経済の機能と限界、物価の動き、経済成長と景気変動、財政の仕組みと働き及び租税の意義と役割、金融の仕組みと働きについて理解させ、現代経済の特質について把握させ、経済活動の在り方と福祉の向上との関連を考察できる。 日本経済の発達の推移、中小企業問題、日本の農業、国民の生活、環境・公害問題、労働問題、社会保障の役割等について学習し、さまざまな課題にどのように取り組むべきか考えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 現代社会における諸課題に関して、政治経済他多方面の事象と関連付けながら、多面的・多角的に考察し、解決策等について表現している。 【思考力、判断力、表現力等】 国際協調の必要性や国際経済機関の役割について理解し、グローバル化が進む国際経済の特質について把握及び、国際経済における日本の役割について、多面的・多角的に考察し、それを表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図ることができる。	○		○	20	
	定期考査			○	○		1	
2 学期	B. グローバル化する国際社会の諸課題現代 2. 現代の国際経済 【知識及び技能】 貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支に関する事項について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 相互依存関係が深まる国際経済の特質について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。 B. グローバル化する国際社会の諸課題 3. 国際社会の諸課題の探求 【知識及び技能】 現代の政治・経済・国際関係に関わる事象から課題を見いだし、その課題の本質や望ましい解決の在り方などについて、広い視野に立って多角的・多面的に考察し、様々な立場を踏まえながら公正に判断している。 グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容に関して、理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々な手段を通して収集し、かつ、集めた情報を主体的に選択し活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。	・商品・資本の流れと国際収支 ・国際経済体制の変化 ・グローバル化と世界金融 ・紛争の解決に向けた国際社会の取り組み ・グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容。 ・イノベーションと市場経済 上記項目に関する問題演習	【知識及び技能】 貿易の意義、為替相場や国際収支の仕組み、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 グローバル化が進む国際経済の特質について把握し、国際経済における日本の役割について多面的に考察し、表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。 【知識及び技能】 現代の国際政治、国際経済、国際関係に関する基本的な事柄や理論などを理解し、その知識を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 国際社会の中で、民主主義がどのように実現されているか理解し、様々な国際機関の果たす役割に関して考察し、今後の国際社会のあるべき姿について考え、表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図ることができる。		○	○	○	20
	定期考査			○	○		1	
	・大学入試等への応用力養成 ・問題演習	個別指導						20
	定期考査			○	○			1
3 学期	・大学入試等への応用力養成 ・問題演習	個別指導		○	○	○		合計 84

年間授業計画

高等学校 令和8年度（1 学年用） 教科 数学 科目 数学 I

教科 数学 科目 数学 I 単位数 3 単位

対象学年組 第 1 学年 A 組～ F 組

教科担当者 (A 組：由良) (B 組：黒田) (C 組：岡田) (D 組：岡田) (E 組：黒田) (F 組：岡田)

使用教科書 (数研出版 NEXT 数学 I)

教科 数学 の目標

【知識及び技能】数学における基本的な概念や、原理・法則を体系的に理解する

【思考力、判断力、表現力等】数学を活用して事象を論理的に考察する力を養う

【学びに向かう力、人間性等】数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度を養う

科目 数学 I の目標

数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を
培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	A 式の計算・実数 【知識及び技能】 式を扱うための基本的な用語や計算方法、数の体系について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 数や式を多面的に見たり、目的に応じた式の変形ができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい計算方法や因数分解の方法について、考察する。 既習事項と関連付けて、数の体系を整理し考察する。	・多項式の加法・減法・乗法 ・因数分解 ・実数 ・根号を含む式の計算	【知識・技能】 2 次の乗法公式や因数分解の公式についての理解を深める。 実数について理解し、簡単な無理数の四則計算ができる。 【思考・判断・表現】 工夫することで式の展開を簡略化することができる。式によって適切な方法を判断して因数分解ができる。 実数を数直線上の点の座標として捉えることができる。絶対値を含む方程式や不等式を数直線上の距離の関係として捉えることができる。 場合分けをして絶対値を含む方程式や不等式を解くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 式変形の工夫について、その理由を振り返って考えたり、よりよい因数分解の方法について考察しようとする。	○	○	○	16
	B 1 次不等式 【知識及び技能】 不等式の解の意味や不等式の性質について理解する。 絶対値を含む方程式や不等式が解ける。 【思考力、判断力、表現力等】 不等式の性質をもとに 1 次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象についての問題解決に 1 次不等式を活用したりする。 【学びに向かう力、人間性等】 現実の問題について、必要な条件を選んで数学化し、それを解決する。また、得られた解を現実問題に当てはめ直し、それを考察する。	・1 次不等式 ・絶対値を含む方程式・不等式	【知識・技能】 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、1 次不等式の解を求めることができる。 【思考・判断・表現】 不等式の性質をもとに 1 次不等式を解く方法を考察する。 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、1 次不等式を問題解決に活用する。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題を解決する際に、既に学習した計算方法と関連付けて、式と多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりする。	○	○	○	10
	C 集合と命題 【知識及び技能】 集合と命題に関する基本的な概念や用語を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 命題に関する基本的な概念を用いて命題を証明できる。 【学びに向かう力、人間性等】 集合や命題の概念を活用して事象を考察できる。	・集合と条件 ・命題と証明	【知識・技能】 集合と命題に関する基本的な概念を理解する。 【思考・判断・表現】 集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明する。 【主体的に学習に取り組む態度】 集合や命題の概念を活用して事象を考察する。	○	○	○	10
	D 2 次関数とグラフ 【知識及び技能】 2 次関数のグラフの特徴について理解し、2 次関数のグラフがかけられる。 条件から 2 次関数を決定できる。 【思考力、判断力、表現力等】 2 次関数の最大値・最小値をグラフ	・2 次関数のグラフ ・2 次関数の最大・最小 ・2 次関数の決定 ※グラフの指導に 1 台端末を利用する	【知識・技能】 関数の定義を理解し、関数を式で表すことができる。 放物線の軸、頂点などについて理解し、2 次関数のグラフをかくことができる。平方完成ができる。 2 次関数の最大値・最小値を求めることができる。				

2 学 期	フを用いて求められる。それを様々な事象の考察に活用できる。 【学びに向かう力、人間性等】 数学の事象や日常生活の事象について、関数を用いて解決しようとする。		グラフが通る3点がわかっている2次関数を求めることができる。 【思考・判断・表現】 放物線の平行移動について、頂点の移動に着目して考察できる。 2次関数の軸、定義域と最大値・最小値の関係を正確に理解し、定義域や係数に文字を含む2次関数について、適切に場合分けして最大値・最小値を求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 数学の事象や日常生活の事象について、関数を用いて解決しようとする。	○	○	○	16
	E 2次方程式と2次不等式 【知識及び技能】 2次方程式、2次不等式が解ける。 【思考力、判断力、表現力等】 2次方程式や不等式の解について考察し、2次関数のグラフとx軸の交点と関連付けて考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 数学の事象や日常生活の事象について、2次方程式・2次不等式を用いて解決しようとする。	・2次方程式 ・2次関数のグラフとx軸の位置関係 ・2次不等式	【知識・技能】 2次方程式を解くことができる。 2次関数のグラフとx軸との共有点の座標を求めることができる。共有点の個数について判別式を用いて考えることができる。 2次の連立不等式を解くことができる。 【思考・判断・表現】 2次方程式を、その都度適切な方法で判断して解くことができる。 解がない場合などの特別な場合も含めて、2次関数のグラフを用いて2次不等式を解くことができることを理解し、その都度適切な方法を判断し、2次不等式を解くことができる。 2次関数のグラフとx軸の共有点の位置についてグラフを利用して解決できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 2次方程式・2次不等式の解を考察するのに2次関数のグラフを積極的に利用しようとする。 数学の事象や日常生活の事象について、2次不等式を用いて考察しようとする。	○	○	○	15
	F 三角比 【知識及び技能】 三角比の意味、基本的な性質について理解する。正弦定理、余弦定理について理解し、それらを用いて三角形の辺や角、面積を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 三角比を空間図形を含む様々な事象に活用できる。 【学びに向かう力、人間性等】 それぞれの定理や三角比の特徴の違いを考察しようとする。	・三角比 ・正弦定理・余弦定理 ・三角形の面積 ・空間図形への活用	【知識・技能】 三角比の定義を理解し、三角比を用いた計量を行うことができる。 正弦定理や余弦定理を適切に用いて、三角形の辺や角を求めることができる。 【思考・判断・表現】 具体的な事象における長さや角度について、三角比を用いて捉え、三角比の値から求めることができる。 正弦定理、余弦定理のうち、適切なものを判断し、種々の量を求めることができる。 三角比を活用して空間図形について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 三角比の相互関係を、三角比の定義や三平方の定理などから導出しようとする。 空間において実際に測れない長さなどを、三角比を活用して求めようとする。	○	○	○	24
	G データの分析 【知識及び技能】 統計の基本的な考えや種々の統計量、データの散らばりや相関を表す量について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 統計の基本的な考え、種々の統計量、データの散らばりや相関を表す量を用いてデータを分析し、様々な判断ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 範囲や四分位範囲、分散や標準偏差についてそれぞれの長所や短所を理解し、適切な指標を用いてデータの散らばりの度合いを判断しようとする。 変量の変換によって平均値や分散がどのように変わるか考察しようとする。	・データの整理・代表値 ・データの散らばりと四分位数 ・分散と標準偏差 ・相関係数 データの分析を活用した問題解決 ※データの分析の指導に1台端末を利用する	【知識・技能】 データの代表値、四分位数などを求めることができ、箱ひげ図を描くことができる。 分散、標準偏差を求めることができる。 相関係数を求めることができる。 【思考・判断・表現】 データの分布の仕方やデータの用途によって適切な代表値が異なることを理解し、適切な代表値を選ぶことができる。 データの散らばりの度合いを、範囲・四分位範囲・分散や標準偏差を用いて判断できる。 データを分析することで問題を解決し、その結論および過程について表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 範囲や四分位範囲、分散や標準偏差についてそれぞれの長所や短所を理解し、適切な指標を用いてデータの散らばりの度合いを判断しようとする。 変量の変換によって平均値や分散がどのように変わるか考察しようとする。	○	○	○	14

高等学校 令和8年度（1 学年用） 教科 数学 科目 数学A

教 科： 数学 科 目： 数学A 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 A組～ F組

教科担当者：（A組：黒田） （B組：岡田） （C組：阿久津） （D組：黒田） （E組：岡田） （F組：齊木）

使用教科書：（ 数研出版 NEXT 数学A ）

教科 数学 の目標：

【知 識 及 び 技 能】数学における基本的な概念や、原理・法則を体系的に理解する

【思考力、判断力、表現力等】数学を活用して事象を論理的に考察する力を養う

【学びに向かう力、人間性等】数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度を養う

科目 数学A の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	A集合 【知識及び技能】 集合に関する基本的な概念や用語を理解できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 1つの集合を複数の表し方で表現できるようにする。集合の包含関係を記号で正しく表現できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 3つ以上の集合についても、考察できるようにする。 B 順列 組合せ 【知識及び技能】 和の法則、積の法則の利用場面を理解し、事象に応じて使い分けて場合の数を求めることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 樹形図を用いて、場合の数をめれなくかつ重複なく数えることができるようにする 【学びに向かう力、人間性等】 場合の数の基本的な考え方を理解し、それを事象の考察に活用できるような態度を養う。	・集合 ・倍数の個数 ・樹形図 ・和の法則、積の法則	【知識・技能】 集合に関する基本的な用語や集合の要素の表し方を理解している。 和の法則、積の法則の利用場面を理解し、事象に応じて使い分けて場合の数を求めることができる。 【思考・判断・表現】 1つの集合を複数の表し方で表現することができる。 集合の包含関係を記号や日本語で正しく表現できる。 樹形図を用いて、場合の数をめれなくかつ重複なく数えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 3つ以上の集合についても共通部分や和集合について考察しようとする。 場合の数の基本的な考え方を理解し、それを事象の考察に活用できる。				8
	C 順列 組合せ 【知識及び技能】 順列の総数、階乗を記号で表し、それを活用できるようにする。組合せの総数を記号で表し、それを活用できるようにする。順列、組合せの総数を考察できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 条件が付く事象を、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 順列 組合せの基本的な考え方を理解し、それを事象の考察に活用できるような態度を養う。	・順列の考え方の利用 ・組合せの考え方の利用	【知識・技能】 順列の総数、階乗を記号で表し、それを活用できるようにする。組合せの総数を記号で表し、それを活用できるようにする。順列、組合せの総数を考察できる。 【思考・判断・表現】 樹形図を用いて、場合の数をめれなくかつ重複なく数えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 順列 組合せの基本的な考え方を理解し、それを事象の考察に活用できる。				
	D確率 【知識及び技能】 確率の定義から、その求め方が分かるようにする。独立試行、反復試行を、具体的な例から直観的にかんがえられるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 試行の結果を集合と結びつけて、事柄の起こりやすさを数量的にとらえられるようにする。条件付き確率の乗法定理の考えを積極的に活用させる。 【学びに向かう力、人間性等】 学んだ内容に関する課題について、主体的に学習し、数学の良さを探究する態度を養う。	・同様に確からしいときの確率 ・独立な試行の確率 ・条件付き確率 ・確率の乗法定理	【知識・技能】 確率の定義から、その求め方が分かるようにする。独立試行、反復試行を、具体的な例から直観的に考えられる。 【思考・判断・表現】 試行の結果を集合と結びつけて、事柄の起こりやすさを数量的にとらえられるようにする。条件付き確率の乗法定理の考えを積極的に活用させる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学んだ内容に関する課題について、主体的に学習し、数学の良さを探究できる。				8

2 学 期	A 約数と倍数 【知識及び技能】 約数・倍数の意味を理解させる。2数の最小公倍数は2数の素因数のすべてを因数とすることを理解させ、それを利用して問題を考察できるようにする 【思考力、判断力、表現力等】 平方数になる条件を、素因数分解の結果から考察できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 整数の整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用しようとする態度を養う。	・約数と倍数 ・倍数の判定 ・最大公約数・最小公倍数 ・素因数分解	【知識・技能】 約数・倍数の意味を理解している。倍数の判定法を理解している。2数の最小公倍数は2数の素因数のすべてを因数とすることを理解し、それを利用して問題を考察できる 【思考・判断・表現】 平方数になる条件を、素因数分解の結果から考察できる 【主体的に学習に取り組む態度】 整数の整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用しようとする	○	○	○	13
	Bユークリッドの互除法 【知識及び技能】 互除法の原理を理解させ、互除法を用いて2数の最大公約数を求められるようにする。1次不定方程式、整数解の意味を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 互除法の計算から最大公約数を表す式が導かれることを具体例から考察できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 整数の整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用しようとする態度を養う。	・ユークリッドの互除法 ・互除法の活用 ・一次不定方程式	【知識・技能】 互除法の原理を理解させ、互除法を用いて2数の最大公約数を求められる。1次不定方程式、整数解の意味を理解して。 【思考・判断・表現】 互除法の計算から最大公約数を表す式が導かれることを具体例から考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 整数の整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用しようとしている	○	○	○	7
	C 整数の性質の活用 【知識及び技能】 循環小数を表す記号を用いて、分数を循環小数で表現できるようにさせる。位取り記数法、10進法、2進法、n進法について理解させる。10進法の整数をn進法で表せるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 分数が整数、有限小数、循環小数のいずれかで表される理由を理解させる。 【学びに向かう力、人間性等】 整数の整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用しようとする態度を養う。	・分数と有限小数、循環小数の割り算のしくみ ・n進法 ・底の変換 ・n進法の小数	【知識・技能】 循環小数を表す記号を用いて、分数を循環小数で表現できる。位取り記数法、10進法、2進法、n進法について理解して。10進法の整数をn進法で表せる。 【思考・判断・表現】 分数が整数、有限小数、循環小数のいずれかで表される理由を理解して。 【主体的に学習に取り組む態度】 整数の整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用しようとしている。	○	○	○	5

3 学 期	A 平面図形 【知識及び技能】 線分の内分、外分の基本を理解させる。三角形の外心・内心・重心の定義、性質を理解させる。チェバの定理、メネラウスの定理を理解させる。円周角の定理を理解させる。 【思考力・判断力・表現力等】 図形の性質を証明するのに、既習事項を用いて論理的に考察できるようにする。円と接線と弦の作る角について、場合分けをしながら考察できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 平面図形の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用する態度を養う。	・三角形の外心 ・三角形の内心 ・三角形の重心 ・チェバの定理 ・メネラウスの定理 ・円周角の定理 ・円の接線と弦の作る角	【知識・技能】 線分の内分、外分の基本を理解している。三角形の外心・内心・重心の定義、性質を理解している。チェバの定理、メネラウスの定理を理解している。円周角の定理を理解している。 【思考・判断・表現】 図形の性質を証明するのに、既習事項を用いて論理的に考察できる。円と接線と弦の作る角について、場合分けをしながら考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 平面図形の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 平面図形の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用しようとしている。	○	○	○	18
	B 空間図形 【知識及び技能】 空間における2直線の位置関係やなす角を理解させる。正多面体の満たす条件を理解し、正多面体から切り取った立体がまた正多面体であることを示すことができるようにする 【思考力・判断力・表現力等】 空間における直線や平面が平行または垂直となるかどうかを、与えられた条件から考察できるようにする 【学びに向かう力、人間性等】 空間図形の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用する態度を養う。	・2直線の位置関係 ・直線と平面の位置関係 ・2平面の位置関係 ・正多面体から切り取った立体	【知識・技能】 空間における2直線の位置関係やなす角を理解させる。正多面体の満たす条件を理解し、正多面体から切り取った立体がまた正多面体であることを示すことができる。 【思考・判断・表現】 空間における直線や平面が平行または垂直となるかどうかを、与えられた条件から考察できる 【主体的に学習に取り組む態度】 空間図形の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用しようとしている。	○	○	○	7

年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅱ

教科： 数学 科目： 数学Ⅱ 単位数： 3 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ F 組

教科担当者： （A、B組：平川、金子、齊木） （C、D組：平川、齊木、金子） （E、F組：平川、由良、齊木）

使用教科書：（数研出版 NEXT 数学Ⅱ）

教科 数学 の目標：

（１）数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

（２）数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

（３）数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅱ の目標：

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力の育成を目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡素・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察できるようにする。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	C 複素数と二次方程式の解 【知識及び技能】 数を複素数まで拡張する意義を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用する。	・複素数とその計算 ・二次方程式の解 ・解と係数の関係	【知識・技能】 数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすること。 【思考・判断・表現】 2次方程式の解と係数の関係を理解し、使いこなせるようにする。与えられた2数を解にもつ2次方程式が作れる。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題を解決する際に、既に学習した計算方法と関連付けて、式と多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりする。	○	○	○	9
	D高次方程式 【知識及び技能】 因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求める。 【思考力、判断力、表現力等】 解と係数の関係を理解し、方程式をつくることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 数学の事象や日常生活の事象について、方程式を問題解決に活用する。	・剰余の定理と因数定理 ・高次方程式	【知識・技能】 因数定理を理解し、簡単な高次方程式を解くことができる。 【思考・判断・表現】 3次方程式の虚数解から係数が求められる。 【主体的に学習に取り組む態度】 数学の事象や日常生活の事象について、関数を用いて解決しようとする。既習事項を応用し、問題解決に取り組める。	○	○	○	10

2 学 期	E 図形と方程式 【知識及び技能】 座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や2点間の距離を表すことができるようにする。座標平面上の直線や円を方程式で表せることができる。軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 座標平面上の図形について構成要素間構成要素間の関係に着目し、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 数学の事象や日常生活の事象について、図形・方程式を用いて解決しようとする。	・内分点・外分点、二点間の距離 ・直線と円の方程式 ・軌跡と方程式	【知識・技能】 内分点・外分点の公式を理解し、正確に求めることができる。直線の方程式、円の方程式を理解している。 【思考・判断・表現】 点と直線の位置関係を理解し、方程式をつくることができる。軌跡の内容を理解し、条件から方程式をつくることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 数学の事象や日常生活の事象について、軌跡の考え方や、既習事項を応用して、多面的に問題を捉えられる。既習事項を応用し、問題を解くことができる。	○	○	○	21
	F 三角関数 【知識及び技能】 三角関数の値の変化やグラフの特徴について理解すること。三角関数の相互関係などの基本的な性質を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 三角関数に関する様々な性質について考察するとともに、三角関数の加法定理から新たな性質を導くこと。 【学びに向かう力、人間性等】 2つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。	・三角関数 ・一般角、弧度法 ・三角関数とグラフ ・相互関係 ・加法定理 ・合成	【知識・技能】 三角比の定義を理解し、三角比を用いた計量を行うことができる。 三角比を関数と認識し理解できる、基本的な相互関係を理解している。 【思考・判断・表現】 具体的な事象における長さや角度について、三角比を用いて捉え、三角比の値から求めることができる。加法定理を理解しそこから様々な性質を導ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象を数学的に捉え、応用できる。	○	○	○	27
	F 指数関数・対数関数 【知識及び技能】 指数を正の整数から有理数への拡張する意義を理解し、指数法則を用いて数や式の計算をすること。 指数関数の値の変化やグラフの特徴について理解すること。 対数の意味とその基本性質について理解し、簡単な対数の計算をすること。 【思考力、判断力、表現力等】 指数と対数を相互に関連付けて考察すること。指数関数及び対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察すること。 【学びに向かう力、人間性等】 2つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。	・指数法則 ・指数関数の値の変化とグラフ ・対数の計算 ・指数と対数の相互関係	【知識・技能】 指数の拡張の意義を理解し、指数法則を理解し扱える。グラフについて理解している。 【思考・判断・表現】 指数と対数の相互関係を理解し、扱える。指数関数・対数関数を多面的に捉えられる。また、簡単な対数の計算ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 2つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察できる。	○	○	○	18
3 学 期	G 微分法と積分法 【知識及び技能】 微分係数や導関数についての意味を理解し、導関数を導くことができる。導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形を書く方法を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 関数とその導関数との関係について考察すること。微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察すること。 【学びに向かう力、人間性等】 関数の局所的な変化に着目し、日常の事象を数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴を考察したりすること。	・微分係数・導関数 ・関数の値の増減 ・極大値・極小値 ・関数とその導関数との関係 ・直線と関数のグラフの面積	【知識・技能】 微分係数や導関数の意味を理解し、導関数を導くことができる。増減表を用いてグラフを書くことができる。 【思考・判断・表現】 極大値・極小値を理解し、グラフを書ける。直線及び曲線で囲まれた部分の面積を考察し、値をだせる。 【主体的に学習に取り組む態度】 関数の局所的な変化に着目し、日常の事象を数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴を考察し応用できる。	○	○	○	30

年間授業計画

高等学校 令和8年度（2 学年用） 教科

数学

科目 数学B

教 科： 数学

科 目： 数学B

単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ F 組

教科担当者：（A、B 組：水野、黒田、阿久津）（C、D 組：水野、阿久津、平川）（E、F 組：水野、阿久津、黒田）

使用教科書：（ 数研出版 NEXT 数学B ）

教科 数学 の目標：

- （1）数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- （2）数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- （3）数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学B の目標：

数列および統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 等差数列と等比数列 【知識及び技能】 数列の概念および数列についての基本的な用語の意味を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 等差数列、等比数列に関する公式が導出される過程を理解した上で求められるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 等差数列と等比数列の両者を比較しながら理解し、またこれらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする。	・数列と一般項 ・等差数列 ・等差数列の和 ・等比数列 ・等比数列の和	【知識・技能】 一般項から数列の各項、数列の各項から一般項を求めることができる。 等差数列、等比数列の初項から第 n 項までの和を求めることができる。 【思考・判断・表現】 等差数列、等比数列の一般項について規則をもとにして考察することができる。 等差数列、等比数列の初項から第 n 項までの和の求め方について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 等差数列、等比数列のそれぞれの規則をもとにして、一般項について考えようとしている。 等差数列、等比数列の初項から第 n 項までの和の求め方について考えようとしている。	○	○	○	10
	B いろいろな数列 【知識及び技能】 和の記号 Σ の表し方や性質を理解し、活用できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 数列の和と一般項の関係を、数列と階差数列の関係と対応させて捉えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 群数列などのいろいろな数列に興味をもち、一般項や和について考察しようとする。	・和の記号 Σ ・階差数列 ・いろいろな数列の和	【知識・技能】 Σ について成り立つ性質を理解し、それを用いて和を求めることができる。 階差数列から数列の一般項が求められる仕組みを理解し、具体的に一般項を求めることができる。 【思考・判断・表現】 1つの和を、 Σ を用いて様々な方法で表現することができる。 階差数列から一般項を求めるときや、数列の和から一般項を求めるときに、 $n=1$ を別に考える必要がある理由について、数値を変えたりして考察し、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自然数の和の公式を用いて自然数の2乗の和の公式が導けることに興味をもち、自然数の3乗の和の公式を導こうとする。 数列の規則性を、隣り合う2項の差を用いて発見しようとする。	○	○	○	16
	C 漸化式と数学的帰納法 【知識及び技能】 数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められる。 【思考力、判断力、表現力等】 複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。	・漸化式 ・数学的帰納法	【知識・技能】 漸化式の意味を理解し、数列の具体的な項を求めることができる。 数学的帰納法を用いて等式や不等式の証明ができる。 【思考・判断・表現】 複雑な漸化式を、おき換えなどを用いて既知の漸化式に帰着して考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 一般項による方法以外にも数列の項を定める方法があることに興味をもち、それらの共通点や相違点などを考察しようとする。 様々な命題の証明に数学的帰納法を活用しようとする態度がある。	○	○	○	10

2 学 期	B 等式・不等式の証明 【知識及び技能】 等式の意味や不等式の性質について理解する。 等式、不等式の証明ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 不等式の性質をもとに証明方法を考察したり、具体的な事象についての問題解決に不等式を活用したりする。 【学びに向かう力、人間性等】 現実の問題について、必要な条件を選んで数式化し、それを解決する。また、得られた解を現実問題に当てはめ直し、それを考察する。	・恒等式の証明 ・条件付きの等式の証明 ・実数の大小関係 ・実数の平方 ・平方の大小関係 ・絶対値を含む不等式の証明 ・相加相乗平均	【知識・技能】 等式・不等式の意味や性質について理解し、証明することができる。 【思考・判断・表現】 不等式の性質をもとに証明方法を考察する。日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、不等式を問題解決に活用する。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題を解決する際に、既に学習した計算方法と関連付けて、式と多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりする。	○	○	○	5
	D 確率分布 【知識及び技能】 確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散などを求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 確率変数の分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。	・確率変数と確率分布 ・確率変数の期待値と分散 ・確率変数の和と積 ・二項分布 ・正規分布	【知識・技能】 確率変数や確率分布について、用語の意味を理解している。 反復試行の結果を二項分布と捉え、記号で表すことができる。 【思考・判断・表現】 確率変数の分散、標準偏差の意味を理解し、分布の特徴について判断することができる。 標準正規分布の期待値、分散について、既知の公式を用いて証明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 確率変数の期待値、分散に関する種々の公式を、その定義や既知の公式を用いて導こうとする。 現実のデータが正規分布に近い分布になることがあることに興味をもち、様々なデータについて考察しようとする。	○	○	○	11
3 学 期	E 統計的な推測 【知識及び技能】 母集団と標本、標本調査について理解し、標本平均の期待値や標準偏差を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 標本平均について、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。	・母集団と標本 ・標本平均の分布 ・推定 ・仮説検定	【知識・技能】 母集団分布について理解し、母平均や母標準偏差を求めることができる。 仮説検定の意味を理解し、正規分布を用いた仮説検定ができる。 【思考・判断・表現】 信頼度95%の信頼区間の求め方やその意味をもとに、信頼度99%の信頼区間を求めることができる。また、その意味について信頼区間の幅をもとに説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 母平均や母比率の推定について、信頼区間の幅と標本の大きさや信頼度との関係を考察し、それをもとに実際に適切な推定を行おうとする。	○	○	○	18

年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 数学 科目 数学C

教 科： 数学 科 目： 数学C 単位数： 1 単位

対象学年組：第 2 学年 A組～ F組

教科担当者： （A、B組：平川、齊木、金子） （C、D組：平川、齊木、金子） （E、F組：平川、由良、齊木）

使用教科書：（数研出版 NEXT 数学C ）

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】数学における基本的な概念や、原理・法則を体系的に理解する

【思考力、判断力、表現力等】数学を活用して事象を論理的に考察する力を養う

【学びに向かう力、人間性等】数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度を養う」

科目 数学C の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
ベクトルについて、数学的活動を通して、その有用性を認識するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	A ベクトルとその演算 【知識及び技能】 ベクトルの基本性質を理解すること。平面上のベクトルの和、差、実数倍について理解すること 【思考力、判断力、表現力等】 実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察すること。 【学びに向かう力、人間性等】 数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用すること。	・有効成分とベクトル ・ベクトルの加法と減法 ・ベクトルの実数倍と平行 ・単位ベクトル ・ベクトルの分解 ・一次独立	【知識・技能】 平面上のベクトルの意味を理解し、演算ができる。 【思考・判断・表現】 演算法則を理解し、それをベクトルに関連付けられる。ベクトルの平行を理解し、単位ベクトルについて考察できる。どのようなベクトルでも必ず1通りに分解できることを理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	13
	B ベクトルの成分と内積 【知識及び技能】 ベクトルの成分表示について理解すること。ベクトルの内積及びその基本性質について理解すること 【思考力、判断力、表現力等】 ベクトルやその内積の基本性質を用いて図形を考察できる 【学びに向かう力、人間性等】 数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用すること。	・ベクトルの成分表示 ・ベクトルの内積	【知識・技能】 ベクトルの成分表示を理解し、座標平面上で考察できる。 【思考・判断・表現】 ベクトルの内積を求めることができる。成分表示された内積を求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	
	C位置ベクトル 【知識及び技能】 ベクトルの図形的な意味を理解し位置ベクトルについて考察できる 【思考力、判断力、表現力等】 平面上の位置ベクトルを用いて図形を考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用すること。	・平面上の位置ベクトル ・内分点の位置ベクトル ・外分点の位置ベクトル ・重心の位置ベクトル	【知識・技能】 位置ベクトルを理解し表現できる 【思考・判断・表現】 内分点・外分点の位置ベクトルを理解し表現できる。重心の位置ベクトルを表現できる 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	

2 学 期	D ベクトルの図形への応用 【知識及び技能】 ベクトルの図形的な意味を理解し、3点が一直線上にあることを理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ベクトルの基本性質を理解し、多面的に考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用すること。	・一直線上にある点 ・2直線の交点の位置ベクトル ・三角形の垂心の位置ベクトル	【知識・技能】 ベクトルの図形的な意味を理解し、3点が一直線上にあることを理解している 【思考・判断・表現】 ベクトルの図形的な意味を理解し、3点が一直線上にあることを理解し、表現できる三角形の5心について理解し、表現できる 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	13
	E 図形のベクトル表示 【知識及び技能】 ベクトル方程式の意味を理化学している。媒介変数表示の意味を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ベクトル方程式の意味を理解し、図形を考察できる 【学びに向かう力、人間性等】 数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用すること。	・直線のベクトル方程式 ・平面上の点の存在範囲 ・垂直なベクトル ・円のベクトル方程式	【知識・技能】 平面上の直線のベクトル方程式をもとめることができる。 【思考・判断・表現】 方向ベクトル、法線ベクトルを理解し、表現できる。ベクトルの条件で表された点の存在範囲を求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	
3 学 期	F 空間図形 【知識及び技能】 座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ベクトルやその内積の基本性質などを用いて平面図形や空間図形の性質を見出したり、多面的に考察したりすること 【学びに向かう力、人間性等】 数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用すること。	・空間の点 ・空間のベクトル ・空間ベクトルの成分表示 ・空間ベクトルの内積 ・ベクトルの空間図形への応用 ・座標空間における図形	【知識・技能】 平面から空間に拡張したことを理解している。平面上の性質を空間に拡張できる。 【思考・判断・表現】 平面上のベクトルの性質を空間でも表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	9

年間授業計画

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅲ

教 科： 数学 科 目： 数学Ⅲ 単位数： 4 単位

対象学年組： 第 3 学年 A 組～ F 組

教科担当者： (AEF組：金子) (BCD組：由良)

使用教科書： (数研出版 NEXT 数学Ⅲ)

教科 数学 の目標：

- (1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅲ の目標：

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力の育成を目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的にりかいるとともに、事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 関数 【知識及び技能】 関数を扱うための基本的な用語や定義について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 数や式を多面的に見たり、目的に応じた式の変形ができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい計算方法や方法について、考察する。 既習事項と関連付けて、数の体系を整理し考察する。	・分数関数 ・無理関数 ・逆関数と合成関数 ・数列の極限 ・級数 ・関数の極限	【知識・技能】 関数についての理解をしている。 関数について理解し、逆関数のしくみを理解している。 数列の公式を理解し、使えるようにする。 極限について理解している。 【思考・判断・表現】 工夫することで式の展開を簡略化することができる。式によって適切な方法を判断して極限について考察ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 式変形の工夫について、その理由を振り返って考えたり、よりよい方法について考察しようとする。極限を多面的に考察し応用できる。	○	○	○	9
	B 極限 【知識及び技能】 三角関数の性質について理解する。 関数の連続性について説明ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 関数の連続性の性質をもとに証明方法を考察したり、具体的な事象についての問題解決に関数を活用したりする。 【学びに向かう力、人間性等】 現実の問題について、必要な条件を選んで数学化し、それを解決する。また、得られた解を現実問題に当てはめ直し、それを考察する。	・三角関数の極限 ・関数の連続性	【知識・技能】 関数についての理解をしている。 関数について理解し、逆関数のしくみを理解している。 数列の公式を理解し、使えるようにする。 極限について理解している。 【思考・判断・表現】 工夫することで式の展開を簡略化することができる。式によって適切な方法を判断して極限について考察ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 式変形の工夫について、その理由を振り返って考えたり、よりよい方法について考察しようとする。極限を多面的に考察し応用できる。	○	○	○	9
	C 微分法 【知識及び技能】 微分係数と導関数の意義を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 導関数の計算について理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、関数を問題解決に活用する。	・微分係数と導関数 ・導関数の計算 ・いろいろな関数の導関数 ・第n次導関数	【知識・技能】 微分係数と導関数について理解し、微分係数を導出することができる。 【思考・判断・表現】 導関数を理解し、使いこなせるようにする。様々な導関数を作る。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題を解決する際に、既に学習した計算方法と関連付けて、式と多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりする。	○	○	○	9
	D微分法的应用 【知識及び技能】 平均値の定理について理解し、簡平均値の定理を利用して問題を考察できる。 【思考力、判断力、表現力等】 接線を理解し、接線の方程式をつくることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 数学の事象や日常生活の事象について、方程式を問題解決に活用する。	・接線の方程式 ・平均値の定理 ・	【知識・技能】 平均値の定理をりようして解くことができる。 【思考・判断・表現】 接線の方程式が求められる。 【主体的に学習に取り組む態度】 数学の事象や日常生活の事象について、関数を用いて解決しようとする。既習事項を応用し、問題解決に取り組める。	○	○	○	9

2 学期	E 積分法 【知識及び技能】 積分について理解し、その計算ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 置換積分、部分積分を用いて様々な関数を積分できる。部分積分と漸化式の関係について考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 数学の事象や日常生活の事象について、図形・方程式を用いて解決しようとする。	- 不定積分とその基本性質 - 置換積分法 - 部分積分法	【知識・技能】 積分について理解し、計算できる。 【思考・判断・表現】 部分積分、置換積分を活用して、積分できる 【主体的に学習に取り組む態度】 数学の事象や日常生活の事象について、軌跡の考え方や、既習事項を応用して、多面的に問題を捉えられる。既習事項を応用し、問題を解くことができる。	○	○	○	16
	F 積分法の応用 【知識及び技能】 積分の特徴について理解すること。積分と面積の関係などの基本的な性質を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 積分に関する様々な性質について考察するとともに、グラフで囲まれた面積を導くこと。 【学びに向かう力、人間性等】 積分と面積の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。	- 面積 - 体積	【知識・技能】 積分と面積の関係を理解し、積分を用いて面積をだせる。 積分を面積の関係を理解できる、基本的な相互関係を理解している。 【思考・判断・表現】 具体的な事象における面積について、関数を用いて捉え、積分の値から求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象を数学的に捉え、応用できる。	○	○	○	15
	G テーマ別演習（復習） 微分法と積分法 【知識及び技能】 微分係数や導関数についての意味を理解し、導関数を導くことができる。導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形を書く方法を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 関数とその導関数との関係について考察すること。微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察すること。 【学びに向かう力、人間性等】 関数の局所的な変化に着目し、日常の事象を数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴を考察したりすること。	- 微分係数・導関数 - 関数の値の増減 - 極大値・極小値 - 関数とその導関数との関係 - 直線と関数のグラフの面積	【知識・技能】 微分係数や導関数の意味を理解し、導関数を導くことができる。増減表を用いてグラフを書くことができる。 【思考・判断・表現】 極大値・極小値を理解し、グラフを書ける。直線及び曲線で囲まれた部分の面積を考察し、値をだせる。 【主体的に学習に取り組む態度】 関数の局所的な変化に着目し、日常の事象を数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴を考察し応用できる。	○	○	○	15
3 学期							

高等学校 令和 8 年度（3 学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅲ演習

対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組

使用教科書：（ 数研出版 NEXT 数学Ⅲ, 数学C ）

- (1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論証に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力の育成を目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的にりかいるとともに、事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉える事を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 複素数平面 【知識及び技能】 複素数の極形式を扱うための基本的な用語や定義について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 複素数を多面的に見たり、目的に応じた式の変形ができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい計算方法や方法について、考察する。 既習事項と関連付けて、数の体系を整理し考察する。	・複素数平面 ・複素数の極形式 ・ド・モアブルの定理	【知識・技能】 複素数についての理解をしている。 極形式について理解し、極形式のしくみを理解している。 極形式の公式を理解し、使えるようにする。 【思考・判断・表現】 極形式にすることで問題を考察することができる。式によって適切な方法を判断して問題について考察ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 式変形の工夫について、その理由を振り返って考えたり、よりよい方法について考察しようとする。複素数を多面的に考察し応用できる。	○	○	○	20
	B 媒介変数と極座標 【知識及び技能】 媒介変数表示の性質について理解する。 極座標について説明ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 媒介変数を考察したり、具体的な事象についての問題解決に媒介変数表示を活用したりする。 【学びに向かう力、人間性等】 現実の問題について、必要な条件を選んで数学化し、それを解決する。 また、得られた解を現実問題に当てはめ直し、それを考察する。	・複素数と図形 ・曲線の媒介変数表示 ・極座標と媒介変数表示	【知識・技能】 媒介変数についての理解をしている。 媒介変数について理解し、極座標のしくみを理解している。 極座標から式の内容を考えられる。極座標について理解している。 【思考・判断・表現】 工夫することで直交座標から極座標にすることができる。式によって適切な方法を判断して極座標について考察ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 式変形の工夫について、その理由を振り返って考えたり、よりよい方法について考察しようとする。極限を多面的に考察し応用できる。	○	○	○	
	D 微分法的应用 【知識及び技能】 物理の観点から事象を考察できる 【思考力、判断力、表現力等】 速度、加速度の理解してる。 【学びに向かう力、人間性等】 数学の事象や日常生活の事象について、方程式を問題解決に活用する。	・方程式・不等式への応用 ・速度と加速度 ・近似式	【知識・技能】 微分係数と導関数について理解し、速度、加速度に関連できる。 【思考・判断・表現】 導関数を理解し、超越関数の近似を考えられる。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題を解決する際に、既に学習した計算方法と関連付けて、式と多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりする。	○	○	○	
2 学 期	F 積分法的应用 【知識及び技能】 積分の特徴について理解すること。 積分と面積の関係などの基本的な性質を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 積分に関する様々な性質について考察するとともに、放物線の長さを考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 積分と面積の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。	・道のり ・曲線の長さ	【知識・技能】 積分を利用して長さを出すことができる。 【思考・判断・表現】 曲線の長さが求められる。 【主体的に学習に取り組む態度】 数学の事象や日常生活の事象について、関数を用いて解決しようとする。既習事項を応用し、問題解決に取り組める。	○	○	○	18

高等学校 令和8年度 教科 数学

科目 数学Ⅱ、B、C 演習

教科 数学

科目 数学Ⅱ、B、C 演習

単位数 2 単位

対象学年組 第 3 学年 選択

教科担当者 阿久津

使用教科書 (数研出版 NEXT 数学Ⅱ、B、C シニア数学演習ⅠⅡABC (ベクトル))

教科 数学

の目標

- (1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅱ、B、C 演習

の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数学Ⅱ、B、Cについて、数学的活動を通して、その有用性を認識するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学Ⅱ、B、Cの基礎・基本を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	単元 【知識及び技能】 全範囲の基本性質等を理解し的確に演算等ができること。 【思考力、判断力、表現力等】 全範囲の基本性質等を利用して、応用問題を考察すること。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用すること。	・式と証明 ・複素数と方程式 ・図形と方程式 ・三角関数 ・指数関数 ・対数関数 ・微分法	【知識・技能】 全範囲の基本性質等を理解し的確に演算等ができる。 【思考・判断・表現】 全範囲の基本性質等を利用して、応用した問題を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	単元 【知識及び技能】 全範囲の基本性質等を理解し的確に演算等ができること。 【思考力、判断力、表現力等】 全範囲の基本性質等を利用して、応用問題を考察すること。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用すること。	・積分法 ・数列 ・統計的な推測 ・ベクトル	【知識・技能】 全範囲の基本性質等を理解し的確に演算等ができる。 【思考・判断・表現】 全範囲の基本性質等を利用して、応用した問題を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
2 学 期	単元 【知識及び技能】 全範囲の総合問題に対応できる知識と技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 全範囲の入試問題を思考し、論理的な判断を下し、的確に表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用すること。	実践問題（大学入試問題等） ・式と証明 ・複素数と方程式 ・図形と方程式 ・三角関数 ・指数関数 ・対数関数 ・微分法	単元 【知識及び技能】 全範囲の総合問題に対応できる知識と技能を身に付けることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 全範囲の入試問題を思考し、論理的な判断を下し、的確に表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	単元 【知識及び技能】 全範囲の総合問題に対応できる知識と技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 全範囲の入試問題を思考し、論理的な判断を下し、的確に表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用すること。	実践問題（大学入試問題等） ・積分法 ・数列 ・統計的な推測 ・ベクトル	単元 【知識及び技能】 全範囲の総合問題に対応できる知識と技能を身に付けることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 全範囲の入試問題を思考し、論理的な判断を下し、的確に表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
3 学 期	単元 【知識及び技能】 全範囲の総合問題に対応できる知識と技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 全範囲の入試問題を思考し、論理的な判断を下し、的確に表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用すること。	大学入試問題	単元 【知識及び技能】 全範囲の総合問題に対応できる知識と技能を身に付けることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 全範囲の入試問題を思考し、論理的な判断を下し、的確に表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	6

高等学校 令和8年度 教科 数学

科目 数学IA演習

教科 数学

科 目： 数学IA演習 (選択)

単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組

教科担当者：(α組：水野) (β組：阿久津)

使用教科書：(『NEXT数学I』『NEXT数学A』(数研出版))

教科 数学 の目標：

- 【知識及び技能】数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学IA演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析、図形の性質、場合の数と確率、整数についての基本的な概念や原理、法則を体系的に理解するとともに事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表式グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析する力、不確実な事象に着目し確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	【知識・技能】基本的な概念、用語、記号などを理解し身に付ける。 【思考・判断・表現】数学的に考察し、表現処理する仕方や推論の方法を身に付け、問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識し問題解決に活用する。	テキスト『シニア数学演習I・II・A・B・C』（数研出版） 数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量、データの分析、場合の数と確率、図形の性質、整数の性質 基本問題	【知識・技能】基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	【知識・技能】基本的な概念、用語、記号などを理解し身に付ける。 【思考・判断・表現】数学的に考察し、表現処理する仕方や推論の方法を身に付け、問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識し問題解決に活用する。	テキスト『シニア数学演習I・II・A・B・C』（数研出版） 数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量、データの分析、場合の数と確率、図形の性質、整数の性質 ＊問題	【知識・技能】基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
							3
2 学 期	【知識・技能】基本的な概念、用語、記号などを理解し身に付ける。 【思考・判断・表現】数学的に考察し、表現処理する仕方や推論の方法を身に付け、問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識し問題解決に活用する。	テキスト『シニア数学演習I・II・A・B・C』（数研出版） 数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量、データの分析、場合の数と確率、図形の性質、整数の性質 AB問題	【知識・技能】基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	【知識・技能】基本的な概念、用語、記号などを理解し身に付ける。 【思考・判断・表現】数学的に考察し、表現処理する仕方や推論の方法を身に付け、問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識し問題解決に活用する。	テキスト『シニア数学演習I・II・A・B・C』（数研出版） 数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量、データの分析、場合の数と確率、図形の性質、整数の性質 総合演習	【知識・技能】基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
							3
3 学 期	【知識・技能】基本的な概念、用語、記号などを理解し身に付ける。 【思考・判断・表現】数学的に考察し、表現処理する仕方や推論の方法を身に付け、問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識し問題解決に活用する。	過去入試問題演習	【知識・技能】基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。				10
	合計						
							58

高等学校 令和8年度 教科

理科 科目 物理基礎

教科：理科 科目：物理基礎 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 A組～ B組

教科担当者：（B組：坂本正史）（B組：小林）（C組：小林）（D組：小林）（E組：小林）（F組：小林）

使用教科書：（数研 物基707 物理基礎）

教科 理科

【知識及び技能】 自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 物理基礎 目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
学習した物理の基本的な概念や原理・法則が正しく理解できるようにする。学習した概念や原理・法則をその学習や生活の中で新しい自傷の解釈に応用できるようにする。	課題を遂行するにあたって、科学的・論理的に思考し、判断できるようにする。課題の設定理由、研究過程、結果及びそこから導き出した自らの考えを的確かつ簡潔にわかりやすく相手に伝えられるようにする。	物理的な事物・現象に対して主体的にかかわり、理解できるようにする。物理的な事物・現象に対する気づきから課題を設定し解決できる態度を身に付けさせる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
A 運動の表し方	・速度 ・加速度 ・落体の運動	【知識及び技能】 物体の速さの式を理解している。加速度の定義や正負の意味を正しく理解している。自由落下や鉛直投射において与えられた時刻における高さや速度を求める式の運用ができる。	○			12
【思考力、判断力、表現力等】 等速直線運動する物体の運動について説明ができるようにする。等加速度直線運動する物体の様子について説明できるようにする。自由落下する物体の様子について説明できるようにする。		【思考力、判断力、表現力等】 等速直線運動する物体の運動について説明ができる。等加速度直線運動する物体の様子について説明できる。自由落下する物体の様子について説明できる。		○		
【学びに向かう力、人間性等】 日常の運動から、速さ、時間、進む距離の関係に興味を持ち、速さと速度の違いや、相対速度のの意図や使い方を理解しようとする。重力加速度の大きさを測定する実験に主体的に取り組ませる。		【学びに向かう力、人間性等】 日常の運動から、速さ、時間、進む距離の関係に興味を持ち、速さと速度の違いや、相対速度のの意図や使い方を理解しようとしている。重力加速度の大きさを測定する実験に主体的に取り組んでいる。			○	
B 運動の法則	・力とその働き ・力のつり合い ・運動の法則 ・摩擦を受ける運動 ・液体や気体から受ける力	【知識及び技能】 重力、垂直抗力、摩擦力、張力、弾性力について理解できている。力がベクトル量であることを認識し、力の合成や分解ができる。物体が力を受けるとき、運動状態はどのようになるか、逆に、物体の運動状態からどのような力が働いているか指摘できるようにする。注目する物体に摩擦力はどの向きに現れるか理解している。圧力を求める式を理解させる。	○		○	14
【思考力、判断力、表現力等】 フックの法則とバネ定数の意味を理解し、グラフからバネ定数を読み取ることができるようにする。作用・反作用の法則と2力のつり合いの違いを理解させ、説明できるようにする。慣性の法則、運動方程式が理解でき、問題解決にあたっての式の運用ができる。摩擦力がどのような力化を理解し、運動を妨げる向きに働く運動について考えることができる。水中にある物体にはどのような水圧が加わるか説明できるようにする。		【思考力、判断力、表現力等】 フックの法則とバネ定数の意味を理解し、グラフからバネ定数を読み取ることができる。作用・反作用の法則と2力のつり合いの違いを理解し、説明できる。慣性の法則、運動方程式が理解でき、問題解決にあたっての式の運用ができる。摩擦力がどのような力化を理解し、運動を妨げる向きに働く運動について考えることができる。水中にある物体にはどのような水圧が加わるか説明できる。		○		

	【学びに向かう力、人間性等】 見ること、触ることのできない力に対してどのような存在があるのか、また力にはどのような種類があるかについて考えさせる。力のつり合いや作用反作用の法則を確かめる実験に主体的に取り組ませる。物体の運動状態は受ける力とどのような関係にあるかについて興味関心を持って理解させる。日常の現象などを通して水中や空気中で圧力があることに關心を寄せ、それらの圧力はどのようにして図ることができるのかを考えさせる。		【学びに向かう力、人間性等】 見ること、触ることのできない力に対してどのような存在があるのか、また力にはどのような種類があるかについて考えようとしている。力のつり合いや作用反作用の法則を確かめる実験に主体的に取り組んでいる。物体の運動状態は受ける力とどのような関係にあるかについて興味関心を持って理解しようとしている。日常の現象などを通して水中や空気中で圧力があることに關心を寄せ、それらの圧力はどのようにして図ることができるのか考えようとしている。					○
C	仕事と力学的エネルギー 【知識及び技能】 仕事・仕事率を計算して求めることができるようにする。運動エネルギーが $\frac{1}{2}mv^2$ であることを理解させる。重力による位置エネルギーを計算することができるようにする。様々な物体の運動について力学的エネルギー保存の法則を用いることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 物体に力が働いていても仕事が0のときもあり、それがどのようなときであるかを説明できるようにする。運動エネルギーがどのようなものであるかを説明ができるようにする。状態が異なる場合の位置エネルギーを比較して考えることができるようにする。力学的エネルギー保存の法則を用いて物体の運動を定性的に考えることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 日常用いる「仕事」と物理で使う「仕事」の違いを理解させる。運動している物体はどのようなエネルギーを持っているかについて興味を持ち考えさせる。力学的エネルギー保存の法則について興味関心を持ち、理解させる。	・仕事 ・運動エネルギー ・位置エネルギー ・力学的エネルギー保存の法則	【知識及び技能】 仕事・仕事率を計算して求めることができる。運動エネルギーが $\frac{1}{2}mv^2$ であることを理解している。重力による位置エネルギーを計算することができる。様々な物体の運動について力学的エネルギー保存の法則を用いることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 物体に力が働いていても仕事が0のときもあり、それがどのようなときであるかを説明できる。運動エネルギーがどのようなものであるかを説明ができる。状態が異なる場合の位置エネルギーを比較して考えることができる。力学的エネルギー保存の法則を用いて物体の運動を定性的に考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 日常用いる「仕事」と物理で使う「仕事」の違いを理解しようとしている。運動している物体はどのようなエネルギーを持っているかについて興味を持ち考えようとしている。力学的エネルギー保存の法則について興味関心を持ち、理解しようとしている。					○
D	熱 【知識及び技能】 温度、熱運動、熱量、比熱、熱容量、などが正しく理解させる。仕事と熱の関係や熱力学第一法則について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 日常的な事象を学習内容に照らし合わせて説明できるようにする。日常的な現象を熱と仕事の関係を踏まえて説明できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 物の温まりやすさなど、熱にかかわる現象について興味関心を持ち理解させる。熱の仕事のじっけに主体的に取り組ませる。	・熱と物質の状態 ・熱と仕事	【知識及び技能】 温度、熱運動、熱量、比熱、熱容量、などが正しく理解されている。仕事と熱の関係や熱力学第一法則について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 日常的な事象を学習内容に照らし合わせて説明できる。日常的な現象を熱と仕事の関係を踏まえて説明できる。 【学びに向かう力、人間性等】 物の温まりやすさなど、熱にかかわる現象について興味関心を持ち理解しようとしている。熱の仕事のじっけに主体的に取り組んでいる。					○
E	波動 【知識及び技能】 波の発生の原理や基本事項を理解させる。定常波の生じる仕組みを理解させる。日常生活での体験を通して音の波としての性質を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 波の伝わる様子をグラフで表すことができるようにする。定常波を発生させる条件を正しく理解し説明できるようにする。音を伝える際に空気などの媒質が必要であることを説明できるようにする。	・波と媒質の運動 ・波の伝わり方 ・音の性質 ・発音体の振動と共振・共鳴	【知識及び技能】 波の発生の原理や基本事項を理解している。定常波の生じる仕組みを理解している。日常生活での体験を通して音の波としての性質を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 波の伝わる様子をグラフで表すことができる。定常波を発生させる条件を正しく理解し説明できる。音を伝える際に空気などの媒質が必要であることを説明できる。					○

	【学びに向かう力、人間性等】 身近な波の現象に興味を持ち、波の発生原理や基本事項について理解させる。波が衝突や反射するときにはどのようなか興味を持って自分の考えを述べるようにする。音に関する身近な問いかけについて自分の考えを述べるようにする。					○	
F 電気							
知識及び技能】 物体の帯電する仕組みについて理解させる。電流と電圧の基礎について理解させる。ジュールの法則について理解させる。直線電流、円形電流、ソレノイドのつくる磁場の向きを判断することができるようにする。交流電圧の基本について理解させる。	- 電気の性質 - 電流と電気抵抗 - 電気とエネルギー - 電流と磁場 - 交流と電磁場	【知識及び技能】 物体の帯電する仕組みについて理解している。電流と電圧の基礎について理解している。ジュールの法則について理解している。直線電流、円形電流、ソレノイドのつくる磁場の向きを判断することができる。交流電圧の基本について理解している。	○				
【思考力、判断力、表現力等】 ガラス棒を絹などで擦った際にそれぞれどのような帯電状態になるかを説明できるようにする。オームの法則を理解し、I-Vグラフより金属の抵抗値を求めることができるようにする。ジュール熱について電流と電圧とどのような関係にあるか説明できるようにする。電流線じあの関係について説明できるようにする。		【思考力、判断力、表現力等】 ガラス棒を絹などで擦った際にそれぞれどのような帯電状態になるかを説明できる。オームの法則を理解し、I-Vグラフより金属の抵抗値を求めることができる。ジュール熱について電流と電圧とどのような関係にあるか説明できる。電流線じあの関係について説明できる。		○			
【学びに向かう力、人間性等】 身近な静電気減少についてなぜそうなるのかを述べることができる。電気回路の抵抗の接続の仕方を変えたときに抵抗に加わる電圧と流れる電流の値がどのように変化するか主体的に考えることができる。日常で使う電気を踏まえてジュール熱や電力について主体的に考えることができる。モーターの回転する機構について興味を持ち、主体的に原理を考察することができる。直流と交流の違いや送電時の工夫について主体的に考えることができる。		【学びに向かう力、人間性等】 身近な静電気減少についてなぜそうなるのかを述べることができる。電気回路の抵抗の接続の仕方を変えたときに抵抗に加わる電圧と流れる電流の値がどのように変化するか主体的に考えることができる。日常で使う電気を踏まえてジュール熱や電力について主体的に考えることができる。モーターの回転する機構について興味を持ち、主体的に原理を考察することができる。直流と交流の違いや送電時の工夫について主体的に考えることができる。				○	
G 物理学と社会							
【知識及び技能】 エネルギーはどのような種類があるのか、また身近な様々な事象でどのようなエネルギー変換が行われているかを理解させる。エネルギー資源にはどのようなものがあるかを把握し、それらの長所と短所を理解させる。	- エネルギーの移り変わり - エネルギー資源と発電 - 物理が拓く世界	【知識及び技能】 エネルギーはどのような種類があるのか、また身近な様々な事象でどのようなエネルギー変換が行われているかを理解している。エネルギー資源にはどのようなものがあるかを把握し、それらの長所と短所を理解している。	○				
【思考力、判断力、表現力等】 ある事象についてどのようなエネルギー変換が行われているかを考察し、説明することができるようにする。再生可能エネルギーについて、枯渇静エネルギーとの違いを考え説明できるようにする。私たちの生活をつかさどる技術に高校で学んだ物理学の知識がどのように活用されているかを説明できるようにする。		【思考力、判断力、表現力等】 ある事象についてどのようなエネルギー変換が行われているかを考察し、説明することができる。再生可能エネルギーについて、枯渇静エネルギーとの違いを考え説明できる。私たちの生活をつかさどる技術に高校で学んだ物理学の知識がどのように活用されているかを説明できる。		○			
【学びに向かう力、人間性等】 太陽電池などで同様に電気をエネルギーを得ているかを主体的に考えることができるようにする。新しいエネルギーである再生可能エネルギーに興味を持ち様々な発電方法における共通点を探るなど、主体的に取り組むことができるようにする。スポーツや防災、自動車などの身近な科学技術に物理学がどのように活用されているかについて興味を持たせる。		【学びに向かう力、人間性等】 太陽電池などで同様に電気をエネルギーを得ているかを主体的に考えることができる。新しいエネルギーである再生可能エネルギーに興味を持ち様々な発電方法における共通点を探るなど、主体的に取り組むことができる。スポーツや防災、自動車などの身近な科学技術に物理学がどのように活用されているかについて興味を持つ。				○	

高等学校 令和8年度 教科 理科 科目 物理

教科：理科 科目：物理 単位数：4 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ B 組

教科担当者：（A組：坂本正史）（B組：坂本正史）（C組：坂本正史）（D～F組：小林）

使用教科書：（数研 物理 706 物理）

- 教科 理科
- の目標： 物理的なものの見方・考え方を身につけると同時に、より高い科学的自然観を育成する。
- 【知識及び技能】 自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 物理 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
学習した物理の基本的な概念や原理・法則が正しく理解できるようにする。学習した概念や原理・法則をその学習や生活の中で新しい自傷の解釈に応用できるようにする。	課題を遂行するにあたって、科学的・論理的に思考し、判断できるようにする。課題の設定理由、研究過程、結果及びそこから導き出した自らの考えを的確かつ簡潔にわかりやすく相手に伝えられるようにする。	物理的な事物・現象に対して主体的にかかわり、理解するようにする。物理的な事物・現象に対する気づきから課題を設定し解決できる態度を身に着けさせる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
	A 力と運動						40
	変位と移動距離の違いを理解させる。水平投射は鉛直方向には自由落下、水平方向には等速直線運動をしていることを理解させ、適切に式を用いることができるようにする。力のモーメントについて理解させる。剛体に働く複数の力の合力を求めることができるようにする。運動量と力積について求め方を理解させる。反発係数の式を用いて衝突する物体の運動を調べることができるようにする。等速円運動する物体の回転速度、角速度、周期、回転数などの定義が理解させる。慣性力を含めたつり合いの式を立てることができるようにする。単振動の変位、速度、加速度の式、運動方程式を理解させる。ケプラーの法則を理解させる。	平面運動の速度加速度 落体の運動 剛体に働く力のつり合い 剛体に働く力の合力と重心 運動量と力積 運動量保存の法則 反発係数 等速円運動 慣性力 単振動 万有引力	変位と移動距離の違いを理解している。水平投射は鉛直方向には自由落下、水平方向には等速直線運動をしていることを理解し、適切に式を用いることができる。力のモーメントについて理解している。剛体に働く複数の力の合力を求めることができる。運動量と力積について求め方を理解している。反発係数の式を用いて衝突する物体の運動を調べることができる。等速円運動する物体の回転速度、角速度、周期、回転数などの定義が理解できている。慣性力を含めたつり合いの式を立てることができる。単振動の変位、速度、加速度の式、運動方程式を理解している。ケプラーの法則を理解している。	○			
	動く観測者から見た物体の様子を説明できるようにする。斜方投射の様子を鉛直方向と水平方向に分けて説明ができるようにする。力のモーメントの式を理解し、腕の長さが異なるときに働く力のモーメントの考察ができるようにする。剛体の点灯する条件を理解し、説明ができるようにする。運動量と力積の関係の式から物体が受ける力積と平均の力について説明することができるようにする。運動量保存の法則が成り立つ条件を説明できるようにする。反発係数と運動量、力学的エネルギーの関係を説明できるようにする。等速円運動の中心方向の運動方程式から物体の運動を考えることができるようにする。慣性力とその他の力の違いを説明ができるようにする。単振り子と周期の公式を用いて重力加速度が異なる場所での運動の様子を説明できるようにする。万有引力の公式を用いて異なる惑星での重力加速度の大きさを比較することができるようにする。		動く観測者から見た物体の様子を説明できる。斜方投射の様子を鉛直方向と水平方向に分けて説明ができる。力のモーメントの式を理解し、腕の長さが異なるときに働く力のモーメントの考察ができる。剛体の点灯する条件を理解し、説明ができる。運動量と力積の関係の式から物体が受ける力積と平均の力について説明することができる。運動量保存の法則が成り立つ条件を説明できる。反発係数と運動量、力学的エネルギーの関係を説明できる。等速円運動の中心方向の運動方程式から物体の運動を考えることができる。慣性力とその他の力の違いを説明ができる。単振り子と周期の公式を用いて重力加速度が異なる場所での運動の様子を説明できる。万有引力の公式を用いて異なる惑星での重力加速度の大きさの大きさを比較することができる。		○		

	平面運動する物体の速度や加速度、相対速度などの表し方について学ぶ意味を理解するようにする。落体の運動特に水平投射、斜方投射について物体の運動はどのようなになっているか理解するようにする。剛体のつり合いは併進運動のつり合いと回転運動のつり合いが必要なことを理解するようにする。剛体が傾く条件や転倒する条件を理解するようにする。物体の運動について運動量と力積を用いて理解するようにする。弾みやすいかどうかを定量的に表すのが反発係数であるということを理解するようにする。等速円運動する物体にはどのような力が働いているか理解するようにする。慣性力の働く方向を調べる実験委に主体的に取り組むようにする。単振動の速度や加速度がどのように変化するかを理解するようにする。惑星や人工衛星が万有引力によって運動を続けていることやその運動の様子を理解するようにする。		平面運動する物体の速度や加速度、相対速度などの表し方について学ぶ意味を理解しようとしている。落体の運動特に水平投射、斜方投射について物体の運動はどのようなになっているか理解しようとしている。剛体のつり合いは併進運動のつり合いと回転運動のつり合いが必要なことを理解しようとしている。剛体が傾く条件や転倒する条件を理解しようとしている。物体の運動について運動量と力積を用いて理解しようとしている。弾みやすいかどうかを定量的に表すのが反発係数であるということを理解しようとしている。等速円運動する物体にはどのような力が働いているか理解しようとしている。慣性力の働く方向を調べる実験に主体的に取り組んでいる。単振動の速度や加速度がどのように変化するかを理解しようとしている惑星や人工衛星が万有引力によって運動を続けていることやその運動の様子を理解しようとしている。				○	
B 熱と気体	気体の法則 気体分子の運動 気体の状態変化	気体の圧力を求める式を理解させる。気体が熱運動をして壁などの面に力を及ぼすことから圧力の大きさを表す式を導くことができるようにする。単原子分子の理想気体の内部エネルギーについて理解させる。	気体の圧力を求める式を理解している。気体が熱運動をして壁などの面に力を及ぼすことから圧力の大きさを表す式を導くことができる。単原子分子の理想気体の内部エネルギーについて理解できている。	○			○	25
		ボイルシャルルの法則を用いて日常に即した問題について考察することができるようにする。平均運動エネルギーと絶対温度の関係を説明できるようにする。気体の状態変化と気体がされた仕事について説明ができるようにする。	ボイルシャルルの法則を用いて日常に即した問題について考察することができる。平均運動エネルギーと絶対温度の関係を説明できる。気体の状態変化と気体がされた仕事について説明ができる。			○		
		気体の圧力や体積、温度を変えるときこれらの量の間にどのような関係が成り立っているかを理解させる。気体分子が持っている質量、速度、運動量などのミクロな量と気体の圧力などマクロな量がどのような関係にあるか理解させる。気体が状態変化をするとき、エネルギーはどのようなものかを理解させる。	気体の圧力や体積、温度を変えるときこれらの量の間にどのような関係が成り立っているかを理解しようとしている。気体分子が持っている質量、速度、運動量などのミクロな量と気体の圧力などマクロな量がどのような関係にあるか理解しようとしている。気体が状態変化をするとき、エネルギーはどのようなものかを理解しようとしている。				○	

C 波動	波が伝わる様子をグラフで表すことができるようにする。位相のずれや進行方向の違いなども考慮して正弦波の式を正しく表すことができるようにする。定常波が生じる仕組みを理解させる。音の干渉について音が強め合う条件と弱め合う条件を理解させる。ドップラー効果の式を用いて観測者の聞く音の振動数を求めることができるようにする。屈折の法則を用いてガラスの屈折率を測定できるようにする。レンズと鏡によって生じる像を作図によって求められるようにする。ヤングの実験、回折格子、薄膜、楔形空気層、ニュートンリングのそれぞれの光の干渉条件を理解させる。	波と波動の運動 正弦波の式 波の伝わり方 音の伝わり方 音のドップラー効果 光の性質 レンズと鏡 光の干渉と回折	波が伝わる様子をグラフで表すことができる。位相のずれや進行方向の違いなども考慮して正弦波の式を正しく表すことができる。定常波が生じる仕組みを理解している。音の干渉について音が強め合う条件と弱め合う条件を理解している。ドップラー効果の式を用いて観測者の聞く音の振動数を求めることができる。屈折の法則を用いてガラスの屈折率を測定できる。レンズと鏡によって生じる像を作図によって求められる。ヤングの実験、回折格子、薄膜、楔形空気層、ニュートンリングのそれぞれの光の干渉条件を理解している。	○			25
	光が媒質の境界面で屈折する様子の図からどちらの媒質の方が光の進む速さが早いか判断できるようにする。凸レンズによりスクリーン上に実像ができるとき、レンズの上半分を覆うと像がどうなるかを説明できるようにする。回折格子の実験で波長や格子定数を変えたときの明線の間隔の邊を考慮することができるようにする。		光が媒質の境界面で屈折する様子の図からどちらの媒質の方が光の進む速さが早いか判断できる。凸レンズによりスクリーン上に実像ができるとき、レンズの上半分を覆うと像がどうなるかを説明できる。回折格子の実験で波長や格子定数を変えたときの明線の間隔の邊を考慮することができる。		○		
	光が関係する現象に興味を持ち、光に関する基本的事項と光の進み方について理解させる。レンズや鏡に興味を持ち、それによってどのような像ができるか理解させる。ヤングの実験や回折格子による光の干渉実験に主体帝に取り組ませる。		光が関係する現象に興味を持ち、光に関する基本的事項と光の進み方について理解しようとしている。レンズや鏡に興味を持ち、それによってどのような像ができるか理解しようとしている。ヤングの実験や回折格子による光の干渉実験に主体帝に取り組んでいる。			○	
D 電気と磁気	静電気の帯電の仕組み、殿下の持つ電気量について正しく理解させる。電場とはどのようなものかを理解し、電荷が電場から受ける力や電場の強さの式を正しく用いることができるようにする。電位について理解し、様々な関係式を正しく用いることができるようにする。コンデンサーの基本公式を正しく適用できるようにする。オームの法則をはじめとする基本式を適切に使用できるようにする。抵抗の直列接続、並列接続を正しく理解させる。磁気量についてクーロンの法則や磁場の定義の中でどのように使われているかを理解させる。直線電流、円形電流、ソレノイドの電流が作る磁場について理解させる。フレミングの左手の法則について理解させる。ローレンツ力について理解させる。	静電気力 電場 電位 物質と電場 コンデンサー オームの法則 直流回路 半導体 磁場 電流のつくる磁場 電流が磁場から受ける力 ローレンツ力 電磁誘導の法則 自己誘導と相互誘導 交流の発生 交流回路 電磁波	静電気の帯電の仕組み、電荷の持つ電気量について正しく理解している。電場とはどのようなものかを理解し、電荷が電場から受ける力や電場の強さの式を正しく用いることができる。電位について理解し、様々な関係式を正しく用いることができる。コンデンサーの基本公式を正しく適用できる。オームの法則をはじめとする基本式を適切に使用できる。抵抗の直列接続、並列接続を正しく理解している。磁気量についてクーロンの法則や磁場の定義の中でどのように使われているかを理解している。直線電流、円形電流、ソレノイドの電流が作る磁場について理解している。フレミングの左手の法則について理解している。ローレンツ力について理解している。	○			35
	電荷間の距離と働く静電気力との関係を説明できるようにする。点電荷のつくる電場の強さが何に関係するかを説明できるようにする。電気力線と等電位電位線の関係について説明できるようにする。電場中に置いた導体内部の電場と電位がどのようなことになるかを説明できるようにする。平行板コンデンサーの充電のメカニズムを説明できるようにする。電圧降下とはどのようなことかを説明できるようにする。電池の起電力や内部抵抗について説明できるようにする。半導体ダイオードの整流作用について説明できるようにする。直線電流や円形電流が作る磁場について説明できるようにする。フレミングの左手の法則を用いて電流の流れている導線がどの向きに力を受けるかを判断することができるようにする。磁場中を運動する荷電粒子の運動について説明ができるようにする。		電荷間の距離と働く静電気力との関係を説明できる。点電荷のつくる電場の強さが何に関係するかを説明できる。電気力線と等電位電位線の関係について説明できる。電場中に置いた導体内部の電場と電位がどのようなことになるかを説明できる。平行板コンデンサーの充電のメカニズムを説明できる。電圧降下とはどのようなことかを説明できる。電池の起電力や内部抵抗について説明できる。半導体ダイオードの整流作用について説明できる。直線電流や円形電流が作る磁場について説明できる。フレミングの左手の法則を用いて電流の流れている導線がどの向きに力を受けるかを判断することができる。磁場中を運動する荷電粒子の運動について説明ができる。		○		

	電氣的な力が及ぶ空間である電場について興味・関心を持たせる。電位について興味・関心を示し、電場と電位の違いについて理解するようにする。コンデンサーの性質を理解すべく、実験に主体的に取り組ませる。電流の流れ方は物質の種類やつなぎ方によってどのように異なるかということに興味を持たせる。電気回路に流れる電流や加わる電圧の測定や考察に主体的に取り組ませる。直線電流によって生じる磁場の向きを観察でき、実験に主体的に取り組ませる。電流が磁場から受ける力を観察でき、実験に主体的に取り組ませる。		電氣的な力が及ぶ空間である電場について興味・関心を示している。電位について興味・関心を示し、電場と電位の違いについて理解しようとしている。コンデンサーの性質を理解すべく、実験に主体的に取り組んでいる。電流の流れ方は物質の種類やつなぎ方によってどのように異なるかということに興味を持っている。電気回路に流れる電流や加わる電圧の測定や考察に主体的に取り組んでいる。直線電流によって生じる磁場の向きを観察でき、実験に主体的に取り組んでいる。電流が磁場から受ける力を観察でき、実験に主体的に取り組んでいる。				○	
E 原子	光電効果について理解させる。X線の性質、特徴について理解させる。ボーアの理論について理解させる。同位体について理解させる。放射崩壊によって原子核がどのように変化するか理解させる。半減期について理解させる。核反応を式に表すことができるようにする。核分裂反応、核融合反応について理解させる。	電子 光の粒子性 X線 粒子の波動性 原子の構造とエネルギー準位 原子核 放射線とその性質 核反応と核エネルギー 素粒子 物理学が築く未来	光電効果について理解している。X線の性質、特徴について理解している。ボーアの理論について理解している。同位体について理解している。放射崩壊によって原子核がどのように変化するか理解している。半減期について理解している。核反応を式に表すことができる。核分裂反応、核融合反応について理解している。	○				
	電子のエネルギー準位について理解し、説明できるようにする。原子核の構成から同位体どうしの相違点について説明できるようにする。アルファ線、ベータ線、ガンマ線の正体や、アルファ崩壊、ベータ崩壊の仕組みを説明できるようにする。核反応の前後で原子核の質量の輪が減少するとき、その質量差に相当するエネルギーが核エネルギーとして開放されることを定量的に説明できるようにする。		電子のエネルギー準位について理解し、説明できる。原子核の構成から同位体どうしの相違点について説明できる。アルファ線、ベータ線、ガンマ線の正体や、アルファ崩壊、ベータ崩壊の仕組みを説明できる。核反応の前後で原子核の質量の輪が減少するとき、その質量差に相当するエネルギーが核エネルギーとして開放されることを定量的に説明できる。		○			15
	光が粒子性を持つことに興味・関心を示し、光電効果の原理などを理解するようにする。放射線と放射性物質ではどのように意味が異なるのか興味関心を示し、放射線とその性質について理解するようにする。核エネルギーとは何か、なぜ莫大なエネルギーが取り出せるのかに興味・関心を示し、理解するようにする。		光が粒子性を持つことに興味・関心を示し、光電効果の原理などを理解しようとしている。放射線と放射性物質ではどのように意味が異なるのか興味関心を示し、放射線とその性質について理解しようとしている。核エネルギーとは何か、なぜ莫大なエネルギーが取り出せるのかに興味・関心を示し、理解しようとしている。				○	

高等学校 令和 8 年度 教科 理科 科目 物理演習

教 科： 理科 科 目： 物理演習 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組

教科担当者：（A 組：坂本正史）（B 組：坂本正史）（C 組：坂本正史）（D～F 組：小林）

使用教科書：（数研 物理 7 0 6 物理 ）

教科 理科 の目標： 物理的なものの見方・考え方を身につけると同時に、より高い科学的自然観を育成する。

【知識及び技能】 自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 物理演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
学習した物理の基本的な概念や原理・法則が正しく理解できるようにする。学習した概念や原理・法則をその学習や生活の中で新しい自傷の解釈に応用できるようにする。	課題を遂行するにあたって、科学的・論理的に思考し、判断できるようにする。課題の設定理由、研究過程、結果及びそこから導き出した自らの考えを的確かつ簡潔にわかりやすく相手に伝えられるようにする。	物理的な事物・現象に対して主体的にかかわり、理解するようにする。物理的な事物・現象に対する気づきから課題を設定し解決できる態度を身に付けさせる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
	A 力と運動	平面運動の速度加速度 落体の運動 剛体に働く力のつり合い 剛体に働く力の合力と重心 運動量と力積 運動量保存の法則 反発係数 等速円運動 慣性力 単振動 万有引力	水平投射や水平投射の計算ができる。力のモーメントについて理解し、剛体に働く複数の力の合力を求めることができる。運動量と力積について計算ができる。反発係数の式を用いて衝突する物体の運動の計算をできる。等速円運動する物体の回転速度、角速度、周期、回転数などの計算ができる。慣性力を含めたつり合いの式を立てることができる。単振動の変位、速度、加速度を計算により求めることができるようにする。	○			20
	動く観測者から見た物体の様子を計算によって求めることができるようにする。斜方投射の様子を鉛直方向と水平方向に分けて計算ができるようにする。力のモーメントの計算ができるようにする。剛体の点灯する条件を理解し、計算ができるようにする。運動量と力積の関係の式から物体が受ける力積と平均の力について計算ができるようにする。運動量保存の法則と反発係数から衝突後の速度を計算できるようにする。単振り子と周期の公式を用いて様々な計算をできるようにする。	動く観測者から見た物体の様子を計算庵求めることができる。斜方投射の様子を鉛直方向と水平方向に分けて計算ができる。力のモーメントの計算ができる。剛体の点灯する条件を理解し、計算ができる。運動量と力積の関係の式から物体が受ける力積と平均の力について計算ができる。運動量保存の法則と反発係数から衝突後の速度を計算できる。単振り子と周期の公式を用いて様々な計算をできる。		○			
	水平投射、斜方投射について計算ができるようにする。剛体のつり合いは併進運動のつり合いと回転運動のつり合いが必要なことを理解しようとする。物体の運動について運動量と力積を用いて理解させる。弾みやすいかどうかを定量的に表すのが反発係数であるということを理解させる。等速円運動する物体にはどのような力が働いているか理解させる。単振動の速度や加速度がどのように変化するかを理解できるようにする。	水平投射、斜方投射について計算ができるようにしようとしている。剛体のつり合いは併進運動のつり合いと回転運動のつり合いが必要なことを理解しようとしている。物体の運動について運動量と力積を用いて理解しようとしている。弾みやすいかどうかを定量的に表すのが反発係数であるということを理解しようとしている。等速円運動する物体にはどのような力が働いているか理解しようとしている。単振動の速度や加速度がどのように変化するかを理解しようとしている。			○		
	B 熱と気体	気体の法則 気体分子の運動 気体の状態変化	気体の圧力を求める式を理解・暗記している。気体が熱運動をして壁などの面に力を及ぼすことから圧力の大きさを表す式を導くことができる。単原子分子の理想気体の内部エネルギーについて理解できている。	○		○	10
	ボイルシャルルの法則を用いた計算ができるようにする。平均運動エネルギーを絶対温度から計算できるようにする。気体の状態変化と気体がされた仕事について計算ができるようにする。	ボイルシャルルの法則を用いた計算ができる。平均運動エネルギーを絶対温度から計算できる。気体の状態変化と気体がされた仕事について計算ができる。		○			
	気体の圧力や体積、温度を変えるときこれらの量の間にどのような関係が成り立っているかを理解させる。気体が状態変化をするとき、エネルギーはどのようになるのかを理解させる。	気体の圧力や体積、温度を変えるときこれらの量の間にどのような関係が成り立っているかを理解しようとしている。気体が状態変化をするとき、エネルギーはどのようになるのかを理解しようとしている。			○		

C 波動	波が伝わる様子をグラフで表すことができるようにする。位相のずれや進行方向の違いなども考慮して正弦波の式を正しく表すことができるようにする。ドップラー効果の式が導出される過程を理解し、場面によって用いる公式の違いを理解させる。屈折の法則を理解させる。レンズと鏡によって生じる像を作図できるようにする。ヤングの実験、回折格子、薄膜、楔形空気層、ニュートンリングのそれぞれの光の干渉条件を理解させる。	波と波動の運動 正弦波の式 波の伝わり方 音の伝わり方 音のドップラー効果 光の性質 レンズと鏡 光の干渉と回折	波が伝わる様子をグラフで表すことができる。位相のずれや進行方向の違いなども考慮して正弦波の式を正しく表すことができる。ドップラー効果の式が導出される過程を理解し、場面によって用いる公式の違いを理解している。屈折の法則を理解している。レンズと鏡によって生じる像を作図できる。ヤングの実験、回折格子、薄膜、楔形空気層、ニュートンリングのそれぞれの光の干渉条件を理解している。	○			10
	光が媒質の境界面で屈折する様子の図からどちらの媒質の方が光の進む速さが早いか計算できるようにする。回折格子の実験で波長や格子定数を変えたときの明線の間隔の計算をすることができるようにする。		光が媒質の境界面で屈折する様子の図からどちらの媒質の方が光の進む速さが早いか計算できる。回折格子の実験で波長や格子定数を変えたときの明線の間隔の計算をすることができる。		○		
	光が関係する現象に興味を持ち、光に関する基本的事項と光の進み方について理解させる。レンズや鏡に興味を持ち、それによってどのような像ができるか理解させる。		光が関係する現象に興味を持ち、光に関する基本的事項と光の進み方について理解しようとしている。レンズや鏡に興味を持ち、それによってどのような像ができるか理解しようとしている。			○	
D 電気と磁気	静電気の帯電の仕組み、電荷の持つ電気量について正しく理解させる。電場とはどのようなものかを理解し、電荷が電場から受ける力や電場の強さの式を正しく用いることができるようにする。電位について理解し、様々な関係式を正しく用いることができるようにする。コンデンサーの基本公式を正しく適用できるようにする。オームの法則をはじめとする基本式を適切に使用できるようにする。抵抗の直列接続、並列接続を正しく理解させる。磁気量についてクーロンの法則や磁場の定義の中でどのように使われているかを理解させる。直線電流、円形電流、ソレノイドの電流が作る磁場について理解させる。フレミングの左手の法則について理解させる。ローレンツ力について理解させる。	静電気力 電場 電位 物質と電場 コンデンサー オームの法則 直流回路 半導体 磁場 電流のつくる磁場 電流が磁場から受ける力 ローレンツ力 電磁誘導の法則 自己誘導と相互誘導 交流の発生 交流回路 電磁波	静電気の帯電の仕組み、電荷の持つ電気量について正しく理解している。電場とはどのようなものかを理解し、電荷が電場から受ける力や電場の強さの式を正しく用いることができる。電位について理解し、様々な関係式を正しく用いることができる。コンデンサーの基本公式を正しく適用できる。オームの法則をはじめとする基本式を適切に使用できる。抵抗の直列接続、並列接続を正しく理解している。磁気量についてクーロンの法則や磁場の定義の中でどのように使われているかを理解している。直線電流、円形電流、ソレノイドの電流が作る磁場について理解している。フレミングの左手の法則について理解している。ローレンツ力について理解している。	○			20
	電荷間の距離と働く静電気力との関係を基に計算をすることができるようにする。点電荷のつくる電場の強さの計算ができるようにする。平行板板コンデンサーに充電される電気量の計算ができるようにする。電圧降下の計算ができるようにする。電池の起電力や内部抵抗について計算ができるようにする。直線電流や円形電流が作る磁場について計算できるようにする。磁場中で電流が受ける力の大きさを計算できるようにする。磁場中を運動する荷電粒子の運動の計算ができるようにする。		電荷間の距離と働く静電気力との関係を基に計算をすることができる。点電荷のつくる電場の強さの計算ができる。平行板板コンデンサーに充電される電気量の計算ができる。電圧降下の計算ができる。電池の起電力や内部抵抗について計算ができる。直線電流や円形電流が作る磁場について計算できる。磁場中で電流が受ける力の大きさを計算できる。磁場中を運動する荷電粒子の運動の計算ができる。		○		
	電氣的な力が及ぶ空間である電場について興味・関心を示させる。電位について興味・関心を示し、電場と電位の違いについて理解させる。		電氣的な力が及ぶ空間である電場について興味・関心を示している。電位について興味・関心を示し、電場と電位の違いについて理解しようとしている。			○	
E 原子	光電効果について理解させる。X線の性質、特徴について理解させる。ボーアの理論について理解させる。同位体について理解させる。放射崩壊によって原子核がどのように変化するか理解させる。半減期について理解させる。核反応を式に表すことができるようにする。核分裂反応、核融合反応について理解させる。	電子 光の粒子性 X線 粒子の波動性 原子の構造とエネルギー準位 原子核 放射線とその性質 核反応と核エネルギー 素粒子 物理学が築く未来	光電効果について理解している。X線の性質、特徴について理解している。ボーアの理論について理解している。同位体について理解している。放射崩壊によって原子核がどのように変化するか理解している。半減期について理解している。核反応を式に表すことができる。核分裂反応、核融合反応について理解している。	○			10
	核反応の前後で原子核の質量の和が減少するとき、放出されるエネルギーの量を計算により求めることができるようにする。		核反応の前後で原子核の質量の和が減少するとき、放出されるエネルギーの量を計算により求めることができる。		○		

光が粒子性を持つことに興味・関心をもたせる。光電効果の原理などを理解させる。核エネルギーとは何か、なぜ莫大なエネルギーが取り出せるのか理解させる。	光が粒子性を持つことに興味・関心を示し、光電効果の原理などを理解しようとしている。放射線と放射性物質ではどのように意味が異なるのか興味関心を示し、放射線とその性質について理解しようとしている。核エネルギーとは何か、なぜ莫大なエネルギーが取り出せるのかに興味・関心を示し、理解しようとしている。			○	
--	---	--	--	---	--

教科 ： 理科 科目 ： 化学基礎

対象学年組 ： 第 1 学年A組～F組

教科担当 ： （A組 ： 田口耕平） （B組 ： 服部智則） （C組 ： 田口耕平） （D組 ： 藤田美紀） （E組 ： 田口耕平） （F組 ： 藤田美紀）

使用教科書 ： 啓林館 i版 化学基礎 改訂版

教科 理科の目標

【知識及び技能】 自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けるようにする。	物質とその変化から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を養う。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知	思	態	配当 時数
A 化学と人間生活・物質の構成（物質の成分と構成元素） （１）「知識及び技能」 化学と人間生活、化学の特徴、物質の分離・精製について基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けること。 （２）「思考力・判断力・表現力等」 物質の分離や精製、元素の確認について、観察、実験などを通して探究し、物質を対象とする科学である化学の特徴を見い出して表現すること。 （３）「学びに向かう力、人間性等」 化学と人間生活、物質の構成に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度を養う。	・人間生活のなかの化学 ・化学とその役割	（１）「知識及び技能」 化学と人間生活、化学の特徴、物質の分離・精製について基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 （２）「思考力・判断力・表現力等」 物質の分離や精製、元素の確認について、観察、実験などを通して探究し、物質を対象とする科学である化学の特徴を見い出して表現している。 （３）「学びに向かう力、人間性等」 化学と人間生活、物質の構成に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○			2 1 4 3 3
	・物質の成分 ・物質の構成元素 ・物質の三態			○		
					○	
B 物質の構成（原子の構造と元素の周期表・化学結合） （１）「知識及び技能」 原子の構造、電子配置と周期表、物質と化学結合の基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けること。 （２）「思考力・判断力・表現力等」 物質の構成粒子、物質と化学結合について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現すること。 （３）「学びに向かう力、人間性等」 物質の構成に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度を養う。	・原子の構造 ・電子配置と周期表	（１）「知識及び技能」 原子の構造、電子配置と周期表、物質と化学結合の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 （２）「思考力・判断力・表現力等」 物質の構成粒子、物質と化学結合について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現している。 （３）「学びに向かう力、人間性等」 物質の構成に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○			3 3 2 2 2 3
	・イオンとイオン結合 ・分子と共有結合 ・金属と金属結合 ・物質の分類			○		
					○	
C 物質の変化（物質量と化学反応式） （１）「知識及び技能」 物質量と化学反応式の基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けること。 （２）「思考力・判断力・表現力等」 化学反応について、観察、実験などを通して探究し、物質の構成における規則性や関係性の特徴を見い出して表現すること。 （３）「学びに向かう力、人間性等」 物質量と化学反応式に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度を養う。	・原子量・分子量・式量 ・物質量 ・溶液の濃度 ・化学反応式とその量的関係	（１）「知識及び技能」 物質量と化学反応式の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 （２）「思考力・判断力・表現力等」 化学反応について、観察、実験などを通して探究し、物質の構成における規則性や関係性の特徴を見い出して表現している。 （３）「学びに向かう力、人間性等」 物質量と化学反応式に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○			2 3 3 3
				○		
					○	
D 物質の変化（酸と塩基・酸化還元反応） （１）「知識及び技能」 物質の変化とその利用についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けること。 （２）「思考力・判断力・表現力等」 酸や塩基について、観察、実験などを通して探究し、酸と塩基の性質及び中和反応に関する物質とその量的関係、物質の変化における規則性や関係性の特徴を見い出して表現すること。 （３）「学びに向かう力、人間性等」 物質の変化とその利用に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度を養う。	・酸と塩基 ・水素イオン濃度と pH ・中和反応と塩の生成 ・中和滴定 ・酸化と還元 ・酸化剤と還元剤 ・金属の酸化還元反応 ・酸化還元反応の応用	（１）「知識及び技能」 物質の変化とその利用についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 （２）「思考力・判断力・表現力等」 酸や塩基について、観察、実験などを通して探究し、酸と塩基の性質及び中和反応に関する物質とその量的関係、物質の変化における規則性や関係性の特徴を見い出して表現している。 （３）「学びに向かう力、人間性等」 物質の変化とその利用に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○			2 4 2 2 2 2
				○		
					○	

教科 ： 理科 科目 ： 化学

対象学年組 ： 第 2 学年A組～F組

教科担当 ： （AB組 ： 藤田美紀） （CD組 ： 藤田美紀） （EF組 ： 藤田美紀）

使用教科書 ： 啓林館 高等学校 化学

- 教科 理科の目標
- 【知識及び技能】 自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解する。科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けるとともに，実験結果に対する考察をじゅうぶん行うようにする。
- 【思考力，判断力，表現力等】 自然の事物・現象から問題を見だし，見通しをもって観察，実験などを行い，得られた結果を分析して解釈し，表現するなど，科学的に探究する力を養う。観察，実験結果に対する内容を適切に伝達・表現できるようにする。
- 【学びに向かう力，人間性等】 授業で得た結果をもとに発展的な興味関心をもって自主的活動を行うようにする。科学的に探究し，その成果をいかして社会や生活との関連を考えられる態度を養う。

科目 化学の目標

【知識及び技能】	【思考力，判断力，表現力等】	【学びに向かう力，人間性等】
観察，実験などを通して，物質の状態変化とその平衡に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し，知識を身に付けている。	観察，実験の技能を習得するとともに，物質の状態変化とその平衡に関する事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け，それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現できる。	化学的な事物・事象のうち，物質の状態変化とその平衡について関心や探究心をもち，意欲的にそれらの理解や探究に取り組むとともに，科学的な自然観を身に付けている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知	思	態	配当 時数
固体の構造 ・化学結合とそれぞれの性質，及び結晶構造を理解させる。 ・結晶の構造を理解させる。・アモルファスの性質を理解させる。	化学結合と結晶 結晶の構造 アモルファス(非晶質)	気体，液体，固体の性質を観察，実験などを通して探究し，物質の状態変化，状態間の平衡，溶解平衡及び溶液の性質について理解するとともに，それらを日常生活や社会と関連付けて考察することができているか。	○	○	○	6
物質の状態変化 ・状態変化に伴うエネルギーの出入りを学び，物質の沸点，融点を分子間力や化学結合と関連づけて理解させる。 ・状態間の平衡と温度や圧力との関係について理解させる。	状態変化 気液平衡と蒸気圧					6
気体の性質 ・気体の体積と圧力や温度との関係を理解させる。 ・気体定数と状態方程式，分子量の関係を理解させる。	気体の体積の変化 気体の状態方程式					6
溶液の性質 ・溶解の仕組みを理解させること。また，溶解度を溶解平衡と関連づけて理解させる。 ・身近な現象を通して溶媒と溶液の性質の違いを理解させる。 ・コロイド溶液の性質を理解させる。	溶解と溶解度 希薄溶液の性質 コロイド					6
化学反応と熱・光エネルギー ・化学反応における熱の発生や吸収は，反応の前後における物質のもつエンタルピーの差であることを理解させる。 ・物質が変化するとき出入りする熱量(反応エンタルピー)は，最初と最後の状態だけで決まり，反応経路には無関係であることを理解させる。 ・化学反応における光の発生や吸収は，反応の前後における物質のもつエンタルピーの差であることを理解させる。	反応熱とエンタルピー 化学反応と光	化学反応に伴うエネルギーの出入り，反応速度及び化学平衡を観察，実験などを通して探究し，化学反応に関する概念や法則を理解するとともに，それらを日常生活や社会と関連付けて考察することができているか。	○	○	○	10
化学反応と電気エネルギー ・電池は，酸化還元反応によって電気エネルギーを取り出す仕組みであることを理解させる。 ・外部から加えた電気エネルギーによって，電極で酸化還元反応が起こることを理解させる。また，その反応に関与した物質の変化量と電気量との関係について理解させる。	電池 電気分解					10
反応速度 ・反応速度の表し方及び反応速度に影響を与える要因を理解させる。 ・化学反応の仕組みを理解させ，反応速度を速める触媒について理解させる。	反応の速さ 化学反応と触媒					6
化学平衡 ・可逆反応，化学平衡及び化学平衡の移動を理解させる。 ・水のイオン積とpH，弱酸や弱塩基の電離平衡，難溶性塩の溶解平衡について理解させる。	化学平衡とその移動 電離平衡					16
無機物質 ・非金属元素の単体及び，その化合物の性質を理解させる。 ・典型金属元素の単体及び，その化合物の性質を理解させる。 ・遷移元素の単体及び，その化合物の性質を理解させる。 ・金属陽イオンの特定や陰イオンとの反応，分離と確認について理解させる。	周期表と元素の分類第1節 水素と貴ガス ハロゲン 酸素・硫黄 窒素・リン 炭素・ケイ素 アルカリ金属 アルカリ土類金属 アルミニウム スズ・鉛 遷移元素 金属イオンの分離と確認	無機物質の性質や反応を観察，実験などを通して探究し，元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解するとともに，それらを日常生活や社会と関連付けて考察することができているか。	○	○	○	24
有機化合物 ・有機化合物の特徴と分類を理解させる。 ・元素分析により，組成式・分子式・構造式が決定されることを理解させる。 ・脂肪酸炭化水素の性質や反応を構造と関連づけて理解させる。 ・不飽和炭化水素，官能基をもつ脂肪酸化合物の性質や反応について理解させる。・ 酸素を含む脂肪酸化合物の性質について理解させる。・芳香族化合物の性質について理解させる。・有機化合物の性質を利用し，混合溶液の分離が可能であることを理解させる。	有機化合物の特徴と分類 有機化合物の分析 飽和炭化水素 不飽和炭化水素 アルコールとエーテル アルデヒドとケトン カルボン酸 エステルと油脂第1節 芳香族炭化水素 酸素を含む芳香族化合物 窒素を含む芳香族化合物 有機化合物の分離	有機化合物の性質や反応を観察，実験などを通して探究し，有機化合物の分類と特徴を理解するとともに，それらを日常生活や社会と関連付けて考察することができているか。	○	○	○	24
高分子化合物 ・高分子化合物の分類や特徴を理解させる。	高分子化合物の分類と特徴 天然高分子化合物 糖類 タンパク質 核酸 合成高分子化合物 高分子化合物の合成 合成繊維 プラスチック(合成樹脂) ゴム 生活で利用されている合成樹脂	高分子化合物の性質や反応を観察，実験などを通して探究し，合成高分子化合物と天然高分子化合物の特徴を理解するとともに，それらを日常生活や社会と関連付けて考察することができているか。	○	○	○	14
化学が果たす役割		これまでの学習を受けて，青色LED，医薬品など，私たちの日常生活に活用されている技術とのつながりを考察することができているか。	○	○	○	2
						合計
						130

教科 ： 理科 科目 ： 発展化学
対象学年組 ： 第3学年A組～F組
教科担当 ： （A～F組 田口耕平）
使用教科書 ： 啓林館 高等学校 化学

教科 理科の目標

- 【知識及び技能】 自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解する。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けるとともに、実験結果に対する考察をじゅうぶん行うようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を養う。
- 観察、実験結果に対する内容を適切に伝達・表現できるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】 授業で得た結果をもとに発展的な興味関心をもって自主的活動を行うようにする。科学的に探究し、その成果をいかして社会や生活との関連を考えられる態度を養う。

科目 発展化学の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
観察、実験などを通して、物質の状態変化とその平衡に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	観察、実験の技能を習得するとともに、物質の状態変化とその平衡に関する事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現できる。	化学的な事物・事象のうち、物質の状態変化とその平衡について関心や探究心をもち、意欲的にそれらの理解や探究に取り組むとともに、科学的な自然観を身に付けている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知	思	態	配当 時数
・高分子化合物の分類や特徴を理解させる。 ・共通テスト形式の問題に慣れ、深く考えることができる。 ・私立大や国公立2次試験の過去問等に慣れ、深く考えることができる。	高分子化合物 共通テスト対策演習 私立大・国公立2次試験対策演習	【知識・技能】 基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】 科学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】 化学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	22
・非金属元素の単体及び、その化合物の性質を理解させる。 ・典型金属元素の単体及び、その化合物の性質を理解させる。 ・遷移元素の単体及び、その化合物の性質を理解させる。 ・金属陽イオンの特定や陰イオンとの反応、分離と確認について理解させる。	無機化合物	【知識・技能】 基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】 科学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】 化学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	16
・有機化合物の特徴と分類を理解させる。 ・元素分析により、組成式・分子式・構造式が決定されることを理解させる。 ・脂肪酸炭化水素の性質や反応を構造と関連づけて理解させる。 ・不飽和炭化水素、官能基をもつ脂肪酸化合物の性質や反応について理解させる。 ・ 酸素を含む脂肪酸化合物の性質について理解させる。 ・芳香族化合物の性質について理解させる。 ・有機化合物の性質を利用し、混合溶液の分離が可能であることを理解させる。	有機化合物	【知識・技能】 基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】 科学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】 化学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	16
化学基礎 ・化学結合とそれぞれの性質、及び結晶構造を理解させる。 結晶の構造を理解させる。 ・アモルファスの性質を理解させる。 ・状態変化に伴うエネルギーの出入りを学び、物質の沸点、融点を分子間力や化学結合と関連づけて理解させる。 ・状態間の平衡と温度や圧力との関係について理解させる。 ・気体の体積と圧力や温度との関係を理解させる。 ・気体定数と状態方程式、分子量の関係を理解させる。 ・溶解の仕組みを理解させること。また、溶解度を溶解平衡と関連づけて理解させる。 ・身近な現象を通して溶媒と溶液の性質の違いを理解させる。 ・コロイド溶液の性質を理解させる。	化学基礎の復習 固体の構造 物質の状態変化 気体の性質 溶液の性質	【知識・技能】 基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】 科学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】 化学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	8 8 8 8
・化学反応における熱の発生や吸収は、反応の前後における物質のもつエンタルピーの差であることを理解させる。 ・物質が変化するとき出入りする熱量(反応エンタルピー)は、最初と最後の状態だけで決まり、反応経路には無関係であることを理解させる。 ・化学反応における光の発生や吸収は、反応の前後における物質のもつエンタルピーの差であることを理解させる。 ・電池は、酸化還元反応によって電気エネルギーを取り出す仕組みであることを理解させる。 ・外部から加えた電気エネルギーによって、電極で酸化還元反応が起こることを理解させる。また、その反応に関与した物質の変化量と電流量との関係について理解させる。 ・反応速度の表し方及び反応速度に影響を与える要因を理解させる。 ・化学反応の仕組みを理解させ、反応速度を速める触媒について理解させる。 ・可逆反応、化学平衡及び化学平衡の移動を理解させる。 ・水のイオン積とpH、弱酸や弱塩基の電離平衡、難溶性塩の溶解平衡について理解させる。	化学反応と熱・光エネルギー・電気エネルギー 化学反応と電気エネルギー 反応速度 化学平衡	【知識・技能】 基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】 科学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】 化学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	12 12 8 12
						合計
						130

教科 ： 理科 科目 ： 化学演習

対象学年組 ： 第3学年A組～F組

教科担当 ： （A～F組 田口耕平）

使用教科書 ： 啓林館 高等学校 化学

- 教科 理科の目標
- 【知識及び技能】 自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解する。科学的に探究するために必要な実験に関する操作や記録などの技能を身に付けるとともに、実験結果に対する考察を十分に行う。
 - 【思考力、判断力、表現力等】 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって実験を行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を養う。観察、実験結果に対する内容を適切に伝達・表現できるようにする。
 - 【学びに向かう力、人間性等】 授業で得た結果をもとに発展的な興味関心をもって自主的活動を行うようにする。科学的に探究し、その成果をいかして社会や生活との関連を考えられる態度を養う。

科目 化学の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
観察、実験などを通して、物質の状態変化とその平衡に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	観察、実験の技能を習得するとともに、物質の状態変化とその平衡に関する事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現できる。	化学的な事物・事象のうち、物質の状態変化とその平衡について関心や探究心をもち、意欲的にそれらの理解や探究に取り組むとともに、科学的な自然観を身に付けている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知	思	態	配当 時数
・高分子化合物の分類や特徴を理解させる。 ・共通テスト形式の問題に慣れ、深く考えることができる。	高分子化合物	【知識・技能】基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】科学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】化学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	8
・非金属元素の単体及び、その化合物の性質を理解させる。 ・典型金属元素の単体及び、その化合物の性質を理解させる。 ・遷移元素の単体及び、その化合物の性質を理解させる。 ・金属陽イオンの特定や陰イオンとの反応、分離と確認について理解させる。	無機化合物	【知識・技能】基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】科学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】化学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	12
・有機化合物の特徴と分類を理解させる。 ・元素分析により、組成式・分子式・構造式が決定されることを理解させる。 ・脂肪族炭化水素の性質や反応を構造と関連づけて理解させる。 ・不飽和炭化水素、官能基をもつ脂肪族化合物の性質や反応について理解させる。 ・酸素を含む脂肪族化合物の性質について理解させる。 ・芳香族化合物の性質について理解させる。 ・有機化合物の性質を利用し、混合溶液の分離が可能であることを理解させる。	有機化合物	【知識・技能】基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】科学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】化学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	12
化学基礎 ・化学結合とそれぞれの性質、及び結晶構造を理解させる。 結晶の構造を理解させる。 ・アモルファスの性質を理解させる。 ・状態変化に伴うエネルギーの出入りを学び、物質の沸点、融点を分子間力や化学結合と関連づけて理解させる。 ・状態間の平衡と温度や圧力との関係について理解させる。 ・気体の体積と圧力や温度との関係を理解させる。 ・気体定数と状態方程式、分子量の関係を理解させる。 ・溶解の仕組みを理解させること。また、溶解度を溶解平衡と関連づけて理解させる。 ・身近な現象を通して溶媒と溶液の性質の違いを理解させる。 ・コロイド溶液の性質を理解させる。	化学基礎の復習 固体の構造 物質の状態変化 気体の性質 溶液の性質	【知識・技能】基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】科学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】化学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	4 4 4 4
・化学反応における熱の発生や吸収は、反応の前後における物質のもつエンタルピーの差であることを理解させる。 ・物質が変化するとき出入りする熱量(反応エンタルピー)は、最初と最後の状態だけで決まり、反応経路には無関係であることを理解させる。 ・化学反応における光の発生や吸収は、反応の前後における物質のもつエンタルピーの差であることを理解させる。 ・電池は、酸化還元反応によって電気エネルギーを取り出す仕組みであることを理解させる。 ・外部から加えた電気エネルギーによって、電極で酸化還元反応が起こることを理解させる。また、その反応に関与した物質の変化量と電流量との関係について理解させる。 ・反応速度の表し方及び反応速度に影響を与える要因を理解させる。 ・化学反応の仕組みを理解させ、反応速度を速める触媒について理解させる。 ・可逆反応、化学平衡及び化学平衡の移動を理解させる。 ・水のイオン積とpH、弱酸や弱塩基の電離平衡、難溶性塩の溶解平衡について理解させる。	化学反応と熱・光エネルギー・電気エネルギー 化学反応と電気エネルギー 反応速度 化学平衡	【知識・技能】基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】科学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】化学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	6 6 4 6
						合計
						70

年間授業計画

高等学校 令和8年度（3 学年用） 教科 理科 科目 生物

教科 ： 理科 科目 ： 生物
対象学年組 ： 第3 学年A組～F組 選択者
教科担当 ： 中谷 豊
使用教科書 ： 実教出版 高等学校 生物

教科 理科の目標

- 【知識及び技能】生物や生命現象に関心や探究心をもち、意欲的に学習する態度を見に付けているか。生物や生命現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。
生物や生命現象に見られる事象を実証的、論理的に捉えたり、分析的、総合的に考察したり、科学的に考えることができるか。実験・観察の技能を習得するとともに、その過程や結果、およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現できるか。
- 【思考力、判断力、表現力等】
- 【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度を有しているか。

科目 生物の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生物基礎で学習した内容を基礎として、生物や生命現象の基本的な原理・原則の理解をさらに深めるとともに、観察・実験を通して科学的な自然観を育てる。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本	生物や生物現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などをを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を養う。	生命現象を分子レベルでとらえるとともに、生物の進化と多様性、分類、環境との関わりについて理解を深めながら、科学的に探究する能力と態度を育てる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知	思	態	配当 時数
1 生命の起源と生物の進化 1 生命の起源、生物の変遷と地質時代、人類の進化について理解する。 2 細胞と分子 2 生体物質、細胞の構造と機能、タンパク質の構造、酵素、輸送、情報伝達、免疫、細胞接着とタンパク質について理解する。 3 代謝 3 呼吸と発酵、炭酸同化、窒素同化について理解する。 4 遺伝情報の発現と発生 4 DNAの複製のしくみ、転写とスプライシング、翻訳、突然変異、発現調節のしくみ、遺伝子組換え、PCR法、塩基配列決定法、遺伝子導入などについて理解する。 遺伝子の変化と多様性（突然変異）遺伝子の組合せの変化（減数分裂～連鎖と組み換え）進化の仕組み（遺伝的浮動・自然選択・ハーディワインベルグ・種分化）について理解する。 発生と遺伝子発現のしくみについて母性因子と体軸決定、誘導と分化のしくみ、調節遺伝子と形態形成を理解する。	生命の起源と生物の変遷 生体物質と細胞 タンパク質と酵素 細胞とタンパク質 【実験】光合成色素の分離 【実験】カタラーゼ 【実験】酵素 DNAの構造と複製 遺伝情報の発現 遺伝子の発現調節 バイオテクノロジー 有性生殖 動物の発生 発生のしくみ 植物の発生 進化のしくみ 【実験】折り紙バード 【実験】遺伝子組換え実験	「生命の起源と進化」、「細胞と分子」、「代謝」について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 「生命の起源と進化」、「細胞と分子」、「代謝」について観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現している。 「生命の起源と進化」、「細胞と分子」、「代謝」の授業に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりす「遺伝情報の発現と発生」について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 「遺伝情報の発現と発生」について観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現している。 「遺伝情報の発現と発生」の授業に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。				6 8 12 8 8 8
5 動物の反応と行動 ニューロン、興奮の伝導と伝達、受容器、効果器の反応、中枢神経系のはたらき、動物の行動について理解する。 6 植物の環境応答 植物ホルモン、種子発芽・栄養成長・花芽形成・落葉落果の調節と環境応答について理解する。 7 生物群集と生態系 個体群、個体群内の相互作用、個体群間の相互作用、生物群集と共存、物質生産、エネルギーの流れ、生物多様性について理解する。生物の系統と分類について理解する。	動物の反応 動物の行動 【実験】ブタの脳と眼球の解剖 植物の環境応答 個体群と生物群集 生態系の物質生産 生態系と生物多様性 生物の系統	「動物の反応と行動」、「植物の環境応答」、「生物群集と生態系」について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 「動物の反応と行動」、「植物の環境応答」、「生物群集と生態系」について観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現している。 「動物の反応と行動」、「植物の環境応答」、「生物群集と生態系」の授業に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。				12 12 16
全体を振り返り理解度を確認する。	学習のまとめ問題演習	問題演習を通して知識・技能の定着、思考力・判断力・表現力を測る。	○	○		8

教科 ： 理科 科目 ： 生物演習
対象学年組 ： 第3 学年A組～F組 選択者
教科担当 ： 中谷 豊
使用教科書 ： 実教出版 高等学校 生物

教科 理科の目標

- 【知識及び技能】 生物や生命現象に関心や探究心をもち、意欲的に学習する態度を見に付けているか。生物や生命現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。
生物や生命現象に見られる事象を実証的、論理的に捉えたり、分析的、総合的に考察したり、科学的に考えることができるか。実験・観察の技能を習得する
- 【思考力、判断力、表現力等】 とともに、その過程や結果、およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現できるか。
- 【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度を有しているか。

科目 生物の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生物基礎で学習した内容を基礎として、生物や生命現象の基本的な原理・原則の理解をさらに深めるとともに、観察・実験を通して科学的な自然観を育てる。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付ける。	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などをを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を養う。	生命現象を分子レベルでとらえるとともに、生物の進化と多様性、分類、環境との関わりについて理解を深めながら、科学的に探究する能力と態度を育てる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知	思	態	配当 時数
1 生命の起源と生物の進化 1 生命の起源、生物の変遷と地質時代、人類の進化について理解する。 2 細胞と分子 2 生体物質、細胞の構造と機能、タンパク質の構造、酵素、輸送、情報伝達、免疫、細胞接着とタンパク質について理解する。 3 代謝 3 呼吸と発酵、炭酸同化、窒素同化について理解する。 4 遺伝情報の発現と発生 4 DNAの複製のしくみ、転写とスプライシング、翻訳、突然変異、発現調節のしくみ、遺伝子組換え、PCR法、塩基配列決定法、遺伝子導入などについて理解する。 遺伝子の変化と多様性（突然変異）遺伝子の組合せの変化（減数分裂～連鎖と組み換え）進化の仕組み（遺伝的浮動・自然選択・ハーディワインベルグ・種分化）について理解する。 発生と遺伝子発現のしくみについて母性因子と体軸決定、誘導と分化のしくみ、調節遺伝子と形態形成を理解する。	生命の起源と生物の変遷 生体物質と細胞 タンパク質と酵素 細胞とタンパク質 【実験】光合成色素の分離 【実験】カタラーゼ 【実験】酵素 DNAの構造と複製 遺伝情報の発現 遺伝子の発現調節 バイオテクノロジー 有性生殖 動物の発生 発生のしくみ 植物の発生 進化のしくみ 【実験】折り紙バード 【実験】遺伝子組換え実験	「生命の起源と進化」、「細胞と分子」、「代謝」について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 「生命の起源と進化」、「細胞と分子」、「代謝」について観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現している。 「生命の起源と進化」、「細胞と分子」、「代謝」の授業に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりす「遺伝情報の発現と発生」について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 「遺伝情報の発現と発生」について観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現している。 「遺伝情報の発現と発生」の授業に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。				2 4 6 2 4 2
5 動物の反応と行動 ニューロン、興奮の伝導と伝達、受容器、効果器の反応、中枢神経系のはたらき、動物の行動について理解する。 6 植物の環境応答 植物ホルモン、種子発芽・栄養成長・花芽形成・落葉落果の調節と環境応答について理解する。 7 生物群集と生態系 個体群、個体群内の相互作用、個体群間の相互作用、生物群集と共存、物質生産、エネルギーの流れ、生物多様性について理解する。生物の系統と分類について理解する。	動物の反応 動物の行動 【実験】ブタの脳と眼球の解剖 植物の環境応答 個体群と生物群集 生態系の物質生産 生態系と生物多様性 生物の系統	「動物の反応と行動」、「植物の環境応答」、「生物群集と生態系」について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 「動物の反応と行動」、「植物の環境応答」、「生物群集と生態系」について観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現している。 「動物の反応と行動」、「植物の環境応答」、「生物群集と生態系」の授業に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。				6 6 8
全体を振り返り理解度を確認する。	学習のまとめ問題演習	問題演習を通して知識・技能の定着、思考力・判断力・表現力を測る。	○	○		4

教科：保健体育 科目：体育
対象学年組：第1学年A組～F組
教科担当：鈴木 長尾 富川
使用教科書：新高等保健体育(大修館書店)
教科 保健体育の目標

- 【知識及び技能】 各種目の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育の目標

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】	
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。		運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。	
単元の具体的な指導目標		指導項目・内容		評価基準	
A 体づくり運動 (1)「知識及び技能」 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解できるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 体づくり運動、縄跳びに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、話し合いに貢献しようとし、健康・安全を確保することができるようにする。		・縄跳び ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動		(1)「知識及び技能」 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解している。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 体づくり運動、縄跳びに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、話し合いに貢献しようとし、健康・安全を確保したりしている。	
C 陸上競技 (1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解できるようにする。長距離走では自己に適したペースを維持して走ることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 長距離走に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、自己の責任を果たそうとし、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、健康・安全を確保することができるようにする。		・時間走と距離走のタイムトライアル		(1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。長距離走では自己に適したペースを維持して走ることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 長距離走に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、自己の責任を果たそうとし、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、健康・安全を確保したりしている。	
D 水泳 (1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などについて理解できるようにする。手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、健康・安全を確保することができるようにする。		・泳法指導 ・クロール ・平泳ぎ ・背泳ぎ		(1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などについて理解している。手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、健康・安全を確保したりしている。	
E 球技【サッカー】 (1)「知識及び技能」 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などの攻防をすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 サッカーに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。		・基礎練習 (パス・ドリブル・シュート) ・応用練習 (3対3・4対4) ・試合 ・ゲーム及びルールと審判法の理解		(1)「知識及び技能」 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などの攻防をすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 サッカーに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保したりしている。	
E 球技【バレーボール】 (1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方運動観察の方法などについて理解できるようにする。状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 バレーボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。		・基本練習 (パス・レシーブ・サーブ) ・応用練習 (トス・スパイク) ・試合 ・ゲーム及びルールと審判法の理解		(1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方運動観察の方法などについて理解している。状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 バレーボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保したりしている。	
F 球技【ソフトボール】 (1)「知識及び技能」 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 ソフトボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。		・基礎練習 (キャッチボール・トスバッティング) ・応用練習 (ピッチング・バッティング・走塁と守備の連携) ・試合 ・ゲーム及びルールと審判法の理解		(1)「知識及び技能」 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 ソフトボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保したりしている。	
F 武道【柔道】 (1)「知識及び技能」 伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などについて理解できるようにする。相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技、連続技を用いて相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防をすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 柔道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとし、自己の責任を果たそうとし、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、健康・安全を確保することができるようにする。		・基本練習と基本動作 ・受け身の基本 (前受身・後受身・横受身・前回り受身) ・投技・寝技・乱取り ・試合 ・ゲーム及びルールと審判法の理解		(1)「知識及び技能」 伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などについて理解している。相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技、連続技を用いて相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防をすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 柔道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとし、自己の責任を果たそうとし、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、健康・安全を確保したりしている。	
G ダンス (1)「知識及び技能」 ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などについて理解できるようにする。創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で緩急強弱のある動きや空間の使い方に変化を付けて即興的に表現したり、イメージを強調した作品にまとめたりして踊ることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、作品や発表などの話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとし、健康・安全を確保することができるようにする。		・リズムカルな動きの基礎 ・グループ創作と発表		(1)「知識及び技能」 ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などについて理解している。創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で緩急強弱のある動きや空間の使い方に変化を付けて即興的に表現したり、イメージを強調した作品にまとめたりして踊ることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、作品や発表などの話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとし、健康・安全を確保したりしている。	
H 体育理論 (1)「知識」 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解できるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えられるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組むことができるようにする。		スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展		(1)「知識」 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えられる。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組んでいる。	

教科 ： 保健体育 科目 ： 保健

対象学年組 ： 第1学年A組～F組

教科担当 ： （A組 ：長尾 ） （B組 ：作山 ） （C組 ：長尾 ） （D組 ：長尾 ） （E組 ：作山 ） （F組 ：作山 ）

使用教科書 ： 新高等保健体育(大修館書店)

教科 保健体育の目標

【知識及び技能】 各種目の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 保健の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知	思	態	配 時 数
A 現代社会と健康 【健康の考え方】 (1)「知識及び技能」 国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。また健康は様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていることを理解できるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができ (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進や健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組むことができるようにする。	・健康課題の変遷 ・健康の考え方と成り立ち ・ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり ・健康に関する意思決定・行動選択	(1)「知識及び技能」 国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。また健康は様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていることについて理解している。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進や健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
B 現代社会と健康 【現代の感染症とその予防】 (1)「知識及び技能」 感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解できるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができ (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進や健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組むことができるようにする。	・現代における感染症の問題 ・感染症の予防 ・性感染症・エイズとその予防	(1)「知識及び技能」 感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることについて理解している。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進や健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	5
C 現代社会と健康 【生活習慣病などの予防と回復】 (1)「知識及び技能」 健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要で (2)「思考力・判断力・表現力等」 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができ (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組むことができるようにする。	・生活習慣病の予防と回復 ・身体活動・運動と健康 ・食事と健康 ・休養・睡眠と健康	(1)「知識及び技能」 健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることにつ (2)「思考力・判断力・表現力等」 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
D 現代社会と健康 【喫煙、飲酒、薬物乱用と健康】 (1)「知識及び技能」 喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解できるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようになる。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進や健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組むことができるようにする。	・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康	(1)「知識及び技能」 喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解している。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進や健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	5
E 現代社会と健康 【精神疾患の予防と回復】 (1)「知識及び技能」 精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であること。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを理解できるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようになる。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進や精神疾患の予防と回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組むことができるようにする。	・精神疾患と健康 ・精神疾患の特徴 ・精神疾患の対応	(1)「知識及び技能」 精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であること。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを理解している。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進や精神疾患の予防と回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	5
D 安全な社会生活 【安全な社会づくり】 (1)「知識及び技能」 安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取り組みが必要であること。また交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わること。交通事故には補償をはじめとした責任が生じることを理解できるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりについての学習に主体的に取り組むことができるようにする。	・事故の現状と発生要因 ・交通事故防止の取り組み ・安全な社会の形成	(1)「知識及び技能」 安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取り組みが必要であること。また交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わること。交通事故には補償をはじめとした責任が生じることについて理解している。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、考えたことを表現している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
E 安全な社会生活 【応急手当】 (1)「知識及び技能」 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、応急手当は傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解できるようにする。心肺蘇生法などの応急手当を適切に行うことができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりについての学習に主体的に取り組むことができるようにする。	応急手当の意義と救急医療体制 ・心肺蘇生法 ・日常的な応急手当	(1)「知識及び技能」 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、応急手当は傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることについて理解しているとともに、心肺蘇生法などの応急手当の技能を身につけている。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
						合計 35

教科 ： 保健体育 科目 ： 体育

対象学年組 ： 第２学年A組～F組

教科担当 ： 山田 宮川 作山

使用教科書 ： 新高等保健体育(大修館書店)

教科 保健体育の目標

- 【知識及び技能】 各種目の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。
- 【思考力，判断力，表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力，人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育の目標

【知識及び技能】	【思考力，判断力，表現力等】	【学びに向かう力，人間性等】				
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。				
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知	思	態	時数
A 体づくり運動 (１)「知識及び技能」 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解できるようにする。 (２)「思考力・判断力・表現力等」 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (３)「学びに向かう力，人間性等」 体づくり運動、縄跳びに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、話し合いに貢献しようとし、健康・安全を確保することができるようにする。	・縄跳び ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	(１)「知識及び技能」 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解している。 (２)「思考力・判断力・表現力等」 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (３)「学びに向かう力，人間性等」 体づくり運動、縄跳びに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、話し合いに貢献しようとし、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	8
C 陸上競技 (１)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解できるようにする。長距離走では自己に適したペースを維持して走ることができるようにする。 (２)「思考力・判断力・表現力等」 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (３)「学びに向かう力，人間性等」 長距離走に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、自己の責任を果たそうとし、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、健康・安全を確保することができるようにする。	・時間走と距離走のタイムトライアル	(１)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。長距離走では自己に適したペースを維持して走ることができる。 (２)「思考力・判断力・表現力等」 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 (３)「学びに向かう力，人間性等」 長距離走に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、自己の責任を果たそうとし、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	8
D 水泳 (１)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などについて理解できるようにする。手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができるようにする。 (２)「思考力・判断力・表現力等」 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (３)「学びに向かう力，人間性等」 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保することができるようにする。	・泳法指導 ・背泳ぎ ・バタフライ	(１)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などについて理解している。手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができる。 (２)「思考力・判断力・表現力等」 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (３)「学びに向かう力，人間性等」 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	8
E 球技【ハンドボール】 (１)「知識及び技能」 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などの攻防をすることができるようにする。 (２)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (３)「学びに向かう力，人間性等」 ハンドボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとし、健康・安全を確保することができるようにする。	・基礎練習 (パス・ドリブル・シュート) ・応用練習 (4対4・7対7) ・試合 ・ゲーム及びルールと審判法の理解	(１)「知識及び技能」 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などの攻防をすることができる。 (２)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (３)「学びに向かう力，人間性等」 ハンドボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとし、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	10
E 球技【バドミントン】 (１)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方運動観察の方法などについて理解できるようにする。状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 (２)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (３)「学びに向かう力，人間性等」 バドミントンに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとし、健康・安全を確保することができるようにする。	・基本練習 (クリア・ドライブ・ヘアピン) ・応用練習 (スマッシュ・ドロップショット) ・試合 ・ゲーム及びルールと審判法の理解	(１)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方運動観察の方法などについて理解している。状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 (２)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (３)「学びに向かう力，人間性等」 バドミントンに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとし、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	10

E 球技【ソフトボール】 (1)「知識及び技能」 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 ソフトボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする こと、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	・基礎練習 (キャッチボール・トス バッティング) ・応用練習 (ピッチング・バッティング・走塁と守備の連携) ・試合 ・ゲーム及びルールと審判法の理解	(1)「知識及び技能」 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などに (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 ソフトボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	10
E 球技【バスケットボール】 (1)「知識及び技能」 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などの攻防をすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 バスケットボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	・基礎練習 (パス・ドリブル・シュート) ・応用練習 (3対3・5対5) ・試合 ・ゲーム及びルールと審判法の理解	(1)「知識及び技能」 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などの攻防をすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 バスケットボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	10
H 体育理論 (1)「知識」 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組むことができるようにする。	運動やスポーツの効果的な学習の仕方	(1)「知識」 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えられる。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組んでいる。	○	○	○	6 70

教科 ： 保健体育 科目 ： 保健

対象学年組 ： 第2学年A組～F組

教科担当 ： （A組 ： 鈴木 ） （B組 ： 山田 ） （C組 ： 宮川 ） （D組 ： 鈴木 ） （E組 ： 宮川 ） （F組 ： 山田 ）

使用教科書 ： 新高等保健体育(大修館書店)

教科 保健体育の目標

- 【知識及び技能】 各種目の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 保健の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】				
人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じた他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。				
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知	思	態	配当 時数
A 生涯を通じる健康 【思春期と健康・性意識の変化と性行動の選択】 ・思春期における心身の発達や性的成熟について理解する。 ・思春期に起こりやすい健康課題について理解する。 ・自分の行動への責任感や異性の理解と尊重の必要性について理解する。	・思春期と健康 ・性意識の変化と性行動の選択	（１）「知識及び技能」 ・思春期の心身の変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であること （２）「思考力・判断力・表現力等」 ・思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 （３）「学びに向かう力、人間性等」 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	3
B 生涯を通じる健康 【結婚生活と健康・妊娠計画と健康・家族計画】 ・結婚生活と健康との関係について理解する。 ・結婚生活における夫婦関係、親子関係による健康への影響について理解する。 ・受精、妊娠、出産の過程と、それに伴う健康課題について理解する。 ・妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて理解する。 ・家族計画の意義について理解する。	・結婚生活と健康 ・妊娠計画と健康 ・家族計画	（１）「知識及び技能」 ・結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解したことを言ったり書いたりしている。 ・受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 （２）「思考力・判断力・表現力等」 ・結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。 （３）「学びに向かう力、人間性等」 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
C 生涯を通じる健康 【加齢と健康・高齢社会に対応した取り組み】 ・加齢による心身の変化や、高齢期の健康課題について理解する。 ・若年期の生活習慣が中高年期の健康に影響することを理解する。 ・高齢社会における健康課題について理解する。 ・高齢者の暮らしや健康を支えるために必要な社会の取り組みについて理解する。	・加齢と健康 ・高齢社会に対応した取り組み	（１）「知識及び技能」 ・中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいをもちつこと、運動やスポーツに取り組むこと、家族や友人などとの良好な関係を保つこと、地域における交流をもつことなどが関係することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・高齢期には、加齢に伴い、心身の機能や形態が変化すること、その変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向にあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 （２）「思考力・判断力・表現力等」 ・加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価している。 （３）「学びに向かう力、人間性等」 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	3
D 生涯を通じる健康 【働くことと健康・労働災害の防止・働く人の健康づくり】 ・働くことの意義と働き方の多様化について理解する。 ・働く人における健康問題について理解する。 ・労働環境の変化に伴い、労働災害の要因も変化していることを理解する。 ・労働災害を防止するための様々な取り組みについて理解する。 ・職場での心身両面にわたる積極的な健康づくり活動について理解する。 ・働く人の健康には余暇の活用など生活の質の向上も重要であることを理解する。	・働くことと健康 ・労働災害の防止 ・働く人の健康づくり	（１）「知識及び技能」 ・労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量に変化してきたことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 （２）「思考力・判断力・表現力等」 ・労働と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用している。 （３）「学びに向かう力、人間性等」 労働災害と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしてい	○	○	○	4
E 健康を支える環境づくり 【大気汚染と健康・水質汚濁土壌汚染と健康】 ・大気汚染による健康への影響について理解する。 ・地球規模で起きている大気環境の問題について理解する。 ・水質汚濁による健康への影響について理解する。 ・土壌汚染による健康への影響について理解する。	・大気汚染と健康 ・水質汚濁・土壌汚染と健康	（１）「知識及び技能」 人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 （２）「思考力・判断力・表現力等」 環境と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 （３）「学びに向かう力、人間性等」 環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
D 健康を支える健康づくり 【健康被害を防ぐための環境対策・環境衛生に関わる活動】 ・環境汚染による健康への影響を防ぐために行われている対策について理解する。 ・産業廃棄物の処理や新たな環境汚染の課題について理解する。 ・安全な水の確保のために必要な上下水道の整備の現状と課題について理解する。 ・生活環境を保全するためのごみ処理の現状と、今後の課題について理解する。	・健康被害を防ぐための環境対策 ・環境衛生に関わる活動	（１）「知識及び技能」 健康への影響や被害を防止するためには、汚染物質の排出をできるだけ抑制したり、排出された汚染物質を適切に処理したりすることなどが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。上下水道の整備、ごみやし尿などの廃棄物を適切に処理する等の環境衛生活動は、自然環境や学校・地域などの社会生活における環境、及び人々の健康を守るために行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 （２）「思考力・判断力・表現力等」 人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している。 （３）「学びに向かう力、人間性等」 環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4

E 健康を支える健康づくり 【食品の安全性と健康・食品の安全性を確保する取り組み】 ・食品の安全性が損なわれると健康被害が生じる可能性があることを理解する。 ・人々の健康を支えるためには食品の安全性の確保が重要であることを理解する。 ・食品の安全性を確保するための行政や生産・製造者の役割について理解する。 ・食品による健康被害を防ぐために私たち消費者が果たす役割について理解する。	・食品の安全性と健康 ・食品の安全性を確保する取り組み	(1)「知識及び技能」 ・人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、食品の安全性が損なわれると、健康に深刻な被害をもたらすことがあり、食品の安全性を確保することは健康の保持増進にとって重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・食品の安全性を確保するために、食品衛生法などの法律等が制定されており、様々な基準に基づいて食品衛生活動が行われていることや、食品の製造・加工・保存・流通など、各段階での適切な管理が重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 ・食品と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 食品と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
E 健康を支える健康づくり 【保健制度とその活用・医療制度とその活用・医薬品の制度とその活用】 ・保健行政の役割について理解する。 ・健康の保持・増進には保健サービスの適切な活用が必要であることを理解する。 ・医療保険の仕組みについて理解する。 ・医療サービスの適切な活用方法について理解する。 ・医薬品には承認制度や販売に関する規制が設けられていることについて理解する。 ・医薬品は、使用法に関する注意を守り、正しく使う必要があることを理解する。	・保健制度とその活用 ・医療制度とその活用 ・医薬品の制度とその活用	(1)「知識及び技能」 我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。健康を保持増進するためには、検診などを通して自己の健康上の課題を的確に把握し、地域の保健所や保健センターなどの保健機関、病院や診療所などの医療機関、及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。医薬品は、医療用医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品の三つに大別され、承認制度によってその有効性や安全性が審査されており、販売に規制が設けられていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	5
E 健康を支える健康づくり 【様々な保健活動や対策・誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり】 ・日本や世界では健康課題に対応した保健活動や対策が行われていることを理解する。 ・国際機関や民間機関などにより行われている様々な保健活動や対策について理解する。 ・自他の健康の保持・増進には健康を支える環境づくりが重要であることを理解する。 ・健康を支える環境づくりへの積極的な参加が自他の健康につながることを理解する。	・様々な保健活動や対策 ・誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり	(1)「知識及び技能」 ・我が国や世界では、健康を支えるために、健康課題に対応して各種の保健活動や社会的対策が行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている (2)「思考力・判断力・表現力等」 ・様々な保健活動や社会的対策について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 様々な保健活動や社会的対策について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。健康に関する環境づくりと社会参加について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4 35

教科 ： 保健体育 科目 ： 体育

対象学年組 ： 第 3 学年 A 組～F 組

教科担当 ： 鈴木 山田

使用教科書 ： 新高等保健体育(大修館書店)

教科 保健体育の目標

- 【知識及び技能】 各種目の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 スポーツⅡの目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、スポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付ける。	スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための学習に主体的に取り組む態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知	思	態	時数
体づくり運動 (1) 「知識及び技能」 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解できるようにする。 (2) 「思考力・判断力・表現力等」 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3) 「学びに向かう力、人間性等」 体づくり運動、縄跳びに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどをして、健康・安全を確保することができるようにする。	・ ニュースポーツ ・ 体ほぐしの運動 ・ 体力を高める運動	(1) 「知識及び技能」 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解している。 (2) 「思考力・判断力・表現力等」 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3) 「学びに向かう力、人間性等」 体づくり運動、縄跳びに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどをして、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	16
スポーツⅡ (1) 「知識及び技能」 球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けられるようにする。 (2) 「思考力・判断力・表現力等」 球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養うことができるようにする。 (3) 「学びに向かう力、人間性等」 球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養うことができるようにする。	1・2年生で経験した種目 (施設の関係で変更あり)	(1) 「知識及び技能」 球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身につけている。 (2) 「思考力・判断力・表現力等」 球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。 (3) 「学びに向かう力、人間性等」 球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度が身についている。	○	○	○	54

年間授業計画

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育

対象学年組：第3学年A組～F組

教科担当：作山 鈴木 長尾 宮川 山田

使用教科書：新高等保健体育(大修館書店)

教科 保健体育の目標

【知識及び技能】 各種目の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自己や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知	思	態	時数
A 体づくり運動 (1)「知識及び技能」 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解できるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 体づくり運動、縄跳びに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、話し合いに貢献しようとし、健康・安全を確保することができるようにする。	・生涯スポーツ ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	(1)「知識及び技能」 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解している。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 体づくり運動、縄跳びに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、話し合いに貢献しようとし、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	9
D 水泳 (1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などについて理解できるようにする。手と (2)「思考力・判断力・表現力等」 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保することができるようにする。	・泳法指導 ・バタフライ	(1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などについて理解している。手 (2)「思考力・判断力・表現力等」 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	9
E 球技【ハンドボール】 (1)「知識及び技能」 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などの攻防をすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 ハンドボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとし、健康・安全を確保することができるようにする。	・基礎練習 (パス・ドリブル・シュート) ・応用練習 (4対4・7対7) ・試合 ・ゲーム及びルールと審判法の理解	(1)「知識及び技能」 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などの攻防をすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 ハンドボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとし、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	9
E 球技【バドミントン】 (1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方運動観察の方法などについて理解できるようにする。状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 バドミントンに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとし、健康・安全を確保することができるようにする。	・基本練習 (クリア・ドライブ・ヘアピン) ・応用練習 (スマッシュ・ドロップショット) ・試合 ・ゲーム及びルールと審判法の理解	(1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方運動観察の方法などについて理解している。状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 バドミントンに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとし、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	9
E 球技【ソフトボール】 (1)「知識及び技能」 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 ソフトボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い	・基礎練習 (キャッチボール・トスバッティング) ・応用練習 (ピッチング・バッティング・走塁と守備の連携) ・試合 ・ゲーム及びルールと審判法の理解	(1)「知識及び技能」 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 ソフトボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし	○	○	○	9
E 球技【バスケットボール】 (1)「知識及び技能」 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などの攻防をすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 バスケットボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとし、健康・安全を確保することができるようにする。	・基礎練習 (パス・ドリブル・シュート) ・応用練習 (3対3・5対5) ・試合 ・ゲーム及びルールと審判法の理解	(1)「知識及び技能」 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などの攻防をすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 バスケットボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとし、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	9
E 球技【サッカー】 (1)「知識及び技能」 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などの攻防をすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 サッカーに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとし、健康・安全を確保することができるようにする。	・基礎練習 (パス・ドリブル・シュート) ・応用練習 (3対3・4対4) ・試合 ・ゲーム及びルールと審判法の理解	(1)「知識及び技能」 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などの攻防をすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 サッカーに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとし、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	9
E 球技【バレーボール】 (1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方運動観察の方法などについて理解できるようにする。状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 バレーボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとし、健康・安全を確保することができるようにする。	・基本練習 (パス・レシーブ・サーブ) ・応用練習 (トス・スパイク) ・試合 ・ゲーム及びルールと審判法の理解	(1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方運動観察の方法などについて理解している。状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 バレーボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとし、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	9

E 球技【ソフトボール】 (1)「知識及び技能」 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 ソフトボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようということ、作戦などについての話し合いに貢献しようということ、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようということ、互いに助け合い高め合おうということなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	・基礎練習 (キャッチボール・トス バッティング) ・応用練習 (ピッチング・バッティ ング・走塁と守備の連 携) ・試合 ・ゲーム及びルールと審 判法の理解	(1)「知識及び技能」 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 ソフトボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようということ、作戦などについての話し合いに貢献しようということ、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようということ、互いに助け合い高め合おうということなどや、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	9
E 球技【テニス】 (1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方運動観察の方法などについて理解できるようにする。状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 テニスに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようということ、作戦などについての話し合いに貢献しようということ、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようということ、互いに助け合い高め合おうということなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	・基本練習 (ストローク・サーブ) ・応用練習 (スマッシュ・ボレー) ・試合 ・ゲーム及びルールと審 判法の理解	(1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方運動観察の方法などについて理解している。 状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 テニスに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようということ、作戦などについての話し合いに貢献しようということ、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようということ、互いに助け合い高め合おうということなどや、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	9
E 球技【卓球】 (1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方運動観察の方法などについて理解できるようにする。状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 卓球に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようということ、作戦などについての話し合いに貢献しようということ、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようということ、互いに助け合い高め合おうということなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	・基本練習 (ツッツキ・ドライブ) ・応用練習 (スマッシュ・ブロック) ・試合 ・ゲーム及びルールと審 判法の理解	(1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方運動観察の方法などについて理解している。 状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 卓球に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようということ、作戦などについての話し合いに貢献しようということ、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようということ、互いに助け合い高め合おうということなどや、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	9
H 体育理論 (1)「知識」 豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解できるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えられるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に主体的に取り組めるようにする。	豊かなスポーツライフの 設計の仕方	(1)「知識」 豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解している。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えられる。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に主体的に取り組んでいる。	○	○	○	6 105

高等学校 令和8年度 教科

芸術 科目 音楽Ⅰ

教科： 芸術 科 目： 音楽Ⅰ 単位数： 単位 2

対象学年組：第 1 学年 A 組～ F 組

教科担当者： 片野響子

使用教科書：（ MOUSA1 （教育芸術社） ）

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】

芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現する ための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることがで きるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や 社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 音楽Ⅰ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深める。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもち、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴く。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心 情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明 るく豊かなものにしていく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現				鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			歌	器	創							
1 学 期	「正しい発声を身に付けて、豊かな響きで歌おう」 歌うときの基本的な姿勢や呼吸、発声などの技能を身に付け、歌詞の内容を理解し、自己のイメージをもって曲想にふさわしい発声で表現を工夫して歌う。 バランスのよい姿勢、呼吸の仕方、声の響かせ方を身に付け、曲想と歌詞との関わり、旋律の特徴、言葉の抑揚を理解し、自己のイメージをもって表現を創意工夫して歌う。	「校歌」「負けないで」「Lemon」「手紙」など 一人1台端末を活用	○			○	【知識及び技能】曲想と歌詞との関わりについて理解している。 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体 の使い 方などの技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】音色、旋律を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 【学びに向かう力、人間性等】正しい発声を身に付けて表現を創意工夫することに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	6	
	「表現を工夫してギターを演奏しよう」 ギターの奏法を身に付けるとともに、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、表現を工夫して演奏する	ギター基本的奏法、コード指導、「ハッピーバースデー トゥーユー」「日曜日よりの使者」ほか。 曲にふさわしい奏法、身体 の使い 方などに留意して演奏し、表現に必要な技能を身に付けさせる。 演奏したり互いに聴き合ったりしながら、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解させる。 イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫させる。一人一台端末を活用。		○		○	【知識及び技能】曲想とギターの音色や奏法との関わりについて理解している。 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体 の使い 方などの技能を身に付け、器楽で表している。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 【学びに向かう力、人間性等】曲想とギターの音色や奏法との関わりに関心をもち、主体それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わる 的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	6	
	「J-POPや歌謡曲の特徴を理解し鑑賞しよう」 J-POPや歌謡曲を取り上げ、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解し、自分や社会と音楽との関わりを考える	「私の音楽」毎時間、2曲ずつ生徒が選曲した楽曲を鑑賞し、曲について調べたり意見を交換したりして曲想と音楽の構造や歌詞、文化的背景との関わりを理解するとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値を考えさせる。 イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを感知らせる。一人一台端末を活用				○	【知識及び技能】音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【学びに向かう力、人間性等】さまざまな音や音楽に関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	2	
	「表現を工夫して鍵盤楽器を演奏しよう」 ピアノのコード伴奏法を身に付けるとともに、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、表現を工夫して演奏する	コード伴奏法指導、「日曜日からの使者」ほか。 曲にふさわしい奏法、身体 の使い 方などに留意して演奏し、表現に必要な技能を身に付けさせる。 演奏したり互いに聴き合ったりしながら、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解させる。 イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫させる。一人一台端末を活用。		○			【知識及び技能】文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【学びに向かう力、人間性等】さまざまな音や音楽に関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	4	
	「表現を工夫して合唱をしよう」 バランスのよい姿勢、呼吸の仕方、声の響かせ方を身に付け、曲想と歌詞との関わり、旋律の特徴、言葉の抑揚を理解し、自己のイメージをもって表現を創意工夫して歌う。	合唱アカベラ楽曲（3部または4部アカベラ） 曲にふさわしい発声方法を身に着け、互いの声部を聴かせ。一人一台端末活用	○				【知識及び技能】曲想と歌詞との関わりについて理解している。 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体 の使い 方などの技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】音色、旋律を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 【学びに向かう力、人間性等】正しい発声を身に付けて表現を創意工夫することに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	4	

2 学 期	「さまざまな器楽アンサンブルを楽しもう」 ギター、ピアノ、弾き語りを通し様々な音色の重なりを工夫する。	弾き語りの伴奏を創作し発表 一人一台端末活用						○	○	○	○	【知識及び技能】文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を 知覚し、それらの働きを感じしながら、知覚したことで感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【学びに向かう力、人間性等】さまざまな音や音楽に関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	「音楽を形づくっている要素に注目して、曲のよさや美しさを探ろう」さまざまな楽器が生み出す響きやその特徴が、どのような要素やそれらの働きによってもたらされているのかを探るとともに、音楽のよさや美しさを味わう。	「西洋音楽の流れ」/「オーケストラを知ろう」一人一台端末活用										○	○	○	4	
	「表現を工夫してヴォイスアンサンブルをしよう」 バランスのよい姿勢、呼吸の仕方、声の響かせ方を身に付け、曲想と歌詞との関わり、旋律の特徴、言葉の抑揚を理解し、自己のイメージをもって表現を創意工夫して歌う。	生徒選曲の楽曲を使用しアカペラヴォイスアンサンブルの発表。一人一台端末活用						○				○	○	○	8	
	「作曲家の生涯と作品をたどろう」 J. S. バッハやW. A. モーツァルトの生涯をたどりながら、それぞれの作品の特徴を理解し、魅力を味わう	作品を鑑賞したり、作曲家について調べたり、意見を交換したりしながら、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解する曲や演奏に対する評価とその根拠を述べ合う								○		○	○	○	4	
	「和楽器に親しみ、演奏に挑戦しよう」和楽器に親しみ、その音色や表現の特徴を味わうとともに、奏法を身に付け、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、表現を工夫して演奏する	篠笛の奏法「たこたかがれ」「あんたがたどこさ」などを通して基本的な奏法を指導する。一人一台端末使用						○				○	○	○	6	
3 学 期	「発表会」 声や楽器を組み合わせで演奏したり、様々な音素材を用いた創作を通して、様々な技能を身につけより豊かなイメージをもって表現する。	声や楽器の音色、奏法、それらの組み合わせを生かしたアンサンブル活動。 様々な音素材による音楽づくり。						○	○	○		○	○	○	10	
	「劇音楽の楽しみ」 劇や物語と音楽の関係を理解し、より豊かなイメージをもって表現したり鑑賞したりする。	楽曲の背景を意識した表現の工夫や鑑賞。 劇や物語と音楽とのかかわりを意識した表現の工夫や創造的な鑑賞。						○		○	○	○	○	○	4	
	「『コード進行』をもとに担任ソングをつくろう」 多くの曲に用いられているコード進行をもとに、音のつなげ方やフレーズのまとまり、重なりによる響きを理解しさまざまな手法を活用しながらイメージをもって創作する。 コードの構成音をもとに音の組み合わせ方やつなげ方を試しながら、自分の表したいイメージに合うメロディーをつくる 反復、変化などの手法を用いてメロディーをつくったり、つくったメロディーにもう一つのメロディーを重ねたりする技能を身に付ける。	音のつなげ方やフレーズのまとまり、重なりによる響きを理解させ、反復、変化などの手法を活用してメロディーをつくる技能を身に付けさせるとともに、イメージをもって表現を工夫して創作させる。ピアノまたはギターの伴奏で創作。						○	○	○		○	○	○	4	
												合計	70			

高等学校令和 8 年度 3 学年用教科 芸術科目 美術Ⅱ

教科：教科 芸術科目：美術Ⅱ単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年 B 組～ F 組

教科担当者：（A・D・E・F 組：梅田利信）（組：）（組：）（組：）（組：）

使用教科書：（ 高校生の美術 2 116－日文 美Ⅱ－702 ）

教科 教科 芸術の目標：

【知識及び技能】素材の特性を知り基本的な道具の使い方を生かした制作技能を身に着ける。

【思考力、判断力、表現力等】対照素材の制作を通し発見した特性を生かし発展させ表現する力を身に着ける。

【学びに向かう力、人間性等】作品制作を通し 美術の面白さを認識し美術と向き合い自己を高める力を身に着ける。

科目 美術Ⅱの目標：

【知識及び技能】	【思考力・判断力・表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている ・創造的な美術の制作をするために必要な技能を身に着け意図に応じて制作方法を創意工夫している	・造形的な美しさや表現の意図と創意工夫について考え発想や構想を練り美術の伝統と文化対する見方や感じ方を深めている	・作品制作を通し 美術の伝統と文化に豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			絵・彫	デ	映						
1 学 期	円の形独特の構図や構成を学習しそれを生かしたテーマを決め図案を考える。	・デザイン（飾り丸盆）円のデザイン ・縁取りの効果の学習 ・参考作品の鑑賞		○		○	・円の形を生かした表現が出来ている ・テーマの独自性 アイデアスケッチの熟考度	○	○	○	4
	テーマに沿った主役や登場するもの、場所、季節、時代などを画面全体のバランスを考えながら配置する。	・画面全体のバランスを考えながら実物大の下書きを考える。	○	○		○	・主役や登場物や背景全体の構成力 ・独自性のある発想力	○	○	○	4
	紙やすりで飾り盆の縁のバリを取る。アクリルジェッソで下塗りを行う下書きを丸盆に写す。	・飾り盆の縁のバリ取り下塗りを行い清書した下書きを写す。	○	○		○	・行っている作業の効果と意味を理解する。 ・丁寧に作業を積み重ねる。	○	○	○	2
	水彩絵の具での彩色を積み重ね深みを出す	・彩色	○	○		○	・画面全体の配色バランス	○	○	○	10

2 学 期	丸盆裏面の図案を考え、彩色する。 完成した丸盆の表面につや出しニスを塗る。	・飾り丸盆の裏面の制作 塗装	○	○	○	・おもて面を考慮した図案を考えている。 ・完成に向けて丁寧な作業を積み重ねている。 ・制作態度	○	○	○	4
	アートガラスの制作手順と効果を理解した図案を考える。 ニードルで彩色する部分の黒塗料を削る。	・アートガラスのデザイン（白黒のバランスを考えた図案） ・参考作品鑑賞	○	○	○	・作業手順と効果を理解した図案を考えている ・画面全体の配色バランスが取れている	○	○	○	8
	ニードルで削り終えた白黒のガラス裏面に透明白水彩絵の具で薄く彩色する。	・アートガラスの彩色	○	○	○	・作業手順と効果を理解し丁寧に作業している。	○	○	○	10
3 学 期	学習した木彫の彫り方を組み合わせた額縁の図案を考える。	・木彫（アートガラスの額縁制作） ・彫刻刀での彫り ・額縁の組み立て	○	○	○	・作品完成に向け全体のバランスを考えながら作業している。 ・額縁の限られた形を生かした木彫の図案を考えている ・制作態度	○	○	○	2
										合計 44

2 学 期	漢字の書(行書) 上記「漢字の書（行書）」参照	・指導事項 漢字の書(行書) 「蘭亭序」他 ・教材→教科書・書道用具 等		○		○	上記「漢字の書（行書）」参照	○	○	○	8
	篆刻 【知識及び技能】 ・古典の書体や書風と用筆・運筆との関わり、篆刻の用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解する。 ・篆書の古典の基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。 ・篆刻の技法を理解し、運刀の基礎を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・篆刻の技法を学び、意図に基づいて表現を構想し工夫する。 ・生活や社会における書の効用について考え、書を立体化することによる刻線のよさや美しさを味わって捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。	・指導事項 漢字の書(篆書) 「泰山刻石」 篆刻 ・教材→教科書・書道用具 等		○		○	【知識・技能】 ●知識 共通事項 〔表現〕古典の書体や書風と用筆・運筆との関わり、篆刻の用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 〔鑑賞〕線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。 ●技能 篆書の古典の基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。 篆刻の技法を理解し、運刀の基礎を身につけている。 【思考・判断・表現】 〔表現〕篆刻の技法を学び、意図に基づいて表現を構想し工夫している。 〔鑑賞〕生活や社会における書の効用について考え、書を立体化することによる刻線のよさや美しさを味わって捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 〔表現〕主体的に篆刻の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 〔鑑賞〕主体的に篆刻の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	9
	仮名の書 【知識及び技能】 ・線質や書風と用筆・運筆との関わり、用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、仮名の成立、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解する。 ・仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質や字形を生かした表現をするための技能を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・仮名の古筆や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 ・仮名の古筆の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。	・指導事項 仮名の基本 「蓬莱切」他 ・教材→教科書・書道用具 等			○	○	【知識・技能】 ●知識 共通事項 〔表現〕線質や書風と用筆・運筆との関わり、用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 〔鑑賞〕線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、仮名の成立、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。 ●技能 仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質や字形を生かした表現をするための技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 〔表現〕仮名の古筆や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 〔鑑賞〕仮名の古筆の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 〔表現〕主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 〔鑑賞〕主体的に仮名の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	9
3 学 期	漢字仮名交じり書・くらしの中の書 【知識及び技能】 ・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、漢字仮名交じり文の成立について理解する。 ・目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫する。 ・創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。	・指導事項 漢字仮名交じり書 くらしの中の書 ・教材→教科書・書道用具 等		○		○	【知識・技能】 ●知識 共通事項 〔表現〕用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。 〔鑑賞〕線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、漢字仮名交じり文の成立について理解している。 ●技能 目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 〔表現〕漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。 〔鑑賞〕創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 〔表現〕主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 〔鑑賞〕主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	漢字の書(楷書) 上記「漢字の書（楷書）」参照	・指導事項 漢字の書(楷書) 「自書告身」他 ・教材→教科書・書道用具 等		○		○	上記「漢字の書（楷書）」参照	○	○	○	12
											合計 70

〔共通事項〕
・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。
・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。

高等学校 令和 8 年度 教科 外国語 科目 English Communication I

教 科： 外国語 科 目： English Communication I 単位数： 3 単位

対象学年組： 第 1 学年 A 組～ F 組

教科担当者： (A組： 小林) (B組： 阿部) (C組： 阿部) (D組： 小林) (E組： 阿部) (F組： 小林)

使用教科書： (Revised BLUE MARBLE ENGLISH COMMUNICATION I)

教科 外国語 の目標：

【 知 識 及 び 技 能 】実際の英語コミュニケーションにおいて、目的、場面、状況に応じて適切に活用できる技能を習得する。

【思考力、判断力、表現力等】日常的な話題や社会的な話題について、その情報や考えなどの概要や要点を的確に理解し、適切に表現したり伝え合ったりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】英語の背景にある文化への理解を深め、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

科目 English Communication I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 ・必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を育成する。	・英語の基礎的な知識や技能を最大限活用しながら、思考力・判断力・表現力を土台にコミュニケーション能力の養成を図る。 ・対話の展開などにおいて基本的な語句や文を用いて、情報や考え気持などを話して伝えることができるようにする。	・グローバル社会の中で必要とされる国際理解での広い視野を養う。 ・主体的な深い学びを促進し、生徒自らが学びに向かう力を育成する。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		聞	読	話 〔や〕	話 〔発〕	書					
Lesson 1 Visitors' Voices : Talking about Japan	〔題材内容〕 外国人へのインタビューを通して 考える日本の魅力 〔言語材料〕 英語の語順Ⅰ（文型） 〔言語活動〕 本文の内容（外国人観光客を引き 付ける日本の魅力）について、学 習した語句や文法事項を用いて、 自分の意見を話す／書くことがで きる。 〔言語の働き〕 聞き直す／回答する	○	○	○	○	○	a. 新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料（S+V, S+V+C, S+V+O, S+V+O+O, S+V+O+C, There+V+Sの表現）、本文の論理展開を理解している。 b. 新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料、本文の論理展開の理解を基に、外国人観光客を引き付ける日本の魅力について書かれた文章を読み取る技能を身に付けている。 c. 各Part 本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料を用いて、本文の内容を再生したり、自分の意見を話したり／書いたりする技能を身に付けている。 〔思考・判断・表現〕 a. 外国人観光客を引き付ける日本の魅力について、理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 b. 各Part 本文の内容（外国人観光客を引き付ける日本の魅力）について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしている。 〔主体的に学習に取り組む態度〕 a. 外国人観光客を引き付ける日本の魅力について、理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 b. 各Part 本文の内容（外国人観光客を引き付ける日本の魅力）について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしようとしている。	○	○	○	8
		○	○	○	○	○		○	○	○	8
定期考査								○	○	○	
Lesson 2 Fashion as a Mirror of the Times	〔題材内容〕 ファッションの歴史とこれから 〔言語材料〕 動詞の形Ⅰ（時制） 〔言語活動〕 本文の内容（ファッションの歴史と これからのファッション）につ いて、学習した語句や文法事項を						〔知識・技能〕 a. 新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料（完了形、完了進行形）、本文の論理展開を理解している。 b. 新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料、本文の論理展開の理解を基に、ファッションの歴史とこれからのファッションについて書かれた文章を読み取る技能を身				

1 学期		用いて、自分の意見を話す/書くことができる。 〔言語の働き〕 驚く／興味や関心を表す	○	○	○	○	○	に付けている。 c. 各Part 本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料を用いて、本文の内容を再生したり、自分の意見を話したり／書いたりする技能を身に付けている。 〔思考・判断・表現〕 a. ファッションの歴史とこれからのファッションについて、理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 b. 各Part 本文の内容（ファッションの歴史とこれからのファッション）について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしている。 〔主体的に学習に取り組む態度〕 a. ファッションの歴史とこれからのファッションについて、理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 b. 各Part 本文の内容（ファッションの歴史とこれからのファッション）について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしようとしている。	○	○	○	8
	Lesson 3 Learning to Accept Differences	〔題材内容〕 差別はなぜ起きるのか、あるアニメーション監督からのメッセージ 〔言語材料〕 動詞の形Ⅱ（助動詞、態） 〔言語活動〕 本文の内容（堤大介と彼が作品に込めた思い）について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。 〔言語の働き〕 誘う／断る	○	○	○	○	○	〔知識・技能〕 a. 新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料（助動詞を含む受動態, used to do）, 本文の論理展開を理解している。 b. 新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料, 本文の論理展開の理解を基に、堤大介と彼が作品に込めた思いについて書かれた文章を読み取る技能を身に付けている。 c. 各Part 本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料を用いて、本文の内容を再生したり、自分の意見を話したり／書いたりする技能を身に付けている。 〔思考・判断・表現〕 a. 堤大介と彼が作品に込めた思いについて、理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 b. 各Part 本文の内容（堤大介と彼が作品に込めた思い）について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしている。 〔主体的に学習に取り組む態度〕 a. 堤大介と彼が作品に込めた思いについて、理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 b. 各Part 本文の内容（堤大介と彼が作品に込めた思い）について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしようとしている。	○	○	○	8
	定期考査								○	○	○	

2 学 期	Lesson 4 Changing Behavior in Unique Ways	【題材内容】 人々の行動を良い方向に変えるための「仕掛け」とは 【言語材料】 動詞の形Ⅲ（準動詞①） 【言語活動】 本文の内容（仕掛けとソーシャルデザイン）について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。 【言語の働き】 迷いを伝える／アドバイスする	○	○	○	○	○	【知識・技能】 a. 新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料（不定詞／動名詞, seem to do, 使役動詞+0+do, S+V+0+to do）, 本文の論理展開を理解している。 b. 新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料, 本文の論理展開の理解を基に, 仕掛けとソーシャルデザインについて書かれた文章を読み取る技能を身に付けている。 c. 各Part 本文の内容について, 事実や自分の考えを整理し, 新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料を用いて, 本文の内容を再生したり, 自分の意見を話したり／書いたりする技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 a. 仕掛けとソーシャルデザインについて, 理解を深めるために, 各Part本文の内容を読み取り, 概要や要点を把握している。 b. 各Part 本文の内容（仕掛けとソーシャルデザイン）について, 学習した語句や文法事項を用いて, 自分の意見を話したり／書いたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 a. 仕掛けとソーシャルデザインについて, 理解を深めるために, 各Part本文の内容を読み取り, 概要や要点を把握しようとしている。 b. 各Part 本文の内容（仕掛けとソーシャルデザイン）について, 学習した語句や文法事項を用いて, 自分の意見を話したり／書いたりしようとしている。	○	○	○	8
	Lesson 5 A Journey to Peace	【題材内容】 ルワンダ大虐殺を生き延びた1人の女性の物語 【言語材料】 英語の語順Ⅱ（準動詞②） 【言語活動】 本文の内容（ルワンダ内戦とマリールイズ）について, 学習した語句や文法事項を用いて, 自分の意見を話す／書くことができる。 【言語の働き】 心配事を伝える／援助を申し出る	○	○	○	○	○	【知識・技能】 a. 新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料（知覚動詞を伴うS+V+0+Cの表現）, 本文の論理展開を理解している。 b. 新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料, 本文の論理展開の理解を基に, ルワンダ内戦とマリールイズについて書かれた文章を読み取る技能を身に付けている。 c. 各Part 本文の内容について, 事実や自分の考えを整理し, 新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料を用いて, 本文の内容を再生したり, 自分の意見を話したり／書いたりする技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 a. ルワンダ内戦とマリールイズについて, 理解を深めるために, 各Part本文の内容を読み取り, 概要や要点を把握している。 b. 各Part 本文の内容（ルワンダ内戦とマリールイズ）について, 学習した語句や文法事項を用いて, 自分の意見を話したり／書いたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 a. ルワンダ内戦とマリールイズについて, 理解を深めるために, 各Part本文の内容を読み取り, 概要や要点を把握しようとしている。 b. 各Part 本文の内容（ルワンダ内戦とマリールイズ）について, 学習した語句や文法事項を用いて, 自分の意見を話したり／書いたりしようとしている。	○	○	○	8
	定期考査								○	○	○	
	Lesson 6 What Can We Eat in Space?	【題材内容】 宇宙食の歴史と、これからの時代に求められる宇宙での食料生産 【言語材料】 英語の語順Ⅲ（関係代名詞） 【言語活動】 本文の内容（宇宙での食料生産）について, 学習した語句や文法事項を用いて, 自分の意見を話す／書くことができる。 【言語の働き】 返答する／相づちを打つ	○	○	○	○	○	【知識・技能】 a. 新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料（関係代名詞 which, what+S+V, 関係代名詞の非制限用法）, 本文の論理展開を理解している。 b. 新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料, 本文の論理展開の理解を基に, 宇宙での食料生産について書かれた文章を読み取る技能を身に付けている。 c. 各Part 本文の内容について, 事実や自分の考えを整理し, 新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料を用いて, 本文の内容を再生したり, 自分の意見を話したり／書いたりする技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 a. 宇宙での食料生産について, 理解を深めるために, 各Part本文の内容を読み取り, 概要や要点を把握している。 b. 各Part 本文の内容（宇宙での食料生産）について, 学習した語句や文法事項を用いて, 自分の意見を話したり／書いたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 a. 宇宙での食料生産について, 理解を深めるために, 各Part本文の内容を読み取り, 概要や要点を把握しようとしている。 b. 各Part 本文の内容（宇宙での食料生産）について, 学習した語句や文法事項を用いて, 自分の意見を話したり／書いたりしようとしている。	○	○	○	8

3 学 期	Lesson 7 Bio- logging : Discovering Animals' Secrets	【題材内容】 野生生物の秘密に迫る「バイオリギング」とは 【言語材料】 英語の語順Ⅳ（関係副詞） 【言語活動】 本文の内容（バイオリギング研究やその事例）について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。 【言語の働き】 反論する／同意する	○	○	○	○	○	【知識・技能】 a. 新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料（関係副詞 when / where / why / how, 関係副詞の非制限用法）、本文の論理展開を理解している。 b. 新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料、本文の論理展開の理解を基に、バイオリギング研究やその事例について書かれた文章を読み取る技能を身に付けている。 c. 各Part 本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料を用いて、本文の内容を再生したり、自分の意見を話したり／書いたりする技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 a. バイオリギング研究やその事例について、理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 b. 各Part 本文の内容（バイオリギング研究やその事例）について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 a. バイオリギング研究やその事例について、理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 b. 各Part 本文の内容（バイオリギング研究やその事例）について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしようとしている。	○	○	○	8
	定期考査								○	○	○	
	Unit 8 What to Do with Too Many Tourists	【題材内容】 「オーバーツーリズム」とは何か、そしてその解決策を考える 【言語材料】 動詞の形Ⅳ（仮定法） 【言語活動】 本文の内容（オーバーツーリズム）について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。 【言語の働き】 習慣を表す／共感する	○	○	○	○	○	【知識・技能】 a. 新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料（as if ～）、本文の論理展開を理解している。 b. 新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料、本文の論理展開の理解を基に、オーバーツーリズムの事例やその解決策について書かれた文章を読み取る技能を身に付けている。 c. 各Part 本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料を用いて、本文の内容を再生したり、自分の意見を話したり／書いたりする技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 a. オーバーツーリズムについて、理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 b. 各Part 本文の内容（オーバーツーリズム）について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 a. オーバーツーリズムについて、理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 b. 各Part 本文の内容（オーバーツーリズム）について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしようとしている。	○	○	○	71
	定期考査								○	○	○	
											7	合 計

科目 論理・表現 I

单位数： 2 单位

対象学年組：第 1 学年 A 組～ F 組

教科担当者： (AB組： 小林・阿部・近藤)

(CD組： 阿部・小林・近藤)

(EF組：近藤・小林・阿部)

使用教科書： (総合英語be (いいずな書店)

)

教科 外国語 の目標：

【知識及び技能】	外国語の音声や語彙・表現、文法、言語の働きなどについて理解を深める力を養う。またそれらを、4技能による実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につける力を養う。
【思考力、判断力、表現力等】	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝えあったりする力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする力を養う。

科目 論理・表現 I

の目標：

言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
英語の特徴やきまりに関する事項、対話の展開の仕方や論理構成について理解できる。実際のコミュニケーションにおいて、多くの支援を活用すれば、日常的な話題や社会的な話題について、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うことができる。また聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを論理構成や展開を工夫して話して伝える技能を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを基本的な語句や文を用いて、論理の構成や展開を工夫して書いて伝えることができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを基本的な語句や文を用いて、論理の構成や展開を工夫して書いて伝えることができる。外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら主体的に英語の4技能を用いて伝える力を養う。

[illegible]

年間授業計画																			
高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 外国語 科目 English Communicaiton II																			
教 科： 外国語		科 目：		English Communication II		単位数：		4		単 位									
対象学年組：第 2 学年 A 組～		F 組																	
教科担当者：（ A組：秦 ）		（ B組：澤田 ）		（ C組：秦 ）		（ D 組：内海 ）		（ E組：秦 ）		（ F 組：澤田 ）									
使用教科書：（ Heartening English communication II ）																			
教科 外国語		の目標：																	
【知 識 及 び 技 能】		実際の英語コミュニケーションにおいて、目的、場面、状況に応じて適切に活用できる技能を習得する。																	
【思考力、判断力、表現力等】		日常的な話題や社会的な話題について、その情報や考えなどの概要や要点を的確に理解し、適切に表現したり伝え合ったりする力を養う。																	
【学びに向かう力、人間性等】		英語の背景にある文化への理解を深め、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。																	
科目 English Communication II		の目標：																	
【知識及び技能】				【思考力、判断力、表現力等】				【学びに向かう力、人間性等】											
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。				コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を身に付けている。				外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。											
1 学 期		単元の具体的な指導目標	指導項目・内容		領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数					
					聞	読	話 〔 や 〕	話 〔 差 〕	書										
		Lesson1 Laughter without Borders 海外で狂言を広めている。チェコ出身のオンジェイ・ヒーブル氏へのインタビューを読む。伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の発展に寄与する態度を養う。	【題材】 伝統文化、国際理解 【文法項目】 ・未来を表す表現(未来進行形／be to do)、時制の一致について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 【教材】 教科書、授業用ワークシート、Pair and Share 一人一台端末の活用							【知識及び技能】 日本語と英語の語順の違いに注意して、英文を理解することができる。未来を表す表現、時制の一致を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 狂言や伝統文化について、自分の考えをわかりやすく表現できる。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある。	○	○	○	7					
		Lesson 2 The Ongoing Voyages of Curry インドのカレーがどのように日本のカレーへと変貌したかについての説明文を読む。伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の発展に寄与する態度を養う。	【題材】 食文化、歴史、国際理解 【文法項目】 ・未来完了形・前置詞 【教材】 授業・予習ノート、Reading Core2、Four Corners 一人一台端末の活用							【知識及び技能】 英語のリズムやイントネーションに注意して、英文を音読することができる。未来完了形、前置詞について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 カレーの歴史や文化の変遷について理解し、説明できる。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある。	○	○	○	8					
		Lesson 3 The World’s Most Bicycle-friendly City コペンハーゲンがどのようにして世界有数の自転車都市となったかについての説明文を読む。環境の保全に寄与する態度や、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。	【題材】 環境、都市計画、SDGs 【文法項目】 ・関係代名詞・仮定法 【教材】 授業・予習ノート、Reading Core2、Four Corners 一人一台端末の活用							【知識及び技能】 文章の展開(列挙)に注意して、英文を理解することができる。関係代名詞、仮定法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 環境に配慮した都市づくりについて、聞き手に配慮して、わかりやすくスピーチをしようとしている。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある。	○	○	○	9					
		Lesson 4 Can You Feel Emotions in Text? 国や文化による顔文字の違いについての論文文を読む。幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度や、他国を尊重し、国際社会の発展に寄与する態度を養う。	【題材】 異文化理解、コミュニケーション 【文法項目】 ・さまざまな動名詞・動名詞を使った表現 【教材】 授業・予習ノート、Reading Core2、Four Corners 一人一台端末の活用							【知識及び技能】 文章の展開(例示・追加)に注意して、英文を理解することができる。動名詞を使った表現を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 文化による表現の違いについて、聞き手に配慮して、わかりやすくプレゼンテーションをしようとしている。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある。	○	○	○	9					
	2 学 期	Lesson 5 Background Music and Sharks サメの動画において、そのBGMが人に与える影響について述べた報告文を読む。幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度や、環境の保全に寄与する態度を養う。	【題材】 理科、メディアリテラシー、環境 【文法項目】 ・さまざまな不定詞・seem [appear] to do/seem [appear] to have＋過去分詞 【教材】 授業・予習ノート、Reading Core2、Four Corners 一人一台端末の活用							【知識及び技能】 同格表現や言いかえ表現に注意して、英文を理解することができる。不定詞の様々な用法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 メディアが人に与える影響について、ディスカッションで自分の意見を述べることができる。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある。	○	○	○	8					
		Lesson 6 The Benefits of Play 遊びが成長にもたらす利点についての説明文を読む。個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培うとともに、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う。	【題材】 教育、心理学、SDGs 【文法項目】 ・SV00の受動態 ・They say [believe] that … などの受動態 【教材】 授業・予習ノート、Reading Core2、Four Corners 一人一台端末の活用							【知識及び技能】 文章の展開(対照)に注意して、英文を理解することができる。受動態の様々な用法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 遊びが成長にもたらす利点について、聞き手や読み手に配慮して、わかりやすく説明しようとしている。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある。	○	○	○	9					
		Lesson 7 Nursing in a War Zone 国境なき医師団の看護師、白川優子氏の活動についての物語文を読む。主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度や、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う。	【題材】 国際協力、平和、社会貢献 【文法項目】 ・さまざまな分詞構文・独立分詞構文／付帯状況を表す(with＋名詞＋分詞) これらを適切に活用することができる。 【教材】 授業・予習ノート、Reading Core2、Four Corners 一人一台端末の活用							【知識及び技能】 分詞構文を理解し、やり取りをうまく継続させることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 国際社会への貢献について、聞き手に配慮して、わかりやすく自分自身の目標や行動計画を説明しようとしている。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある。	○	○	○	9					
		Lesson 8 Hawaii’s Debate about a Sacred Mountain 神聖な山に最新の望遠鏡を設置すべきかについて、対立する2者の意見文を読む。伝統と文化を尊重する態度や、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。	【題材】 理科、伝統文化、SDGs 【文法項目】 ・比較に関する表現・従属接続詞 【教材】 授業・予習ノート、Reading Core2、Four Corners 一人一台端末の活用							【知識及び技能】 文章の展開(対立する意見)に注意して、英文を理解することができる。比較表現、従属接続詞を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 伝統と科学の共存について、聞き手や読み手に配慮して、自分の意見をわかりやすく説明しようとしている。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある。	○	○	○	8					
		3 学 期	Lesson 9 The Next Wave in Artificial Intelligence 人工知能の最新技術やロボットとの共生についての説明文と意見文を読む。主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。	【題材】 情報、技術、SDGs 【文法項目】 ・関係代名詞と前置詞／関係副詞の非制限用法・複合関係詞 【教材】 授業・予習ノート、Reading Core2、Four Corners 一人一台端末の活用							【知識及び技能】 パラグラフごとの役割に注意して、英文を理解することができる。関係代名詞、関係副詞、複合関係詞を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 AIやロボットとの共生について、読み手に配慮して、自分の意見を複数のパラグラフでわかりやすく書こうとしている。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある。	○	○	○	9				
			Lesson 9 What If There Were No Moon? 月が地球に及ぼしている影響についての説明文を読む。幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う。	【題材】 理科、天文学 【文法項目】 ・仮定法を使った表現 ・無生物主語 【教材】 授業・予習ノート、Reading Core2、Four Corners 一人一台端末の活用							【知識及び技能】 仮定法を使った表現、無生物主語を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 月が地球に及ぼす影響について、読み手に配慮して、自分の考えを表現できる。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある。	○	○	○	9				
		計														89 時間			

高等学校 令和8年度 教科 外国語 科目 論理・表現Ⅱ

教科：外国語 科目：論理・表現Ⅱ 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 A組～B組

教科担当者：（A組：近藤）（B組：秦）（C組：近藤）（D組：秦）（E組：伊藤）（F組：近藤）

使用教科書：（Genius English Logic and Expression II（大修館））

教科 外国語 の目標：

【知識及び技能】外国語の音声や語彙・表現、文法、言語の働きなどについて理解を深める力を養う。またそれらを、4技能による実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につける力を養う。

【思考力、判断力、表現力等】コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝えあったりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする力を養う。

科目 論理・表現Ⅱ の目標：	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
	【知識】英語の特徴やよきまりに関する事項、対話の展開のしかたや論理構成について理解している。 【技能】実際のコミュニケーションにおいて、一定の支援を活用すれば、日常的な話題や社会的な話題について、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合う、また、聞いたり読んだりしたことを基に、意見や主張などを論理の展開や構成を工夫しながら詳しく話して伝え合う技能を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、多様な語句や文を用いて、論理の展開や構成を工夫しながら詳しく話して伝え合っている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、多様な語句や文を用いて、論理の展開や構成を工夫しながら詳しく話して伝え合おうとしている。 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・話し手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話して伝え合おうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 〔や〕	話 〔発〕	書					
1 学 期	Part Ⅰ Constructing a Sentence Unit 1 What Country Do You Want to Go To? Unit 2 Book Report	〔題材〕行きたい国を紹介する 〔言語材料〕漠然と「人々」を表す we, you など、非人称／形式主語の it, there構文 〔言語活動〕 1. 行きたい国についてペアでやり取りをし、そのやり取りを基に英文を書く。(Write It Down) 2. 訪れてみたい国について述べている文章を読む、または聞く。(Model) 3. 学習したことに基づき書いたものを見直す。(Review It) 〔題材〕おすすめの本を紹介する 〔言語材料〕受動態、無生物主語 〔言語活動〕 1. おすすめの本についてペアでやり取りをし、そのやり取りを基に英文を書く。(Write It Down) 2. 読んだ本について述べている文章を読む、または聞く。(Model) 3. 学習したことに基づき書いたものを見直す。(Review It)	○	○	○	○	○	英語の語順、漠然と「人々」を表す we, you など、非人称／形式主語の it, there構文の特徴やきまりについて理解している。 行きたい国について、漠然と「人々」を表す we, you など、非人称／形式主語の it, there構文を用い、論理の展開や構成を工夫して書いて伝える技能を身につけている。 受動態、無生物主語の特徴やきまりについて理解している。 おすすめの本について、受動態、無生物主語を用い、論理の展開や構成を工夫して書いて伝える技能を身につけている。	○	○	○	3
	Part Ⅰ Constructing a Sentence Unit 3 What News Are You Most Interested In? Unit 4 What Do You Think about Sports?	〔題材〕気になるニュースを説明する 〔言語材料〕現在時制・過去時制、未来を表す表現、進行形、完了形 〔言語活動〕 1. 気になるニュースについてペアでやり取りをし、そのやり取りを基に英文を書く。(Write It Down) 2. もっとも関心のあるニュースについて述べている文章を読む、または聞く。(Model) 3. 学習したことに基づき書いたものを見直す。(Review It) 〔題材〕スポーツについて意見を述べる 〔言語材料〕不定詞（名詞的用法）、動名詞、名詞節を導く接続詞、名詞節を導く疑問詞 〔言語活動〕 1. スポーツについてペアで意見交換をし、そのやり取りを基に英文を書く。(Write It Down) 2. スポーツに対する意見を述べている文章を読む、または聞く。(Model) 3. 学習したことに基づき書いたものを見直す。(Review It)	○	○	○	○	○	現在時制・過去時制、未来を表す表現、進行形、完了形の特徴やきまりについて理解している。 気になるニュースについて、現在時制・過去時制、未来を表す表現、進行形、完了形を用い、論理の展開や構成を工夫して書いて伝える技能を身につけている。 不定詞（名詞的用法）、動名詞、名詞節を導く接続詞、名詞節を導く疑問詞の特徴やきまりについて理解している。 スポーツに対する意見を、不定詞（名詞的用法）、動名詞、名詞節を導く接続詞、名詞節を導く疑問詞を用い、論理の展開や構成を工夫して書いて伝える技能を身につけている。	○	○	○	3
	Part Ⅰ Constructing a Sentence Unit 5 Must-Try Local Foods Unit 6 Letter of Encouragement	〔題材〕地元の料理を紹介する 〔言語材料〕分詞、関係詞、不定詞（形容詞的用法） 〔言語活動〕 1. おすすめの地元の料理についてペアでやり取りをし、そのやり取りを基に英文を書く。(Write It Down) 2. 大好きな日本食について述べている文章を読む、または聞く。(Model) 3. 学習したことに基づき書いたものを見直す。(Review It) 〔題材〕励ましの手紙を書く 〔言語材料〕意志・推量・義務・必要性を表す助動詞 〔言語活動〕 1. 励ましたい相手とその人の悩みについてペアでやり取りをし、そのやり取りを基に英文を書く。(Write It Down) 2. 友人に向けて励ましのことばを述べている文章を読む、または聞く。(Model) 3. 学習したことに基づき書いたものを見直す。	○	○	○	○	○	分詞、関係詞、不定詞（形容詞的用法）の特徴やきまりについて理解している。 おすすめの地元の料理について、分詞、関係詞、不定詞（形容詞的用法）を用い、論理の展開や構成を工夫して書いて伝える技能を身につけている。 意志・推量・義務・必要性を表す助動詞の特徴やきまりについて理解している。 意志・推量・義務・必要性を表す助動詞を用い、論理の展開や構成を工夫して励ましの手紙を書いて伝える技能を身につけている。	○	○	○	3

	Part II Constructing a Paragraph Unit 1 What Makes You Happy	【題材】自分を幸せにするもの／ことを説明する 【表現形式】「列挙」のパラグラフ 【言語材料】列挙する表現、比較を表す構文 【言語活動】 1. トピックに関連するリスニングと、質問に答える。(Warm-up) 2. 自分を幸せにすることについて述べられた文章を読む、または聞く。(Model) 3. 本当の幸せについて、ペアでやり取りする。(One-Minute Chat) 4. 幸せを感じる時についてのさまざまな意見を聞き、ペアで意見交換する。また、質問に対する自分自身の考えを述べる。(Put It Together) 5. 自分を幸せにするもの／ことについてのパラグラフを書く。(Try It Out)	○	○	○	○	○	○	「列挙」のパラグラフの論理構成について理解している。					○	○	○	3
	Part II Constructing a Paragraph Unit 2 Does Technology Make Our Lives Better?	【題材】科学技術と生活について意見を述べる 【表現形式】「例示」のパラグラフ 【言語材料】例をあげる表現、程度の差や変化を表す構文 【言語活動】 1. トピックに関連するリスニングと、質問に答える。(Warm-up) 2. 科学技術と生活の関連性について述べられた文章を読む、または聞く。(Model) 3. スマートフォンが高齢者に対しどのように役立つかについて、ペアでやり取りする。(One-Minute Chat) 4. 科学技術は生活を良くするかについてのさまざまな考えを聞き、ペアで意見交換する。また、質問に対する自分自身の考えを述べる。(Put It Together) 5. 科学技術と生活について意見を述べるパラグラフを書く。(Try It Out)	○	○	○	○	○	○	「例示」のパラグラフの論理構成について理解している。					○	○	○	3
	Part II Constructing a Paragraph Unit 3 My Personal History	【題材】自分自身のこれまでを語る 【表現形式】「時系列・順序」のパラグラフ 【言語材料】順序立てて述べる表現、時を表す構文 【言語活動】 1. トピックに関連するリスニングと、質問に答える。(Warm-up) 2. 部活に所属することについて述べられた文章を読む、または聞く。(Model) 3. 有名人の経歴から学ぶことについて、ペアでやり取りする。(One-Minute Chat) 4. 人生におけるさまざまな変化について聞き、ペアで意見交換する。また、質問に対する自分自身の考えを述べる。(Put It Together) 5. 自分自身のこれまでを振り返るパラグラフを書く。(Try It Out)	○	○	○	○	○	○	「時系列・順序」のパラグラフの論理構成について理解している。					○	○	○	3
2 学 期	Part II Constructing a Paragraph Unit 4 City or Country?	【題材】都会と田舎を比較する 【表現形式】「比較・対照」のパラグラフ 【言語材料】対比・対照する表現、類似を示す表現、譲歩を表す構文 【言語活動】 1. トピックに関連するリスニングと、質問に答える。(Warm-up) 2. 都会と田舎のどちらに住むのがよいかについて述べられた文章を読む、または聞く。(Model) 3. 都会と田舎のどちらが住みやすいかについて、ペアでやり取りする。(One-Minute Chat) 4. 都会と田舎、それぞれの生活についての意見を聞き、ペアで意見交換する。また、質問に対する自分自身の考えを述べる。(Put It Together) 5. 都会と田舎を対比するパラグラフを書く。(Try It Out)	○	○	○	○	○	○	「比較・対照」のパラグラフの論理構成について理解している。					○	○	○	3
	Part II Constructing a Paragraph Unit 5 Environmental Problems	【題材】環境問題について意見を述べる 【表現形式】「因果関係」のパラグラフ 【言語材料】結果を導く表現、原因を述べる表現、目的を表す構文 【言語活動】 1. トピックに関連するリスニングと、質問に答える。(Warm-up) 2. 地球温暖化について述べられた文章を読む、または聞く。(Model) 3. 地球温暖化が及ぼす影響について、ペアでやり取りする。(One-Minute Chat) 4. もっとも関心のある環境問題についてのそれぞれの意見を聞き、ペアで意見交換する。また、質問に対する自分自身の考えを述べる。(Put It Together) 5. 環境問題とその解決策についてのパラグラフを書く。(Try It Out)	○	○	○	○	○	○	「因果関係」のパラグラフの論理構成について理解している。					○	○	○	3

Part III Presenting Your Thoughts Unit 1 One Small Action	[題材] 社会を良くするための行動を考える [表現形式] スピーチ [言語材料] 話題を切り出す表現, 関心を引く表現, 次の話題に移る表現 [言語活動] - トピックに関連するリスニングと, 質問に答える。(Warm-up) - 社会貢献活動に参加した経験について述べられた文章を読む, または聞く。(Model) - 日常生活におけるちょっとした行動についてのスピーチを聞き, スピーチやその後の質疑応答の練習をする。(Put It Together) - 社会をより良くするための行動についてスピーチする。(Try It Out)	○	○	○	○	○	論理的なスピーチの展開方法について理解している。 社会をより良くするための行動について, 話題を切り出す表現や関心を引く表現, 次の話題に移る表現を用い, 論理の展開や構成を工夫して話して伝える技能を身につけている。	○	○	○	○	3
Part III Presenting Your Thoughts Unit 2 Creating Something New in Empty Spaces	[題材] 空き家問題を考える [表現形式] プレゼンテーション [言語材料] 焦点を1つに絞る表現, 資料に注意を向ける表現, 自分の考えを述べる表現 [言語活動] - トピックに関連するリスニングと, 質問に答える。(Warm-up) - 空き家の有効活用について述べられた文章を読む, または聞く。(Model) - 空き店舗・空きビルについてのプレゼンテーションを聞き, スライドを使ったプレゼンテーションの練習をする。(Put It Together) - 空きスペースの有効な活用法についてプレゼンテーションする。(Try It Out)	○	○	○	○	○	論理的なプレゼンテーションの展開方法について理解している。 空きスペースの有効な活用法について, 焦点を1つに絞る表現や資料に注意を向ける表現, 自分の考えを述べる表現を用い, 論理の展開や構成を工夫して話して伝える技能を身につけている。	○	○	○	○	3
Part III Presenting Your Thoughts Unit 3 Making Your Hometown Special	[題材] 理想のまちづくりを考える [表現形式] グループプレゼンテーション [言語材料] 引用する表現, グラフを説明する表現, 話をまとめる表現 [言語活動] - トピックに関連するリスニングと, 質問に答える。(Warm-up) - 自分たちのまちについて述べられた文章を読む, または聞く。(Model) - 自分たちのまちの将来についてのプレゼンテーションを聞き, それ用のスライドをつくり, 質疑応答の練習をする。(Put It Together) - 地元や住んでいる地域のまちづくりについてグループでプレゼンテーションする。(Try It Out)	○	○	○	○	○	論理的なプレゼンテーションの展開方法について理解している。 地元や住んでいる地域のまちづくりについて, 引用する表現やグラフを説明する表現, 話をまとめる表現を用い, 論理の展開や構成を工夫して話して伝える技能を身につけている。	○	○	○	○	4
Part IV Exchanging Your Thoughts Unit 1 Should Every Student Be in a Club?	[題材] 部活の是非について意見交換する [表現形式] ビンボンディベート [言語材料] 他の意見に理解を示しつつ自分の意見を主張する表現, 他の主張を引用する表現 [言語活動] - トピックに関連するリスニングと, 質問に答える。(Warm-up) - 部活に所属することについてやり取りしている文章を読む, または聞く。(Model) - 学校にはなぜさまざまな部活があるのかについて, ペアでやり取りする。(One-Minute Chat) - 高校生の自由時間についてのさまざまな考えを聞き, ペアで意見交換する。また, ビンボンディベートの練習をする。(Put It Together) - 全員部活に入るべきかについてビンボンディベートを行う。(Try It Out)	○	○	○	○	○	ビンボンディベートの形式について理解している。 全員部活に入るべきかについて, 他の意見に理解を示しつつ自分の意見を主張する表現や他の主張を引用する表現を用い, 論理の展開や構成を工夫して話して伝える技能を身につけている。	○	○	○	○	4

3 学 期	Part IV Exchanging Your Thoughts Unit 2 Should All Zoos Be Banned?	[題材] 動物園の是非やエコツアーについて討論する [表現形式] ディベート（準備型） [言語材料] これまでに学んだ表現 [言語活動] 1. トピックに関連するリスニングと、質問に答える。（Warm-up） 2. 動物園の廃止についてディベートしている文章を読む、または聞く。（Model） 3. 動物園の是非／エコツアーについてディベートを行う。（Try It Out）	○	○	○	○	○	ディベート（準備型）の形式について理解している。	動物園の是非やエコツアーについて、これまでに学んだ表現を用い、論理の展開や構成を工夫して話し合つて伝える技能を身につけている。	○	○	○	4
	Part IV Exchanging Your Thoughts Unit 3 Should Students Study Abroad?	[題材] 留学の是非について議論する [表現形式] ディスカッション [言語材料] 議論を進行する表現、発言を促す表現、意見をまとめる表現 [言語活動] 1. トピックに関連するリスニングと、質問に答える。（Warm-up） 2. 留学の是非についてやり取りしている文章を読む、または聞く。（Model） 3. 留学の利点と欠点について、ペアでやり取りする。（One-Minute Chat） 4. 日本の高校は留学生をもっと受け入れるべきかについてのさまざまな考えを聞き、ペアで意見交換する。また、ディスカッションの練習をする。（Put It Together） 4. 生徒は留学／ボランティア活動をすべきかについてディスカッションを行う。（Try It Out）	○	○	○	○	○	ディスカッションの論理構成について理解している。	留学やボランティア活動の是非について、議論を進行する表現や発言を促す表現、意見をまとめる表現を用い、論理の展開や構成を工夫して話し合つて伝える技能を身につけている。	○	○	○	4
	Part V Writing an Essay Unit 1 What's Going on at School	[題材] 最近の出来事を記事にまとめる [表現形式] 描写文 [言語材料] これまでに学んだ表現 [言語活動] 1. トピックに関連するリスニングと、質問に答える。（Warm-up） 2. 最近あったイベントについて報告する文章を読む、または聞く。（Model） 3. 最近の学校での出来事についてのエッセイ（複数のパラグラフから成る文章）を書く。（Try It Out）	○	○	○	○	○	描写文の論理構成について理解している。	最近の学校での出来事について、これまでに学んだ表現を用い、論理の展開や構成を工夫して書いて伝える技能を身につけている。	○	○	○	4
													合計
													50

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科

外国語

科目 English Communication III

教科： 外国語 科目： English Communication III 単位数： 4 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組

教科担当者： （ A組：加藤 ） （ B組：内海 ） （ C組：伊藤 ） （ D 組：加藤 ） （ E組：内海 ） （ F 組：伊藤 ）

使用教科書： （ CREATIVE English Communication III ）

教科 外国語 の目標：

【知識及び技能】 実際の英語コミュニケーションにおいて、目的、場面、状況に応じて適切に活用できる技能を習得する。

【思考力、判断力、表現力等】 様々なトピックに関する概要や要点を的確に理解し、適切に表現したり伝え合ったりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 英語の背景にある文化への理解を深め、主体的、自律的に英語で意思疎通を図ろうとする態度を養う。

科目 English Communication II の目標： 各単元のトピックを理解し、自分の言葉で内容を他者に伝えたり発表できるようにする。

		【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】					【学びに向かう力、人間性等】					
		外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を身に付けている。					外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。					
		単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
				聞	読	話 〔 や 〕	話 〔 発 〕	書					
1 学 期		Lesson1 Fast, Safe, and Efficient! 日本・世界の高速鉄道の発達についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。	【題材】 理科、SDGs 【文法項目】 分詞構文の否定形について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 【教材】 授業・予習ノート、Tactics 10、速読英単語 一人一台端末の活用	○	○	○	○	○	【知識及び技能】 日本語と英語の語順の違いに注意して、英文を理解することができる。分詞構文を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 高速鉄道の発達について理解し、その内容を整理して伝える。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある。	○	○	○	6
		Lesson 2 Water for Life 世界の水問題を解決しうる日本の井戸掘り技術についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。	【題材】 地理歴史、公民、SDGs 【文法項目】 無生物主語について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 【教材】 授業・予習ノート、Tactics 10、速読英単語 一人一台端末の活用	○	○	○	○	○	【知識及び技能】 英語のリズムやイントネーションに注意して、英文を音読することができる。無生物主語の英文の特徴について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 聞き手に配慮して、水問題についてのプレゼンテーションをしようとしている。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある。	○	○	○	6
		定期考査				○			○	○		1	
		Lesson 3 Athletes as Human Rights Leaders アスリートが発する社会的なメッセージについての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。	【題材】 SDGs 【文法項目】 進行形の受け身について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 【教材】 授業・予習ノート、Tactics 10、速読英単語 一人一台端末の活用	○	○	○	○	○	【知識及び技能】 様々な登場人物に関して的確に整理して英文を理解することができる。進行形の受け身について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 アスリートが発する社会的メッセージについてわかりやすく整理して伝える。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある。	○	○	○	6
		Lesson 4 The Linguistic Genius 赤ちゃんの言語習得についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。	【題材】 人文、社会学、発達 【文法項目】 会話における音の変化について理解を深めることができる。 【教材】 授業・予習ノート、Tactics 10、速読英単語 一人一台端末の活用	○	○	○	○	○	【知識及び技能】 会話における音の変化について理解し、英文を読み取ることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 会話における音の変化について理解し、聞き手に配慮し、わかりやすく伝えようとしている。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある。	○	○	○	6
	定期考査				○			○	○		1		
2 学 期		Lesson 5 Going Digital: What Does the Digital Age Bring? 社会のデジタル化についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。	【題材】 科学技術、IT 【文法項目】 イギリス英語のスプリングについて理解を深めることができる。 【教材】 Cutting Edge、Tactics 10、速読英単語 一人一台端末の活用	○	○	○	○	○	【知識及び技能】 イギリス英語のスプリングに注意して、英文を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 社会のデジタル化について理解し、その具体例を挙げ、自身の意見を相手に配慮して伝えることができる。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある	○	○	○	6
		Lesson 6 Mirrors of the Times 人類と病気の戦いの歴史についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。	【題材】 情報・SDGs 【文法項目】 ダッシュの用法について理解を深めることができる。 【教材】 Cutting Edge、Tactics 10、速読英単語 一人一台端末の活用	○	○	○	○	○	【知識及び技能】 ダッシュの用法に注意して、英文を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 病気の原因、予防方法について理解し、習慣を変えることが難しいかどうか伝えることができる。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある。	○	○	○	6
		定期考査				○			○	○		1	
		Lesson 7 Eat Well, Play Well! スポーツ栄養についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。	【題材】 家庭、SDGs 【文法項目】 コロンとセミコロンの用法について理解を深めることができる。 【教材】 Cutting Edge、Tactics 10、速読英単語 一人一台端末の活用	○	○	○	○	○	【知識及び技能】 コロンとセミコロンの用法について理解し、英文を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 スポーツ栄養における重要な点、栄養素について理解し、食事習慣の改善について自分の考えを表現することができる。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある	○	○	○	6
		Lesson 8 The Bridge to the Science World 橋の構造と役割についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。	【題材】 数学、理科、SDGs 【文法項目】 形容詞で始まる分詞構文について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 【教材】 Cutting Edge、Tactics 10、速読英単語 一人一台端末の活用	○	○	○	○	○	【知識及び技能】 形容詞で始まる分詞構文に注意して、英文を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 橋の歴史、構造、地域における役割について理解し、身の回りにある橋について聞き手に配慮して伝えることができる。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある。	○	○	○	6
	定期考査				○			○	○		1		
3 学 期		Lesson 9 Notorious RBG ギンズバーグ判事の生涯についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。	【題材】 公民、SDGs 【文法項目】 if ...以外が条件を表す仮定法について理解を深めることができる。 【教材】 Cutting Edge、Tactics 10、速読英単語 一人一台端末の活用	○	○	○	○	○	【知識及び技能】 if ...以外が条件を表す仮定法に注意して読み、英文を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ギンズバーグ判事の活躍について理解し、日本の男女雇用機会は均等と思うかどうか述べられる。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある。	○	○	○	6
		Lesson 10 No Rain, No Rainbow 三代達也さんの生き方についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。	【題材】 地理歴史、公民、SDGs 【文法項目】 否定語を含まない否定について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 【教材】 Cutting Edge、Tactics 10、速読英単語 一人一台端末の活用	○	○	○	○	○	【知識及び技能】 否定表現について理解し、英文を読み進めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 三代さんの旅について理解をし、誰もが旅を楽しめる環境とはどのようなものかを説明することができる。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある。	○	○	○	6
		定期考査				○			○	○		1	

科目 論理・表現Ⅲ

单位数： 3 单位

(EF組：伊藤、澤田、加藤)

(F組：小林)

Earthrise Logic and Expression III advance (書店)

の目標：

の目標：

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	「 」 話	「 」 発	書					
1 学 期	【単元】 ①Lesson 1 「Coming to Japan」 ②Lesson 2 「Online shopping」 Earthrise 実践ランダム編 1～2 共通テストリスニング Lesson 1～3	【題材】 ①メールを書く1 ②メールを書く2 【材料】 ①時制、 ②名詞句・名詞節 【言語活動】 ①受け取ったメールへの返信する ②注文した商品の不備を報告とその対応について質問する	○	○	○	○	○	<知・技> 【材料】 で取り上げた文法の意味や働きを理解し適切に使い、 【題材】 のテーマについて伝え合う技能を身に付ける。 <思・判・表> 【題材】 等についての情報を、論理的に詳しく伝えられる。 <主体> 【題材】 等についての情報を論理的に詳しく伝え合い、自分の発話を振り返り改善する。	○	○	○	15
	【単元】 ①Lesson 3 「Preparing to study abroad」 ②Lesson 4 「24-hour stores」 Earthrise 実践ランダム編 3～4 共通テストリスニング Lesson 4～6	【題材】 ①メールを書く3 ②意見を述べる1 【材料】 ①助動詞、 ②形容詞 【言語活動】 ①留学予定先へ質問する ②コンビニの24時間営業の是非について意見を述べる	○	○	○	○	○	<知・技> 【材料】 で取り上げた文法の意味や働きを理解し適切に使い、 【題材】 のテーマについて伝え合う技能を身に付ける。 <思・判・表> 【題材】 等についての情報を、論理的に詳しく伝えられる。 <主体> 【題材】 等についての情報を論理的に詳しく伝え合い、自分の発話を振り返り改善する。	○	○	○	18
	【単元】 ①Lesson 5 「Smart agriculture」 ②Lesson 6 「Aiman, the household robot」 Earthrise 実践ランダム編 5～6 共通テストリスニング Lesson 7～9	【題材】 ①意見を述べる2 ②意見を述べる3 【材料】 ①形容詞句、 ②形容詞節 【言語活動】 ①スマート農業の普及に関して ②家事ロボットの機能について	○	○	○	○	○	<知・技> 【材料】 で取り上げた文法の意味や働きを理解し適切に使い、 【題材】 のテーマについて伝え合う技能を身に付ける。 <思・判・表> 【題材】 等についての情報を、論理的に詳しく伝えられる。 <主体> 【題材】 等についての情報を論理的に詳しく伝え合い、自分の発話を振り返り改善する。	○	○	○	18
2 学 期	【単元】 ①Lesson 7 「Recipes」 ②Lesson 8 「A helping hand」 Earthrise 実践ランダム編 7～8 共通テストリスニング Lesson 10～11	【題材】 ①イラストを説明する1 ②イラストを説明する2 【材料】 ①副詞、 ②副詞句(不定詞 副詞的用法)、 【言語活動】 ①お好み焼きの作り方 ②ある人の人助けの経験	○	○	○	○	○	<知・技> 【材料】 で取り上げた文法の意味や働きを理解し適切に使い、 【題材】 のテーマについて伝え合う技能を身に付ける。 <思・判・表> 【題材】 等についての情報を、論理的に詳しく伝えられる。 <主体> 【題材】 等についての情報を論理的に詳しく伝え合い、自分の発話を振り返り改善する。	○	○	○	18
	【単元】 ①Lesson 9 「International Science Fair」 ②Lesson 10 「Future career plans」 Earthrise 実践ランダム編 9～10 共通テストリスニング Lesson 12～13	【題材】 ①申込書・応募書類を作る1 ②申込書・応募書類を作る2 【材料】 ①比較、 ②仮定法、 【言語活動】 ①高校生向けの科学イベントへの参加申込書 ②インターンシップへの応募書類	○	○	○	○	○	<知・技> 【材料】 で取り上げた文法の意味や働きを理解し適切に使い、 【題材】 のテーマについて伝え合う技能を身に付ける。 <思・判・表> 【題材】 等についての情報を、論理的に詳しく伝えられる。 <主体> 【題材】 等についての情報を論理的に詳しく伝え合い、自分の発話を振り返り改善する。	○	○	○	18
3 学 期	【単元】 ①Lesson 11 「Media reliability」 Earthrise 実践ランダム編 11～12 共通テストリスニング Lesson 14	【題材】 ①要点を整理する 【材料】 ①無生物主語 【言語活動】 ①情報の信頼性に関する資料	○	○	○	○	○	<知・技> 【材料】 で取り上げた文法の意味や働きを理解し適切に使い、 【題材】 のテーマについて伝え合う技能を身に付ける。 <思・判・表> 【題材】 等についての情報を、論理的に詳しく伝えられる。 <主体> 【題材】 等についての情報を論理的に詳しく伝え合い、自分の発話を振り返り改善する。	○	○	○	18 合 計 105

年間授業計画 新様式例

高等学校 令和8年度（3 学年用） 教科 外国語 科目 グローバルイングリッシュ

教科： 外国語 科目： グローバルイングリッシュ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組

教科担当者：（A 組～F組：近藤 加藤匡）

使用教科 （ Over All 4 Z-KAI ）

外国語 の目標： 長文読解の技術を身につける

【知識及び技能】世界的事象を Reading, Writingを通して英語で理解し、情報共有をする。

【思考力、判断力、表現力等】4 技能5 領域を活用して英語の総合力を育む

【学びに向かう力、人間性等】協働活動を通してデジタルテクノロジーを使用し、異文化の学びを実践的に行う。

科目 グローバルイングリッシュ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
スキル：Communication / Using appropriate vocabulary , words and grammar. / Reading the information and share it with mates and Managing conversation.	スキル：Critical Thinking / Synthesizing ideas and information / Selects keypoints from a range of sources to present interesting and coherent information.	スキル：Collaboration / Managing the sharing of tasks in a project / works with others to plan and execute class projects.

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 (や)	話 (発)	書					
1 学 期	A 単元 【知識及び技能】Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】Collaboration skills	教材 「Over All 4」 出版社 Z 会 PCを利用し、長文読解の技術および解説する能力を身につける その他文法項目を総合問題で扱う unit 1	○	○	○	○	○	・ can understand sentences and frequently used expressions related to areas of most immediate relevance. / can communicate in simple and routine tasks requiring a simple and direct exchange of information on familiar and routine matters.	○	○	○	4
	A 単元 【知識及び技能】Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】Collaboration skills	教材 「Over All 4」 出版社 Z 会 PCを利用し、長文読解の技術および解説する能力を身につける その他文法項目を総合問題で扱う unit 2	○	○	○	○	○	・ can understand sentences and frequently used expressions related to areas of most immediate relevance. / can communicate in simple and routine tasks requiring a simple and direct exchange of information on familiar and routine matters.	○	○	○	4
	定期考査	読解	○	○			○		○	○		1
	A 単元 【知識及び技能】Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】Collaboration skills	教材 「Over All 4」 出版社 Z 会 PCを利用し、長文読解の技術および解説する能力を身につける その他文法項目を総合問題で扱う unit 3	○	○	○	○	○	・ can understand sentences and frequently used expressions related to areas of most immediate relevance. / can communicate in simple and routine tasks requiring a simple and direct exchange of information on familiar and routine matters.	○	○	○	4
	A 単元 【知識及び技能】Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】Collaboration skills	教材 「Over All 4」 出版社 Z 会 PCを利用し、長文読解の技術および解説する能力を身につける その他文法項目を総合問題で扱う unit 4-6	○	○	○	○	○	・ can understand sentences and frequently used expressions related to areas of most immediate relevance. / can communicate in simple and routine tasks requiring a simple and direct exchange of information on familiar and routine matters.	○	○	○	4
	定期考査	辞書を使って難解問題に触れる	○	○			○		○	○		1

2 学 期	A 単元 【知識及び技能】Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】Collaboration skills	教材 「Over All 4」 出版社 Z 会 PCを利用し、長文読解の技術および解説する能力を身につける その他文法項目を総合問題で扱う unit 7-9	○	○	○	○	○	・ can understand sentences and frequently used expressions related to areas of most immediate relevance. / can communicate in simple and routine tasks requiring a simple and direct exchange of information on familiar and routine matters.	○	○	○	9
	定期考査	読解	○	○			○		○	○		1
	A 単元 【知識及び技能】Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】Collaboration skills	教材 「Over All 4」 出版社 Z 会 PCを利用し、長文読解の技術および解説する能力を身につける その他文法項目を総合問題で扱う unit 10-12	○	○	○	○	○	・ can understand sentences and frequently used expressions related to areas of most immediate relevance. / can communicate in simple and routine tasks requiring a simple and direct exchange of information on familiar and routine matters.	○	○	○	8
	定期考査	読解	○	○			○		○	○		1
3 学 期	A 単元 【知識及び技能】Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】Collaboration skills	教材 「Over All 4」 出版社 Z 会 PCを利用し、長文読解の技術および解説する能力を身につける その他文法項目を総合問題で扱う unit 13-15	○	○	○	○	○	・ can understand sentences and frequently used expressions related to areas of most immediate relevance. / can communicate in simple and routine tasks requiring a simple and direct exchange of information on familiar and routine matters.	○	○	○	6
	A 単元 【知識及び技能】Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】Collaboration skills	教材 「Over All 4」 出版社 Z 会 PCを利用し、長文読解の技術および解説する能力を身につける その他文法項目を総合問題で扱う unit 16-17	○	○	○	○	○	・ can understand sentences and frequently used expressions related to areas of most immediate relevance. / can communicate in simple and routine tasks requiring a simple and direct exchange of information on familiar and routine matters.	○	○	○	合計 43

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 家庭 科目 家庭基礎

教科 科： 家庭 科目： 家庭基礎

対象学年組： 第2学年 A組～F組

教科担当者： 飯屋園 圭子

使用教科書： 新家庭基礎 気づく力 築く未来 （実教出版）

副 教 材： Life Design 資料＋成分表＋ICT 2026 （実教出版）

家庭科 年間学習指導計画と評価規準

教科・科目	家庭基礎	学科・学年・学級	2学年
		単位数（年間授業時数）	2単位（70時間）

学習目標	・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 ・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。 ・様々な人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。	
学習評価	評価の観点	科目の評価の観点の趣旨
	a 知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。
	b 思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。
	c 主体的に取り組む態度	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

学期	月	学習内容		学習活動	ねらい	知	思	主	評価基準	評価方法	時数
1 学期	4	家庭科を学ぶにあたって			「家庭基礎」を学ぶにあたって、学習の意義や内容、情報収集、レポートの書き方など学習の方法、評価の方法を理解する。						1
		第1章 自分らしい 生き方と家 族	1節 自分の未来予 想図を描こう ～生涯発達と 発達課題～	・ライフステージにおける 発達段階について学び、現 在の自分の課題を考える。 ・今の自分について自己分 析を行い、未来予想図を描 く。	・ライフステージごとの特 徴・課題を理解する。 ・自分の特徴や長所に気づ き、人生を展望できるように する。	○			自分自身について考えるワークシートや将来に ついてのレポートなどを通して、自分や、人の 一生についての考えをまとめることができる。	・レポートの作成（ライフイベン トの書き出し、自己分析）	1
								○	人生の各ライフステージの特徴と課題について 知り、少子高齢社会、男女共同参画社会などの 社会状況を考えながら、自分の生活や将来につ いて考えを深め、発表などを通じて考えを表現 することができる。		
								○	現在の自分のこと、将来の生活設計を考えるこ とについて、意欲を持ってとりくもうとしてい る。		
		生活設計		・人生をデザインするうえ で必要な準備を考え、シ ミュレーションする。 ・こんにちの社会背景を踏 まえて、具体的に生涯にわ たる生活設計を考える。	・人生設計に必要な要素を理 解する。 ・自分の将来とこれからの社 会について考えることができ るようにする。	○			自分自身や現在の社会状況を客観的に知り、将 来を見通した人生設計への課題をみつけること ができる。	・君とみらいとライフプラン作成 （「なりたい自分」のシミュレ ーション）	2
								○	自分の近い将来についてのキャリアや生活につ いての設計を考え、ワークなどを用いてそれら を具体的に描いていくことができる。		
	生活設計		・自分らしい生き方を設計 する。	・具体的な人生設計をする。 ・仕事を選ぶうえで、大事に したいことはなにか考える。		○		精神的な自立、経済的な自立、生活的自立、性 的自立にむけて、これからの人生を考え、設計 できる。	・レポートの作成（生活設計ワー クシート） ・Classi報告	2	
	5		2節 自立と共生	・「大人」と自分を比較 し、不足している点を考える ・青年期の特徴について学 ぶ。 ・これからの自分自身と社 会のあり方を展望する。	・自立の種類とそれぞれの具 体的な内容を把握する。 ・男女共同参画社会の実現を めざす歩みと社会的背景につ いて理解し、どのような青年期 を生きるかを考えることがで きるようにする。	○			青年期の課題である自立や男女の平等と相互の 協力などについて理解できる。	・ワークシートの作成 ・Classi アンケート	1
						○	男女共同参画社会など、現在の社会的状況につ いて、興味を持って知ろうとする態度がある。				
			3節 ライフキャ リア	・働く意義とどのような仕 事（職場）で働きたいと思 うかを考える。 ・職業労働と家事労働の違 いをまとめる。 ・職業生活や家庭生活にお ける時間の使い方について 考える。	・労働の種類、またその意義 について多面的に検討できる ようにする。 ・労働を支える社会や地域の しくみを知ることで、私たち もその一員であるという自覚 を持つことができるようにす る。	○			・生活にかかわる労働の意義、また、現在の労 働環境などについて理解できる。 ・現在の生活時間の状況をふまえ、生活時間と 労働との関係について理解できる。	・Classiレポートの作成（仕事と 家事の両立） グループでの話し合い	1
	4節 共に生きる家 族	・「家族」の条件とは何か 考える。 ・家族のライフイベントに ついて考える。 ・家族が抱える問題を踏ま えて、家族を支えるしくみ について具体的に考える。	・結婚、家族・家庭の意義や機 能について理解する。 ・時代とともに変化する家 族・家庭について学習し、現在 の家族の抱える課題などを理 解する。	○			結婚、家族・家庭の多様化や、時代とともに変 化する役割について理解できる。 ・図表などから家族の形、家庭のあり方や役割 について、また時代とともに変化した背景につ いて読みとることができ、現在の家族・家庭の あり方や役割について考えを深め、表現するこ とができる。 ・家族・家庭に関する課題・問題点について、 社会的な制度、労働環境や雇用情勢などの背景 も考慮しながら原因を推測し、解決へ導くため の考えをまとめ、討論やレポートを通して発表 することができる。 ・家族の変遷や家族に関する意識の変化、さら には、現在の家族の抱える問題・課題などに ついて、新聞や書籍などから情報を収集し、自 らの考えをまとめることができる。	・グループでの話し合い、発表（家 族の条件、資料読み取り） ・レポートの作成（ライフイベン トに必要な金額） ・WorldActivity（世界の国のラ イフスタイル））についての読み 取り	2		
						○	結婚、家族・家庭の形、家族・家庭の役割につ いて、自分とどうかかわっているのか、興味・ 関心をもとうとしている。				

			5節 家族に関する法律	・家族に関する法律の資料を見ながら、考えをまとめて話し合う。 ・家族の抱える問題について学び、具体的なサポートのあり方について考える。	・家族に関する法律の理念や背景、改正点について理解する。 ・法律は自分たち一人ひとりの認識にもとづく社会の要請を受けて検討、改正されていくことを理解する。	○			家族に関する法律についての知識を身につけている。	・グループでの話し合い（選択的夫婦別姓制度） ・WorldActivity（世界の国のライフスタイル）についての読み取り）	1		
6	第6章 衣生活をつくる	1節 人と衣服のかかわり	・季節ごとの着こなしについて考える。 ・衣服の起源や歴史、風土に適した衣服について知り、人はなぜ衣服を着るのか考える。 ・衣服が持つ機能や安全性などについて学ぶ。	・人はなぜ衣服を着るのか理解する。 ・衣服が持つ機能や安全性についての知識を身につける。 ・だれもが快適な衣生活を送るための要因を理解する。			○	自分の衣生活をとりにくく状況について関心をもち、衣生活の改善・向上に積極的にとりくもうとする。	・レポートの作成（人はなぜ衣服を着始めたのだろうか） ・WORLD Activity（世界の民族衣装）	1			
		2節 衣服の素材の種類と特徴	・快適な衣服の特徴や機能について考える。 ・暮らしの中での素材衣服の性能と改善について学ぶ。	・衣服素材の種類、繊維の種類と特徴、衣服素材の性能について理解し、用途に応じた素材の選択ができるようにする。 ・衣服の加工技術について理解する。	○			衣服の素材の種類や特徴について知識を身につけ、用途に応じてどんな衣服が適切か理解できる。	・グループでの話し合い（快適な衣服について） ・実験（吸水・速乾性/燃焼実験）動画による	2			
		3節 衣服の選択から管理まで	・衣服の入手から処分までの流れを学び、衣生活の計画を考える。 ・洗剤・漂白剤・防虫剤などの種類について学ぶ。	・衣服の表示にはどのような種類があるのか、なぜついているのかを理解し、購入から洗濯などの管理に役立てる。 ・洗剤・漂白剤・防虫剤などの種類について理解し、衣服	○			・衣服材料の性能と特徴、衣服整理についての科学的な知識を身につけることによって、衣服を適切に選択し、管理することができる。 ・衣類の購入から廃棄まで、計画的な衣生活を営む知識を身につけている。	・実習（いま着用している衣服の手入れ方法） ・実験（界面活性剤のはたらき、しみ抜き）動画	3			
					○			衣服材料・衣服整理についての基礎的な知識を身につけ、実生活での衣服管理において、適切な判断ができる。	・被服材料…燃焼実験動画				
		7											
夏 休 み	8	ホームプロジェクト 学校家庭クラブ活動	・生活をあらためて見直し、解決することを検討する。 ・具体的な解決方法を探り、実際に改善する。	・生活の中で、よりよく暮らすための解決方法を考える。 ・ひとりで取り組むだけでなく、協働することの意義を知る。	○				・家族の生活時間や、食・衣・住に関すること、ボランティア活動など、自分で関心のあること、また生活から見えてくる課題を探すことができ、それに対する具体的な解決方法を考えることができる。	・レポートの作成（ホームプロジェクト）			
								○			・自身の活動についてレポートにまとめることができる。		
2 学 期	9	第5章 食生活をつくる	1節 日本の食文化の形成	・日本の食文化形成を知り、郷土料理について調べる。	・日本の食文化の成り立ちを理解する。 ・和食の特徴を理解する。			○	・自分の地域の郷土料理について、歴史や料理の作り方を調べてまとめることができる。 ・自分の地域の郷土料理と他の地域の郷土料理を比較し、違いを自分の言葉で表現できる。	・郷土料理、日本料理と他国の料理との違い（動画）発表	1		
			2節 私たちの食生活	・食事調査を通して、各自の食生活の問題点に気づく。 ・ライフステージごとの食生活の特徴を学ぶ。	・自身の食生活の現状把握と今後の課題を理解する。 ・健康で豊かな食生活をはぐくむための気づきや工夫を理解する。	○			食事の意義や役割、食生活をとりにくく環境などについて、現代の食生活の課題が理解できる。	・レポートの作成（共食の場面） ・発表（味わうことを表現する）	1		
						○			自身の食生活や現在の食生活の課題を発見し、課題解決のために思考し、解決にむけての判断ができる。				
						○			自分自身の食生活について関心をもつとともに、自分や家族の食生活について意欲的に改善・向上に努めようとする。				
			3節 栄養と食品のかかわり	・自身の食事から食品ごとに含まれる栄養素を学び、バランスの良い食事について考える。 ・食品の調理上の特性を知り、適切な調理を考える。	・栄養素の種類と働きやそれそれぞれの栄養素が多く含まれる食品についての基礎的な知識を身につける。	○			栄養・食品に関する科学的な知識や調理の技術を身につけ、それを実際の食生活に生かすことができる。	・レポートの作成（昨日食べた食事、）	6		
						○			食品と栄養、調理との関係において、科学的な視点をもって、知識を深めようとしている。				
			4節 食品の選び方と安全	・旬の食材を考え、旬の時期がなぜよいかわかる。 ・食品衛生（食品の選択、食中毒、食品添加物）について学ぶ。	・季節ごとに旬の食材があることを理解する。 ・表示の読み方を理解し、情報を正確に把握する。 ・食品を見分け、よりよい選択ができるようにする。 ・食中毒に対する予防法を理解する。 ・食品添加物について理解する。	○			・旬の食材にはなにがあるか、なぜ旬の食材がよいのかを理解している。 ・食中毒の予防法や、食品添加物の特徴をとらえることで、安全な食品について理解している。	・食中毒予防の動画と感想発表	1		
10		5節 食事の計画と調理	・食事摂取基準、食品群別摂取量などを用い、家族の献立作成を行う。 ・調理を通して、基礎的な技術を身につけ、食事マナーを実践する。	・家族の食生活の計画と管理ができるようになる。 ・衛生と安全に配慮して、調理することができるようになる。 ・年齢や性別ごとに異なる一日に必要な食事摂取量と、それを満たすための食品の概量を理解する。	○			・栄養・食品・調理に関する基礎的な知識を生かしながら、献立を作成することができる。 ・調理実習を通して、日常の食事づくりに必要な調理技術を身につけ、献立作成から後かたづけまでの一連の流れを計画し実践できる。	・レポートの作成（食事の計画、グループでの話し合い（食事の計画、調理） ・調理実習（準備・実習・片付けも含めた実施状況・レポート作成）				
								○			・栄養の機能と食品のかかわり、また食品の特性と調理との関係において、科学的な思考を身につけ、食品選択、栄養計算や献立作成など、実際の食事づくりにむけての判断ができる。 ・調理実習において、作業の流れを判断しながらとりくむことができる。		8
								○			調理実習においては、積極的に参加し、とりくもうとしている。		

		6節 これからの食生活を考える	- 食品の自給率や食に関する環境問題について考える。 - 環境に配慮した食生活（食品ロス等）について考える。 - 日本の食料自給率の現状	- 日本の食料自給率の現状を理解する。 - 日本の食糧事情を解決するためにできることをみつける。 - 情報に惑わされることなく安全な食品を選択できるようになる。 - 食の安全と環境に配慮した食生活を送ることができるようになる。	○		現在の日本の食生活においての課題について調査などから発見し、解決の方法について、自分の考えをまとめることができる。	- レポートの作成（私たちができること、エコクッキング） ・WORLD Activity（食の安全と世界とのつながり）	1
11	第7章 住生活をつくる	1節 人間と住まい	- 生活と住まいの機能とのかかわりについて考える。 ・気候風土と住まいとの関係、そこでの人間の営みとの関係を考える。	・住まいはどのような機能を持ち、人の生活がその機能とどうかかわっているか理解する。	○		・住まいの役割・機能について、地域の特性などをふまえて調査・研究ができる。	・グループでの話し合い（家の材料、住まいを必要とする理由、気候風土に適した住まい） ・WORLD Activity（世界の住まい・日本の住まい）	1
		2節 住まいの文化	・和風木造住宅の空間的な特性や工夫をまとめる。 ・現代の暮らしにいかすことができる和の住文化をまとめる。	・日本の伝統的な住居の、建築的な工夫や暮らしの工夫をみつける	○		日本独特の生活様式と、それに伴う住まいの特徴を理解している。	・発表（一足制のメリット・デメリット）	1
		3節 住まいを計画する	・ライフステージによる住まいの変化について考える。 ・快適な住まい方を考え、平面計画を立てる。	・ライフステージや住まう人の住欲求によって平面計画が変化することを理解する。	○		住まいの機能・役割、またライフステージや家族構成などと住まいの関係について理解している。	・間取りの作成、発表（家具の配置、各家族にとってのつがいやすさ、）	1
		4節 健康に配慮した快適な室内環境	・室内環境と健康のかかわりを考える。 ・快適な室内環境について、日照・採光、通風・換気、騒音、冷暖房などの要素を学ぶ。	・健康的な室内環境をつくるためのさまざまな要素を理解する。 ・安全で長く住み続けるために必要な適切な管理の方法を調べる	○		日照・日射・採光・照明、通気・換気、冷暖房など、健康的な住まい環境における基本的な知識が理解できる。また、住まいの清掃やメンテナンスについても理解し、快適な生活につなげることができる。	・レポートの作成（住宅の維持・管理、室内を改善する工夫）	1
		5節 安全な住まい	・災害情報の入手方法、安全への備えとして必要なことを考える。 ・誰もが安全に住むための工夫を考える。	・家庭内事故や災害について学習し、安全な住まい環境について理解する。	○		住まいの安全対策、住まいにおける健康管理など、実生活に役立てることができる。	・グループでの話し合い、発表（校内やまちなかでの経験、被災した場合のシミュレーション） ・Trend Topic（備蓄品チェック、簡易スリッパ） ・Cross Activity（バリアフリーを考える）	1
		6節 持続可能な住まいづくり	・住宅政策の事例について調べ、住まいの課題を考える。 ・居住問題についての法律・制度・施策を調べる。 ・住まいとエネルギー、まちづくりなどの観点から、持続可能な住まいとは何か考える。	・日本の住宅政策の目的を理解する。 ・まちの課題について自分なりに解決策を考えることで、一市民としてまちづくりに参画する姿勢を持つ。	○		・安全で快適な住まいや、社会環境・地域環境についての知識を身につけ、現在の住生活の課題についても認識できる。	・レポートの作成（古い民家が再生されている事例）	1
12	第8章 消費行動を考える	1節 消費行動と意思決定	・主体的な消費行動について多角的に考える。 ・情報社会における生活情報について知り、その適切な活用方法について考える。	・消費行動において、意思決定のプロセスが重要であることを認識する。 ・情報リテラシーを身につける大切さを理解する。	○		消費行動について、さまざまな情報を収集しながら、自分の消費行動について検証することができる。	・レポートの作成（購入時に重視すること、商品に対する意見の検討）	1
		2節 消費生活の現状と課題	・契約、多様な販売方法や支払い方法について学ぶ。 ・問題商法による被害を未然に防ぎ、早期解決する方法を考える。	・契約、多様な販売方法や支払方法、問題商法について理解する。また、被害にあった場合の解決方法についても理解する。	○		消費行動における意思決定の過程とその重要性について理解でき、また契約についての知識を身につけている。	・グループでの話し合い（通信販売の問題点と対策、多様な支払い方法のメリットとデメリット） ・Cross Activity（スマートフォンから生活を見る）	1
		3節 消費者の権利と責任	・消費者被害の事例を調べ、消費者の権利と責任を考える。 ・これからの社会に求められる消費者の自覚と、行動のあり方を検討する。	・消費者の権利と責任について理解し、消費において自主的に行動することの必要性を理解する。	○		・消費者の権利と責任などについて理解できるとともに、現代の消費生活の課題について認識できる。	・動画視聴・レポートの作成（消費者被害の事例、成年者の権利と責任）	1
		4節 ライフスタイルと環境	・日常生活が地球環境やグローバル社会に与える影響について考える。 ・持続可能な社会の実現に向けた消費行動について考える。	・資源・環境に配慮した生活スタイルについて考え、実行できる。 ・日々の暮らしの中で、持続可能な社会をめざした行動をすることができるようになる。	○		・家庭生活と資源・環境との関係についての知識を身につけている。	・発表（ライフスタイルの見直し） ・WORLD Activity（マイクロプラスチック）	1
	第9章 経済的に自立する	1節 暮らしと経済	・生活における経済と社会のかかわりについて学ぶ。 ・収入と支出にはどのような項目があるのか学ぶ。 ・適切な家計管理について考える。	・家庭経済を国民経済、国際経済の関係性に気づく。 ・家庭の収入や支出、予算生活の必要性について理解する。	○		家庭経済・国民経済などのしくみについて理解でき、短期・長期的経済計画の重要性を認識できる。	・発表（金銭感覚チェック） ・レポートの作成（光熱費調査） ・ひとり立ちへのStep（ひとり暮らしの収支を考える）	2

3 学 期	1						○	自分の経済的自立を考えながら、家庭経済・国民経済のしくみや家計の特徴について、積極的に理解しようとし、短期・長期の経済計画について意欲的にとりくもうとしている。		
		2節 将来のライフ プランニング	・将来のライフイベントや 起こりうるリスクと、その 費用について考え、長期的 な経済 計画について学ぶ。 ・金融商品の特徴と選択基 準を学ぶ。	・生活設計とかかわらせて、長 期の経済設計の必要性につい て理解する。	○			・短期・長期の経済計画にかかわる実習を通し て、経済的な側面から人生設計を組み立てるこ とができる。	・レポートの作成（自分の将来を 思い描く） ・TrendTopic（資産形成） ・ひとり立ちへのStep（ひとり暮 らしを始める）	1
						○		将来のライフイベントとその費用を考えるこ とができる。		
		1節 子どもとは	・青年期の健康を学ぶこと で、次世代を担う子どもを 育て、はぐくんでいくこと の責任感を養う。 ・子どもの感じ方について の例を出しあう。	・育児を学ぶ意義について理 解する。 ・10代の健康が、将来生まれ てくる子どもにつながってい ることを理解する。 ・子どもの世界と出会うこと によって、自己理解を深める。			○	・子どもの世界について、自分の子どもの頃を 思い起こしながら、興味・関心を持ち、子ども の生活について、積極的に子どもとかかわりな がら、理解しようとする。 ・生命の尊さについて、自分の現在、将来と結 びつけながら、学習しようとする意欲がある。	・グループでの話し合い（赤ちゃ んは何歳までかななどの例を出しあ う）	1
		2節 子どもの発達	・子どもの発達について考 える。 ・子どものからだの成長の ようすを学ぶ。	・子どもの誕生、子どもの心身 の発達と特徴について理解す る。 ・子どもは、親や保育者など の身近な大人とかかわりあ いのなかで発達していくこと を理解する。	○			子どもの心身の発達や子どもの生活についての 知識を身につけている。	・レポートの作成（子どもの発達 について）	1
		3節 子どもの生活	・子どもをのころを振り返る ことで、基本的生活習慣や 社会的生活習慣の身につ き方を学ぶ。 ・子どもの食生活・衣生 活、安全管理について学 び、子どもとかかわれるよ うにする。 ・絵本作りや読み聞かせを 通して、子どもの遊びの意 義や課題について考える。	・子どもの食生活・衣生活、遊 びについて理解を深める。	○			子どもとの接し方、子どもの衣食住にかかわる 物づくりなどの技術を身につけている。	・発表（子どものころの振り返 り、絵本の読み聞かせ） ・作品の製作（牛乳パック絵本な ど） ・レポートの作成（液体ミルクを 調べる）	2
		4節 子どもをはぐ くむ	・子育て中の親とかかわる ことで、現代の親子にかか わる課題と、解決の方向性 を探索。 ・保育所などで実際に子ど もとふれあう。	・子どもを生み、育てる意義 について理解する。 ・親子関係の課題を理解し、 解決に向けてできることを考 えることができる。	○			生命の尊さ、子育ての意義について理解するこ とができる。	・発表（子育て中の親にインタ ビュー） ・人形を使った各種実習のレポ ート	2
						○		子どもとふれあう体験学習や、子どものための おもちゃづくり、お菓子づくりなどの実践活動 に、積極的に参加し、子どもの発達の様子や生 活に興味・関心をもとうとしている。		
		5節 子どものため の社会福祉	・子育てにかかわる社会的 課題について知り、どのよ うなサポートが必要とされ ているのか考える。 ・世界の子どもの未来に向 けての課題解決の方法を考 える。	・子育てのための国や地域の 社会的支援について理解す る。 ・子どもの権利と福祉の歩み について理解する。	○			子どもの発達段階において、子どもをとりまく 人とかかわり、地域環境・社会環境の重要 性、子どもの福祉について理解できる。	・グループでの話し合い、発表 （世界の子どもの未来に向けて） ・WORLD Activity（子どもの権 利条約について）	1
						○		子どもの生活やとりまく環境、また、現在の子 育ての環境や地域社会や国の支援策や課題など について、情報を収集し、まとめることができ る。		
	2	第3章 高齢者とか かわる	1節 高齢社会に生 きる	・これまでの高齢者とかか わりを振り返る。 ・高齢社会の現状を知り、 身近な問題としてとらえ る。	・高齢者、高齢社会への理解 を世界の動向からも深める。	○		高齢化社会の現状や課題について情報収集、調 査・研究をし、課題解決に向けて考えをまとめ ることができる。	・レポートの作成（あなたの町の 年齢構成、高齢社会で気になるこ と）	1
			2節 高齢者を知る	・高齢者についてのイメ ージをまとめる。 ・高齢者の生活場面を体験 する。 ・高齢者と家族とかかわ り、経済、社会での活躍な どを知り、高齢者における 生活の課題について考え る。	・高齢者の心身の特徴や生活 を客観的に理解する。 ・高齢期の心身の変化による 生活行動の不安に気づき、改 善をする。	○		高齢社会の現状や高齢者の心身の特徴につい て理解している。	・グループでの話し合い（高齢者 の生活場面における工夫や改善） ・発表（高齢者の生活場面を体験 した振り返り）	1
			3節 高齢者の自立 を支える	・要介護の高齢者との接し 方を考える。 ・高齢期の生活を健康に過 ぐすための心がけについて 考える。 ・日常生活の介助を体験す る。	・要介護の高齢者に対して必 要な心がけを理解する。 ・日常生活を手助けできる介 助の技術を身につける。	○		・認知症の高齢者と接するときに必要な心がけ を理解している。 ・介助技術や車椅子の扱い方を理解している。	・発表、自己評価（高齢者体験）	2
			4節 高齢社会を支 えるしくみ	・高齢者施設での利用者の 過ごし方、どんな人が働い ているかについてまとめ る。 ・介護をめぐる課題の解決 にはどのようなことが必要 か考える。	・介護保険制度について理解 する。 ・介護をめぐる課題について 理解する。	○		・高齢期を支える社会的な制度・しくみについ て理解している。 ・高齢者の生活における地域社会の役割、地域 福祉の重要性について理解できる。	・グループでの発表	1
						○		社会福祉の意味、現在の社会福祉の状況、社会 保障制度のしくみについて理解できる。	・レポートの作成（人の一生と社 会福祉とかかわり）	1
	3	第4章 社会とかか わる	1節 支えあって生 きる	・人の一生と社会福祉とか かわりをイメージするこ とで、「福祉」の意味につ いて考える。 ・社会保障制度のしくみを 踏まえて将来に向けての課 題を考える。	・個人や家庭生活を支える社 会保障制度や社会福祉につ いての重要性を理解する。 ・将来に向けた課題に気づ く。	○		社会福祉や生涯を通しての社会保障制度のしく みについて、現在の生活課題と関連させながら 考えることができる。		
							○	生涯を通しての社会福祉・社会保障のしくみや 地域での支え合いのしくみについて意欲的に理 解しようとしている。		
							○			

		2節 共生社会を生 きる	・暮らしの中の支えあいについて考える。 ・ボランティア活動や地域社会でのさまざまな活動の意義について考える。	・支え,支え合う社会の大切さやボランティア活動を理解し, ボランティア活動に興味・関心が持てるようにし,実際の活動につなげる。	○			ボランティア活動の意義について理解できる。	・レポートの作成（ユニバーサル・デザインを考える） ・目の見えない人の誘導体験レポート ・Cross Activity（心のバリアフリー） ・WORLD Activity（ユニバーサル・デザイン）	2
						○		・自分たちの暮らす地域の福祉について、調査などを行い、自分でできることは何かを導き出すことができる。また、参加した活動についてレポートにまとめることができる。 ・支え合う社会とは何かを主体的に考え、社会福祉についての考えをまとめることができる。また、社会において自分のできることは何かを導き出すことができ、それを支えあいの活動などの実践に生かすことができる。		
							○	社会の一員としての自覚を持ち、ボランティア活動や支え合う活動への興味・関心を持って、調査・参加しようとしている。		

高等学校 令和8年度（3学年用）		教科 家庭	科目 保育基礎	科目 保育基礎	単位数 2単位
教科	家庭	科目	保育基礎		
対象学年組	第3年必修選択（B2群）		A組～F組中の選択者		
教科担当者	仮屋園 圭子				
使用教科書	家庭706 保育基礎 ようこそ、ともに育ち合う保育の世界へ（教育図書）				
副教材	使用しない				
家庭科の目標		生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。 【知識及び技能】(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】(3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。			
保育基礎の目標		家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。 【知識及び技能】保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】子どもの健やかな発達を目指して学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

学期	月	時数	学習内容		学習目標と活動	知	思	主	評価基準例	評価方法例		
1 学期	4 月	2	口絵	子どもにかかわる職業を知ろう！	・子どもにかかわる職業にはどのようなものがあるか、また、その意義を知る。 ・自分が将来どのような形で子どもにかかわりたいか考える。	●			・さまざまな職業が子どもや保育に直接的・間接的にかかわっており、子どもの健やかな発達に寄与していることを理解している。	・レポート ・ワークシート		
							●		・自分の将来における子どもへのかかわりについて、職業や、かかわる内容などを具体的に考えられる。			
								●	・子どもにかかわる職業について関心をもち、自身が希望する職業に就くために必要なことを調べるなど、情報を収集・整理しようとしている。			
		1	★1学期に実習協力園で適宜見学を入れ、2学期に発表実習を行う。	1 保育とは何か	★保育園見学実習 保育園見学を通して子どもの発達と保育について総合的に学び、保育にかかわる仕事への職業観を育成する。	●			・子どもの人格形成における保育の重要性を理解している。 ・保育における保護者や保育者の役割を理解している。	・レポート ・ワークシート ・小テスト ・準備ノート ・定期テスト		
				① 保育の意義		2 育ての心		●			・子どもの保育の特徴や、保育者に求められる姿勢などについて要点をまとめることができる。	
			② 保育の環境	1 子どもが育つ環境	・家庭及び幼稚園、保育所や認定こども園について、それぞれの養育・保育環境の特徴や役割を理解する。 ・現代の子どもや子育て家庭を取り巻く環境の問題、多様な保育のニーズに関する課題を知り、子どもの健やかな発達のための適切な保育環境について考える。	●		●	・家庭での養育と集団保育の役割を理解している。 ・家庭での子育ての現状と課題、国の子育て支援の内容などについて理解している。 ・保育所や幼稚園、認定こども園における保育・教育の特徴を理解している。			
				2 家庭での養育					●		・現在の子育て家庭が集団保育に求めていることについて、子育て環境の変化などと関連させながら具体的に考察することができる。	
				3 さまざまな保育の場							●	・身近な保育・教育施設について関心をもち、ホームページからその特色を調べるなど自ら情報を収集しようとしている。
		4 保育ニーズの高まりと課題										
		5 集団保育の重要性										
	2	③ 保育の方法	1 保育の方法の基本	・子どもの成長には、子どもを受け止め理解してくれる大人の存在が不可欠であることを知る。 ・保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について調べ、子どもの発達における保育・教育の目的や目標について理解する。 ・発達過程の特徴と、段階に応じた保育の方法を理解する。	●			・保育の目標と、保育者から子どもへのはたらきかけの重要性を理解している。 ・月齢・年齢に応じた保育者の適切なかわり方を理解している。	・レポート ・グループ活動 ・発表			
						●		・保育所保育指針などが目標とする子どもの育ちを支えるために、保育者としてどのようなことが大切か、自分の考えをもち、話し合うことができる。 ・月齢・年齢に応じた適切なかわり方として、具体的な声かけなどの内容を考えられる。				
		1	章末 保育の課題に取り組もう！①	子どもの気持ちに寄り添う保育者とは？	・子どもの健やかな発達のために、保育者として適切な保育環境をどのように創意工夫していくべきか考える。 ・子どもの心身の状態や発達に応じた保育の方法とその環境について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。		●			・家庭での養育の課題を考察しながら、子どもの心身の安定を図るために、保育者としての月齢・年齢に応じた適切なかわり方を具体的に考え、意見をまとめたり発表したりすることができる。		
							●			・自身が保育者になることを想像しながら、子どもにとって適切な保育を行うためにかかわり方を工夫するなど、積極的に取り組む姿勢が見られる。		
	5 月	1	① 子どもの発達の特性	1 発達とは何か	・ライフステージにおける乳幼児期の位置づけを確認し、生涯発達のために乳幼児期が大切であることを理解する。 ・発達には順序性・連続性・方向性・相互性という一定の共通性がある一方で、個人差が大きいことを理解する。 ・子どもが主体的に環境にはたらきかけ、発達していくために、保育者などが応答的にかかわることが大切であることを理解する。	●			・子どもの発達の共通性・個別性について理解している。 ・子どもの発達は、身体の発育と心や身体の機能の発達が相互に関連してなされていくことを理解している。 ・子どもの心身の発達のために、保育の環境が重要であることを理解している。	・レポート ・ワークシート ・小テスト ・準備ノート ・定期テスト		
				2 乳幼児期の大切さ								
				3 発達の共通性		●						
				4 発達の個人差								
				5 発達と環境								
		2	② 乳幼児の発育と発達	1 乳幼児期の発育	・乳幼児期の発育について、各部位別の目安や評価法を知る。また、大人などと比較して、乳幼児期の発育の特性を理解する。 ・乳幼児期の生理的特徴について理解する。 ・乳児期・幼児期における感覚・運動機能、情緒、認知機能、言語、社会性の発達の特性について理解する。 ・子どもと大人ではものとのとらえ方に違いがあることを知る。 ・愛着関係の形成過程を学び、その重要性を理解する。 ・安全基地としての親の重要性について理解する。また、家族・きょうだい・友だちなどの対人関係と社会性の発達について考える。	●			・乳幼児の発育や生理的特徴が大人とは大きく異なることを理解している。 ・発達の各側面における過程を理解している。 ・発達の過程で子どもができるようになることを、月齢や年齢に応じて挙げることができる。 ・情緒や社会性といった心の発達に関して、親や保育者との愛着形成が重要であることを理解している。			
				2 乳幼児期の生理的特徴								
				8		3 乳幼児期の発達の特性		●				
	6 月	1	章末 保育の課題に取り組もう！②	発達の個人差を大事にした保育って？	・乳幼児期の子どもの健全な心身の発達について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 ・子どもの発達の個人差に配慮しながら、心身の発達を促すために保育者としてどのように接するとよいか考える。	●			・月齢・年齢ごとの子どもの心身の発達の様子を理解した上で、子どもの個人差を考慮した適切なかわり方を考察し、具体的に提案することができる。	・レポート ・グループ活動 ・発表		
						●		・自身が保育者になることを想像しながら、子どもの心身の発達を促し、子どもの気持ちに寄り添うにはどうかかわるべきかなど、主体的に捉えようとしている。				
2		① 子どもの健康と生活	1 子どもの養護	・保育所保育指針などを取り上げながら養護の必要性・目的を理解し、発達の段階に応じた適切な養護の方法を知る。 ・子どもを安全に養護するためのポイントや、注意点について知る。 ・基本的な生活習慣と社会的な生活習慣の違いを理解し、その具体的な内容について知る。 ・生活習慣を題材にした絵本などから、生活習慣の習得を促すにはどのような工夫が必要かを考える。	●			・子どもの養護の必要性について理解し、その発達段階に応じた適切な養護や生活援助のための技術を身につけている。 ・子どもの日常生活における世話の仕方とその役割について理解している。	・レポート ・実習レポート ・ワークシート ・小テスト ・準備ノート ・定期テスト			
			2 生活習慣の習得			●		・生活習慣を題材にした絵本などを通じ、生活習慣の習得を促すための、保育者としての具体的なかわり方などを考察し、工夫することができる。				
			4		② 子どもの食事	1 栄養と食生活	・子どもの栄養と食生活の特徴を知り、必要なエネルギーと栄養素について理解する。 ・食事が生活習慣の確立や心の発達に重要な役割をもつことを認識する。 ・近年の幼児に関する食事習慣や健康面の課題を知り、家庭や保育施設でどのようなことが求められているかを考察する。 ・幼児食実習や幼児用おやつづくりなど、実習を通じて子どもをイメージする。	●				●
2 乳児の食事	●			・現代の子どもの食生活の変化について、健康や生活習慣に関する課題を見つけ、自分の考えをまとめたり、発表したりすることができる。 ・料理を作る際に、食べやすさや栄養素のバランス、アレルギーに配慮するなど、工夫することができる。								
3 離乳						●						
4 幼児の食事												
2	◆調理実習					●		・保育施設で行われている食育活動などに関心をもち、地域での子どもの食生活にかかわる取り組みについて主体的に情報を収集しようとしている。 ・調理に関心をもち、調理実習に積極的に参加している。				

2 学 期	8 月	10	巻 末	保育実習に行ってみよう！		・実際に子どもとふれ合うことを通じて、子どもの保育の方法や発達、健康・安全、福祉、遊びについて理解を深める。	●	●	・保育実習において、子どもの発達や生活の特徴を調査・観察し、まとめたり発表したりすることができる。	・実習レポート ・グループ活動 ・発表
								●	・保育実習において、子どもの発達段階や生活の特徴を意識しながら、積極的に子どもとかわろうとしている。	
	9・10 月	2	③ 子どもの衣服と寝具	1 子どもの衣服の役割	・乳幼児に適した被服の素材・型を知り、適切な被服計画ができるようになる。 ・衣服の選択を間違えると、思わぬ事故につながる可能性がある と知り、安全な衣生活について考えることができる。 ・適切な寝具やおむつの使い方を理解する。	●	●	・乳幼児の発達や生活の特徴から、適切な衣服・寝具の状態について理解する。 ・子どもの衣生活を支える着替えや衣服づくりの仕方を理解し、基礎的な技術を身につけている。	・レポート ・実習レポート ・ワークシート ・小テスト ・準備ノート ・定期テスト	
				2 子どもの衣服の選び方				●		・子どもが快適で安全な衣生活を送るために、衣服選びや着せ方をどう工夫するべきかなど、自分の考えをまとめたり、発表したりすることができる。
				3 子どもの衣服の調節				●		・子どもが快適で安全な衣生活を送るために、衣服選びや着せ方をどう工夫するべきかなど、自分の考えをまとめたり、発表したりすることができる。
				4 おむつ				●		・子どもが快適で安全な衣生活を送るために、衣服選びや着せ方をどう工夫するべきかなど、自分の考えをまとめたり、発表したりすることができる。
				5 子どもの寝具など				●		・子どもの着替えやおむつ替えなどをする際にどのようにかわるかなど、自分が保育者や親になったときを想像し、自分ごととして捉えようとしている。 ・被服制作に関心をもち、被服実習に積極的に参加している。
		2	◆被服実習					●	・子どもの着替えやおむつ替えなどをする際にどのようにかわるかなど、自分が保育者や親になったときを想像し、自分ごととして捉えようとしている。 ・被服制作に関心をもち、被服実習に積極的に参加している。	
		5	★リトミック体験実習を2学期中に行う。 ④ 子どもの健康と安全	1 保育者の役割	★リトミック体験実習⇒乳幼児を対象とした音楽教育の指導法「リトミック」を生徒が体験することにより、より実践的な保育技術の知見を広げさせる。乳幼児への表現教育について考えさせる。 ・子どもの健康を守るための保育者の役割を理解し、健康状態の観察方法を知る。 ・子ども特有の病気について知り、予防接種の大切さを理解する。また、病気の際に落ち着いて対処するための知識を得る。 ・子どもの健康を守るために、社会がどのようなサポートを行っているかを知る。 ・住まいに潜む危険について理解し、家庭や保育施設など身近な場所の危険についても考えることができる。 ・発達障がいや医療的ケアをはじめとする、子どもの健康課題について、SDGsと関連させながら理解する。	●	●	・子どもの健康が免疫力や衛生環境など多様な要因から影響を受けやすく、健康を守る上での保育者の役割が重要であることを理解している。 ・子どもの病気の特徴を知り、適切な看護の方法を理解している。 ・予防接種をはじめとする子どもの病気の予防方法について理解している。 ・家庭など、子どもの生活のなかで起こりうる事故の特徴を知り、適切な応急処置の方法を理解している。	・レポート ・ワークシート ・小テスト ・準備ノート ・定期テスト	
				2 子どもの病気の特徴				●		・子どもの健康が免疫力や衛生環境など多様な要因から影響を受けやすく、健康を守る上での保育者の役割が重要であることを理解している。 ・子どもの病気の特徴を知り、適切な看護の方法を理解している。 ・予防接種をはじめとする子どもの病気の予防方法について理解している。 ・家庭など、子どもの生活のなかで起こりうる事故の特徴を知り、適切な応急処置の方法を理解している。
				3 子どものおもな病気				●		・子どもの健康が免疫力や衛生環境など多様な要因から影響を受けやすく、健康を守る上での保育者の役割が重要であることを理解している。 ・子どもの病気の特徴を知り、適切な看護の方法を理解している。 ・予防接種をはじめとする子どもの病気の予防方法について理解している。 ・家庭など、子どもの生活のなかで起こりうる事故の特徴を知り、適切な応急処置の方法を理解している。
				4 病気の子どもの看護の方法				●		・子どもの健康が免疫力や衛生環境など多様な要因から影響を受けやすく、健康を守る上での保育者の役割が重要であることを理解している。 ・子どもの病気の特徴を知り、適切な看護の方法を理解している。 ・予防接種をはじめとする子どもの病気の予防方法について理解している。 ・家庭など、子どもの生活のなかで起こりうる事故の特徴を知り、適切な応急処置の方法を理解している。
	5 病気の予防						●	・子どもの健康が免疫力や衛生環境など多様な要因から影響を受けやすく、健康を守る上での保育者の役割が重要であることを理解している。 ・子どもの病気の特徴を知り、適切な看護の方法を理解している。 ・予防接種をはじめとする子どもの病気の予防方法について理解している。 ・家庭など、子どもの生活のなかで起こりうる事故の特徴を知り、適切な応急処置の方法を理解している。		
	6 子どもの安全						●	・子どもの健康が免疫力や衛生環境など多様な要因から影響を受けやすく、健康を守る上での保育者の役割が重要であることを理解している。 ・子どもの病気の特徴を知り、適切な看護の方法を理解している。 ・予防接種をはじめとする子どもの病気の予防方法について理解している。 ・家庭など、子どもの生活のなかで起こりうる事故の特徴を知り、適切な応急処置の方法を理解している。		
	7 子どもの成長と遊びのなかの危険						●	・子どもの健康が免疫力や衛生環境など多様な要因から影響を受けやすく、健康を守る上での保育者の役割が重要であることを理解している。 ・子どもの病気の特徴を知り、適切な看護の方法を理解している。 ・予防接種をはじめとする子どもの病気の予防方法について理解している。 ・家庭など、子どもの生活のなかで起こりうる事故の特徴を知り、適切な応急処置の方法を理解している。		
	8 応急処置と救急用品						●	・子どもの健康が免疫力や衛生環境など多様な要因から影響を受けやすく、健康を守る上での保育者の役割が重要であることを理解している。 ・子どもの病気の特徴を知り、適切な看護の方法を理解している。 ・予防接種をはじめとする子どもの病気の予防方法について理解している。 ・家庭など、子どもの生活のなかで起こりうる事故の特徴を知り、適切な応急処置の方法を理解している。		
	1	章末 保育の課題に取り組もう！③	保育施設での危険をどう防ぐ？	・子どもの健康と安全について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 ・保育施設で起こりうる危険について理解し、保育者として子どもの健康・安全を守るために具体的にどのような対策を取るべきか考える。	●	●	・保育施設で起こりうる事故について、子どもの発達過程や生活の特徴を踏まえながら考察し、子どもを危険から守るための具体的な方策を提案することができる。	・レポート ・グループ活動 ・発表		
						●	・自身が保育者になることを想像しながら、子どもたちの自由な生活を確保しつつ事故を防ぐにはどうしたらよいかなど、自分ごととして課題に取り組もうとしている。			
	11 月	2	① 保育にみる児童観	1 大人の意のままになる存在	2 「子ども」の発見	・子どもが保護・養育される権利をもち、尊重されるべき存在であると認識されるまでの歴史を知る。 ・日本の児童観の変遷と、社会環境や法制度のしくみについて理解する。 ・子どもの福祉の理念について理解し、歴史的な経緯を知る。 ・児童福祉法や児童福祉関連施設の概要とその役割について理解する。	●	●	・世界・日本の児童観や子どもの福祉の変遷の歴史が、現代のさまざまな法律や制度に生かされていることを理解している。 ・児童福祉の理念と特徴、法律や制度、福祉にかかわる施設の役割について理解している。	・レポート ・ワークシート ・小テスト ・準備ノート ・定期テスト
							●	・児童福祉の理念と特徴、法律や制度、福祉にかかわる施設の役割について理解している。		
3		② 児童福祉の理念と法規・制度	1 児童福祉の歴史	2 児童福祉の法律 3 児童福祉にかかわる施設			●	・児童虐待や貧困など、具体的な問題を通じて子どもの福祉の必要性を考察し、自分の考えをまとめたり発表したりすることができる。	・レポート ・ワークシート ・小テスト ・準備ノート ・定期テスト	
							●	・児童虐待や貧困など、具体的な問題を通じて子どもの福祉の必要性を考察し、自分の考えをまとめたり発表したりすることができる。		
							●	・児童虐待や貧困など、具体的な問題を通じて子どもの福祉の必要性を考察し、自分の考えをまとめたり発表したりすることができる。		
1		章末 保育の課題に取り組もう！④	すべての子どもに充実した保育を！		・子どもの福祉について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 ・障がいの有無や貧困・虐待、国籍の違いなど、多様な事情・背景をもつ家庭や子どもたちが十分な保育サービスを受けるために必要な施策を考える。	●	●	・すべての子どもが充実した保育を受けられるように、保育者としてできることを、個々の家庭の事情などにも配慮しながら具体的に考え、提案することができる。	・レポート ・グループ活動 ・発表	
							●	・自身が保育者になることを想像しながら、子どもや保護者を支えることを目標にして積極的に支援策を考えようとしている。 ・保育施設と行政などが連携した子育て支援について関心をもち、自分で情報を収集しようとしている。		
							●	・自身が保育者になることを想像しながら、子どもや保護者を支えることを目標にして積極的に支援策を考えようとしている。 ・保育施設と行政などが連携した子育て支援について関心をもち、自分で情報を収集しようとしている。		
							●	・自身が保育者になることを想像しながら、子どもや保護者を支えることを目標にして積極的に支援策を考えようとしている。 ・保育施設と行政などが連携した子育て支援について関心をもち、自分で情報を収集しようとしている。		
							●	・自身が保育者になることを想像しながら、子どもや保護者を支えることを目標にして積極的に支援策を考えようとしている。 ・保育施設と行政などが連携した子育て支援について関心をもち、自分で情報を収集しようとしている。		
12 月	1	① 子どもの文化の意義	1 子どもの文化とは	2 子どもの文化の現状	・子どもの文化やそれを支える場が、子どもの健康で豊かな生活の実現のために果たす役割や意義を理解する。 ・近年の少子化、高度情報化の影響で、子どもや子ども文化を取り巻く環境に変化が起きていることを知り、それに伴う課題を理解する。	●	●	・子どもの文化やそれを支える場の役割や意義を理解している。		
							●	・子どもの文化の現状を捉え、今後の課題について考察することができる。		
	1	② 子どもの文化を支える場	1 児童文化施設	2 その他の施設			●	・子どもの文化の現状を捉え、今後の課題について考察することができる。		
							●	・子どもの文化の現状を捉え、今後の課題について考察することができる。		
	3	③ 子どもと遊び	1 遊びの意義	2 遊びの種類と発達 3 遊びと遊具のかかわり 4 遊びの現状	・子どもの健やかな発達における遊びの重要性や意義を、おもちゃづくりなどの活動を通じて理解する。 ・子どもの遊びの内容や時間・場所・仲間などが、近年の社会の変化の影響を受けて変容していることを知り、どのような課題があるか考える。 ・子どもの遊びに対する、保育者としての適切なかかわり方を理解する。	●	●	・子どもの健やかな発達が遊びによってもたらされることを理解している。 ・おもちゃ作りなどの活動を通して、子どもの遊びの特徴や、保育者としての適切なかかわり方を捉えている。	・レポート ・ワークシート ・小テスト ・準備ノート ・定期テスト	
							●	・おもちゃづくりなどの活動を通して、子どもが楽しく安全に遊ぶことができるように工夫することができる。 ・現代の子どもの遊びを取り巻く現状を理解し、課題について考察することができる。		
							●	・身近な地域の遊びについて関心をもち、公園などの利用状況や、遊び場を支えるNPO法人などの活動について積極的に調べようとしている。		
							●	・子どもの発達における表現活動の意義を理解している。		
	3	④ 子どもの表現活動	1 子どもの表現活動の意義	2 造形表現活動 3 言語表現活動 4 音楽・身体表現活動 5 情報手段などを活用した表現活動	・子どもの表現活動によって培われる能力について知り、表現活動の重要性や意義を理解する。 ・表現活動で子どもの意欲を引き出し、心身を育むための、保育者としての適切なかかわり方を理解する。	●	●	・表現活動において、子どもの意欲を引き出すために保育者はどのようにかわるとよいか、自分の考えをまとめたり発表したりすることができる。		
							●	・表現活動において、子どもの意欲を引き出すために保育者はどのようにかわるとよいか、自分の考えをまとめたり発表したりすることができる。		
							●	・表現活動において、子どもの意欲を引き出すために保育者はどのようにかわるとよいか、自分の考えをまとめたり発表したりすることができる。		
							●	・表現活動において、子どもの意欲を引き出すために保育者はどのようにかわるとよいか、自分の考えをまとめたり発表したりすることができる。		
						●	・表現活動において、子どもの意欲を引き出すために保育者はどのようにかわるとよいか、自分の考えをまとめたり発表したりすることができる。			
3 学 期	1	章末 保育の課題に取り組もう！⑤	目的に合った遊びを考えよう！	・子どもの遊びについての課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 ・年齢に応じた子どもの発達を促すことに適した、具体的な遊び方を提案する。	●	●	・月齢・年齢ごとの子どもの遊びの特徴を理解した上で、心身の発達を促すために、適切な遊びを企画し、発表することができる。	・レポート ・グループ活動 ・発表		
						●	・自身が保育者になることを想像しながら、子どもたちが楽しめるように積極的に取り組もうとしている。 ・保育施設で行われている遊びに関心をもち、自分で情報を収集しようとしている。			
		1	まとめ	保育の学習をふり返ろう		・保育の学習を通じて自分自身の子どもや保育に関する考えがどう変わったか振り返り、成長を実感する。	●	●	・これまで学習してきた内容を振り返り、保育にかかわる内容をまとめることができる。 ・子どもや保育について、学習前後の自身の考えの変化などをまとめることができる。 ・各章で提示されたSDGsの目標を達成するために、自分自身や社会はどのようなことができるか、話し合ったり、発表したりすることができる。 ・これまで学習してきた内容を踏まえ、将来自分がどのような形で子どもにかかわっていくかをイメージしようとしている。	・レポート ・発表
							●	・これまで学習してきた内容を踏まえ、将来自分がどのような形で子どもにかかわっていくかをイメージしようとしている。		

適宜		巻末	保育技術検定に挑戦してみよう！		・子どもの表現活動についての理解を深め、適切にかかわるための技術を身につける。 ・子どもの看護についての理解を深め、健康・安全を守るための技術を身につける。 ★全国高等学校家庭科保育技術検定の内容を知る。	●		・表現活動について、保育者として適切にかかわるための基礎的な技術を身につけている。 ・看護について、保育者として適切にかかわるための基礎的な技術を身につけている。	・実習レポート ・グループ活動 ・発表
							●	・表現活動において、子どもの情緒や社会性などを育むことができるように、演技方や制作方法などを工夫している。 ・看護において、子どもの安全や心の状態に十分配慮し、かわり方を工夫している。	
							●	・保育の技術に関心をもち、将来の職業を見据えながら、子どもの表現活動や健康・安全などについての理解を深めようとしている。	

学習の 評価	評価の 観点の 趣旨	知識・技能	・子どもの発達や生活の特徴、保育、福祉や文化などについての知識を体系的・系統的に身につけている。 ・子どもの発達の特性や発達過程に対応した技術を身につけている。
		思考・判断・表現	・子どもを取り巻く課題を見つけ、保育を担う職業人の視点から合理的かつ創造的に解決するために、思考を深め、適切な判断や工夫、表現をする力を身につけている。
		主体的に学習に取り組む態度	・子どもの発達や保育にかかわる職業について関心をもち、地域の保育や子育て支援を通じて子どもの健やかな発達に寄与しようとする意欲的な態度を身につけている。

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 情報

科目 情報Ⅰ

教科： 科目： 情報Ⅰ

単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 A 組～ F 組

教科担当者：（A・B・E組：喜多 智美） （C・D組：眞嶋 あき子） （F組：井上 栄治）

使用教科書：（ 高校情報Ⅰ新訂版（実教出版） ）

教科 情報 の目標：

- 【知識及び技能】 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

科目 情報Ⅰ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
c 1 学 期	問題を発見・解決する方法 【知識及び技能】 情報やメディアの特性を踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 目的や状況に応じて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考える。 【学びに向かう力、人間性等】 情報社会における問題の発見・解決に、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する。	・指導事項 問題を発見・解決する方法 ・教材 教科書、副教材、自作プリント ・一人1台端末の活用 Teams, Forms等	【知識・技能】 情報やメディアの特性を踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付けている。 【思考・判断・表現】 目的や状況に応じて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報社会における問題の発見・解決に、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。	○	○	○	3
	情報社会における個人の果たす役割と責任 【知識及び技能】 情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を科学的に捉え、考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 自己調整しながら、解決する過程や解決案を自ら評価し改善する。	・指導事項 情報社会における個人の果たす役割と責任 ・教材 教科書、副教材、自作プリント ・一人1台端末の活用 Teams, Forms等	【知識・技能】 情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解している。 【思考・判断・表現】 情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を科学的に捉え、考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 自己調整しながら、解決する過程や解決案を自ら評価し改善しようとしている。	○	○	○	3
	情報技術が果たす役割と望ましい情報社会の構築 【知識及び技能】 情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 情報モラルに配慮して情報社会に主体的に参画する。	・指導事項 情報技術が果たす役割と望ましい情報社会の構築 ・教材 教科書、副教材、自作プリント ・一人1台端末の活用 Teams, Forms等	【知識・技能】 情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解している。 【思考・判断・表現】 情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報モラルに配慮して情報社会に主体的に参画しようとしている。	○	○	○	3

2 学 期	メディアの特性とコミュニケーション手段 【知識及び技能】 メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について、その変遷も踏まえて科学的に理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的に捉え、それらを目的や状況に応じて適切に選択する。 【学びに向かう力、人間性等】 コミュニケーションと情報デザインが情報社会に果たす役割について考えながら情報と情報技術を活用する。	・指導事項 メディアの特性とコミュニケーション手段 ・教材 教科書、副教材、自作プリント ・一人1台端末の活用 Teams, Forms等	【知識・技能】 メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について、その変遷も踏まえて科学的に理解している。 【思考・判断・表現】 メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的に捉え、それらを目的や状況に応じて適切に選択している。 【主体的に学習に取り組む態度】 コミュニケーションと情報デザインが情報社会に果たす役割について考えながら情報と情報技術を活用しようとしている。	○	○	○	3
	情報デザイン 【知識及び技能】 情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 コミュニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報デザインを考える。 【学びに向かう力、人間性等】 試行錯誤して効果的なコミュニケーションを行う。	・指導事項 情報デザイン ・教材 教科書、副教材、自作プリント ・一人1台端末の活用 Teams, Forms等	【知識・技能】 情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解している。 【思考・判断・表現】 コミュニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報デザインを考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 試行錯誤して効果的なコミュニケーションを行おうとしている。	○	○	○	4
	定期考査			○	○	○	1
	効果的なコミュニケーション 【知識及び技能】 効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解し表現する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現し、評価し改善する。 【学びに向かう力、人間性等】 よりよいコミュニケーションを行うために自らの取組を振り返り評価し改善することを通して情報社会に主体的に参画する。	・指導事項 効果的なコミュニケーション ・教材 教科書、副教材、自作プリント ・一人1台端末の活用 Teams, Forms等	【知識・技能】 効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解し表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現し、評価し改善している。 【主体的に学習に取り組む態度】 よりよいコミュニケーションを行うために自らの取組を振り返り評価し改善することを通して情報社会に主体的に参画しようとしている。	○	○	○	4
	コンピュータの仕組み 【知識及び技能】 コンピュータや外部装置の仕組みや特徴、コンピュータでの情報の内部表現と計算に関する限界について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 コンピュータで扱われる情報の特徴とコンピュータの能力との関係について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 問題解決にコンピュータを積極的に活用する。	・指導事項 コンピュータの仕組み ・教材 教科書、副教材、自作プリント ・一人1台端末の活用 Teams, Forms等	【知識・技能】 コンピュータや外部装置の仕組みや特徴、コンピュータでの情報の内部表現と計算に関する限界について理解している。 【思考・判断・表現】 コンピュータで扱われる情報の特徴とコンピュータの能力との関係について考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題解決にコンピュータを積極的に活用しようとしている。	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
	アルゴリズムとプログラミング 【知識及び技能】 アルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法について理解し技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 目的に応じたアルゴリズムを考え適切な方法で表現し、プログラミングによりコンピュータや情報通信ネットワークを活用するとともに、その過程を評価し改善する。 【学びに向かう力、人間性等】 自ら結果を振り返って改善する。	・指導事項 アルゴリズムとプログラミング ・教材 教科書、副教材、自作プリント ・一人1台端末の活用 Teams, Forms等	【知識・技能】 アルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法について理解し技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 目的に応じたアルゴリズムを考え適切な方法で表現し、プログラミングによりコンピュータや情報通信ネットワークを活用するとともに、その過程を評価し改善している。 【主体的に学習に取り組む態度】 自ら結果を振り返って改善しようとしている。	○	○	○	8

	モデル化とシミュレーション 【知識及び技能】 社会や自然などにおける事象をモデル化する方法、シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 目的に応じたモデル化やシミュレーションを適切に行うとともに、その結果を踏まえて問題の適切な解決方法を考える。 【学びに向かう力、人間性等】 生活の中で使われているプログラムを見いだして改善しようとするなどを通じて情報社会に主体的に参画する。	・指導事項 モデル化とシミュレーション ・教材 教科書、副教材、自作プリント ・一人1台端末の活用 Teams, Forms等	【知識・技能】 社会や自然などにおける事象をモデル化する方法、シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法について理解している。 【思考・判断・表現】 目的に応じたモデル化やシミュレーションを適切に行うとともに、その結果を踏まえて問題の適切な解決方法を考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 生活の中で使われているプログラムを見いだして改善しようとするなどを通じて情報社会に主体的に参画しようとしている。	○	○	○	8
	情報通信ネットワークの仕組みと役割 【知識及び技能】 情報通信ネットワークの仕組みや構成要素、プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 目的や状況に応じて、情報通信ネットワークにおける必要な構成要素を選択するとともに、情報セキュリティを確保する方法について考える。 【学びに向かう力、人間性等】 情報システムにより提供されているサービスや情報通信ネットワークを目的に応じて適切かつ効果的に活用する。	・指導事項 情報通信ネットワークの仕組みと役割 ・教材 教科書、副教材、自作プリント ・一人1台端末の活用 Teams, Forms等	【知識・技能】 情報通信ネットワークの仕組みや構成要素、プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解している。 【思考・判断・表現】 目的や状況に応じて、情報通信ネットワークにおける必要な構成要素を選択するとともに、情報セキュリティを確保する方法について考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報システムにより提供されているサービスや情報通信ネットワークを目的に応じて適切かつ効果的に活用しようとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
3 学 期	情報システムとデータの管理 【知識及び技能】 データを蓄積、管理、提供する方法、情報通信ネットワークを介して情報システムがサービスを提供する仕組みと特徴について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 情報システムが提供するサービスの効果的な活用について考える。 【学びに向かう力、人間性等】 データを粘り強く多面的に精査し、データに含まれる傾向を自己調整しながら見いだす。	・指導事項 情報システムとデータの管理 ・教材 教科書、副教材、自作プリント ・一人1台端末の活用 Teams, Forms等	【知識・技能】 データを蓄積、管理、提供する方法、情報通信ネットワークを介して情報システムがサービスを提供する仕組みと特徴について理解している。 【思考・判断・表現】 情報システムが提供するサービスの効果的な活用について考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 データを粘り強く多面的に精査し、データに含まれる傾向を自己調整しながら見いだそうとしている。	○	○	○	8
	データの収集・整理・分析 【知識及び技能】 データを表現、蓄積するための表し方と、データを収集、整理、分析する方法について理解し技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 データの収集、整理、分析及び結果の表現の方法を適切に選択し、実行し、評価し改善する。 【学びに向かう力、人間性等】 情報セキュリティなどに配慮して情報社会に主体的に参画する。	・指導事項 データの収集・整理・分析 ・教材 教科書、副教材、自作プリント ・一人1台端末の活用 Teams, Forms等	【知識・技能】 データを表現、蓄積するための表し方と、データを収集、整理、分析する方法について理解し技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 データの収集、整理、分析及び結果の表現の方法を適切に選択し、実行し、評価し改善している。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報セキュリティなどに配慮して情報社会に主体的に参画しようとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
							70

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 情報 科目 情報Ⅱ

教 科： 情報 科 目： 情報Ⅱ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組

教科担当者：（A～F組：喜多 智美）

使用教科書：（ 情報Ⅱ（実教出版） ）

教科 情報 の目標：

【知 識 及 び 技 能】 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

科目 情報Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
多様なコミュニケーションの実現、情報システムや多様なデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報技術の発展と社会の変化について理解を深めるようにする。	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用する力を養う。	情報と情報技術を適切に活用するとともに、新たな価値の創造を目指し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
	情報社会の進展と情報技術 【知識及び技能】 ・情報技術の発展の歴史を踏まえ、情報社会の進展について理解する。 ・情報技術の発展によるコミュニケーションの多様化について理解する。 ・情報技術の発展による人の知的活動への影響について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・情報技術の発展や情報社会の進展を踏まえ、将来の情報技術と情報社会の在り方について考察する。 ・コミュニケーションが多様化する社会におけるコンテンツの創造と活用の意義について考察する。 ・人の知的活動が変化する社会における情報システムの創造やデータ活用の意義について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・情報社会における問題を発見し、解決に向けた提案を行うために、情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用する。また、自己調整しながら、解決する過程や解決案を自ら評価し改善する。 ・情報社会における問題の発見・解決を通して情報社会の発展に寄与する。	・指導事項 情報社会の進展と情報技術 ・教材 教科書、副教材、自作プリント ・一人1台端末の活用 Teams、Forms等	【知識・技能】 ・情報技術の発展の歴史を踏まえ、情報社会の進展について理解している。 ・情報技術の発展によるコミュニケーションの多様化について理解している。 ・情報技術の発展による人の知的活動への影響について理解している。 【思考・判断・表現】 ・情報技術の発展や情報社会の進展を踏まえ、将来の情報技術と情報社会の在り方について考察している。 ・コミュニケーションが多様化する社会におけるコンテンツの創造と活用の意義について考察している。 ・人の知的活動が変化する社会における情報システムの創造やデータ活用の意義について考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・情報社会における問題を発見し、解決に向けた提案を行うために、情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用しようとしている。また、自己調整しながら、解決する過程や解決案を自ら評価し改善しようとしている。 ・情報社会における問題の発見・解決を通して情報社会の発展に寄与しようとしている。	○	○	○	6
1 学 期	コミュニケーションとコンテンツ 【知識及び技能】 ・多様なコミュニケーションの形態とメディアの特性との関係について理解する。 ・文字、音声、静止画、動画などを組み合わせたコンテンツを制作する技能を身に付ける。 ・コンテンツを様々な手段で適切かつ効果的に社会に発信する方法を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・目的や状況に応じて、コミュニケーションの形態を考え、文字、音声、静止画、動画などを選択し、組合せを考える。 ・情報デザインに配慮してコンテンツを制作し、評価し改善する。 ・コンテンツを社会に発信したときの効果や影響を考え、発信の手段やコンテンツを評価し改善する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・目的や状況に応じて制作したコンテンツを適切かつ効果的に発信する。 ・コンテンツを社会に発信した時の効果や影響について考える。 ・コンテンツを制作して発信する際、情報デザインに配慮し粘り強く評価や改善を行うことを通して、情報社会の発展に寄与する。	・指導事項 コミュニケーションとコンテンツ ・教材 教科書、副教材、自作プリント ・一人1台端末の活用 Teams、Forms等	【知識・技能】 ・多様なコミュニケーションの形態とメディアの特性との関係について理解している。 ・文字、音声、静止画、動画などを組み合わせたコンテンツを制作する技能を身に付けている。 ・コンテンツを様々な手段で適切かつ効果的に社会に発信する方法を理解している。 【思考・判断・表現】 ・目的や状況に応じて、コミュニケーションの形態を考え、文字、音声、静止画、動画などを選択し、組合せを考えている。 ・情報デザインに配慮してコンテンツを制作し、評価し改善することができる。 ・コンテンツを社会に発信したときの効果や影響を考え、発信の手段やコンテンツを評価し改善することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・目的や状況に応じて制作したコンテンツを適切かつ効果的に発信しようとしている。 ・コンテンツを社会に発信した時の効果や影響について考えようとしている。 ・コンテンツを制作して発信する際、情報デザインに配慮し粘り強く評価や改善を行うことを通して、情報社会の発展に寄与しようとしている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1

[illegible]

教科 ： 総合的な探究の時間 科目 ： 総合的な探究の時間

対象学年組 ： 第1学年A組～F組

教科担当 ：

使用教科書 ：

総合的な探究の時間の目標

「人間と社会」の代替として実施する。現代的で切実な課題を設定し、解を求める姿勢と方法を身に付けさせる。論理的な思考力や表現力を育て、各自の研究や調査、プレゼンテーションを実施することを通して、自己の在り方・生き方とキャリアについて考え、それを踏まえた進路の決定を目標とする。自立・自己管理能力と、他者との協働の姿勢の育成を目標とする。

総合的な探究の時間の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に取り組む態度等】
・自ら課題を設定し、情報を収集し、整理・分析し、まとめて表現できる能力。	「自己の在り方・生き方を考える」姿勢をもち、現在の自己の状況を客観的に見つめながら、進路実現に向けた「計画・実行・評価・改善」ができる能力、論理的思考力や表現力及び態度、粘り強さを養う。	演習や体験活動を通じて、自己と向き合い、社会の一員として地域と積極的に関わり貢献しようとする態度、主体的・協働的に行動できる、コミュニケーション能力や豊かな人間性を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	当
体験活動① 異文化交流ワークショップ チームコンセンサス・ワークショップ 【探究学習】 校内フィールドワーク 【探究学習】 探究学習ガイダンス 体験活動② 職業人インタビュー（インタビューワークショップ）	・全体説明(目的、年間計画) 目標設定と学習計画 「探究」とは何か、情報収集の方法について学ぶ。 ・生き方、在り方についての考えを深める。 ・海外からの留学生を招き、日本で困ったことや驚いたことなどへのプレゼンテーションを聞き、そのうえで解決策を考え、留学生に対して提案する。 ・学びの意義について考え	テキスト・ワークシートの活用 ワークシートの活用 夏期キャリア課題	○	○	○	13
【探究学習】 情報収集スキル学習（文献・アンケート・インタビュー・実験） 【探究学習】 情報分析スキル学習（データ集計・図表・分析ツール） 適性検査 ： 適性検査結果のフィードバック・自己理解 防災訓練事前指導 体験活動「防災」 連携先 消防署 消防団・PTA 防災訓練事後指導 探究活動準備 探究成果発表会	・適性検査を活用して自己理解を深め次年度の文理・科目選択に役立てる。 ・大学出張講義で諸学間分野から自分の興味関心に合わせて大学の学びを体験する。 ・分野別に進路を研究する ・個人の発表による情報交換 ・自己の特徴を考察することにより、進路適性を探る 体験前に、防災について、自らの課題を整理する。考える技法について学ぶ。 ・防災訓練に参加し、上級救命講習技術などを身に付ける。	テキスト・ワークシートの活用 レポート提出 感想文の作成・提出 ブレ探究開始 冬期キャリア課題	○	○	○	14
【探究活動】 先行研究調査・文献調査・探究テーマの設定 【探究活動】 探究テーマ相談会 小論文ガイダンス・小論文模試 受験体験報告会	・次年度の探究課題の設定に向けて、自分自身の興味関心のあることがらについて調査研究を行いグループ内で発表する。 ・講義と演習を通じて論理的な考え方や的確な表現力を養い、文章作成とコミュニケーション能力を高める。 ・グループワークを通じて、集団での合意形成の手法を	ワークシートの活用 小論文の作成・提出	○	○	○	8
						合計 35

教科 ： 総合的な探究の時間 科目 ： 総合的な探究の時間

対象学年組 ： 第2学年A組～F組

教科担当 ：

使用教科書 ：

総合的な探究の時間の目標

探究的な学びをより実践的に実施し、学ぶ喜びを知り、主体性を養うとともに、進路決定に必要な方法を身に付けさせる。ゼミ形式もしくはメンター制度で生徒に各自の探究活動に取り組ませる。

総合的な探究の時間の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に取り組む態度等】
・自ら課題を設定し、情報を収集し、整理・分析し、まとめて表現できる能力。	「自己の在り方・生き方を考える」姿勢をもち、現在の自己の状況を客観的に見つめながら、進路実現に向けた「計画・実行・評価・改善」ができる能力、論理的思考力や表現力及び態度、粘り強さを養う。	演習や体験活動を通じて、自己と向き合い、社会の一員として地域と積極的に関わり貢献しようとする態度、主体的・協働的に行動できる、コミュニケーション能力や豊かな人間性を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	当
オリエンテーション 【探究学習】 ゼミ形式での探究活動開始 1. テーマ再検討 2. 先行研究調査・文献調査 3. 個別相談 4. テーマ再設定 5. 探究計画書作成 ・オープンキャンパスガイダンス ・大学、学問研究講演 【プレゼンテーションワークショップ】	全体説明（目的、年間計画） 目標設定と学習計画（当初申告） キーワードロジックツリー キーワードマッピングと文章化 グループワークを中心に深める リサーチクエスト グループ内発表 研究テーマの設定、計画書の作成 大学学部・学科研究 1学期の反省	実施内容の自己評価及び相互評価及び課題への取り組み状況、授業への積極的な参加状況等で評価を行う。 ワークシート・提出物等も評価の対象とする。 夏期キャリア課題	○	○	○	15
【探究学習】 探究学習中間報告（文化祭） ※夏季休業中に取り組んだ内容をPPTにまとめ、文化祭で掲示 【探究学習】 1. 研究結果の分析 2. 再調査・類似研究調査 3. 探究学習成果発表準備 4. ゼミ内発表 【探究学習】 探究成果発表会	中間発表 調査・実験の実施 調査・実験のまとめ 選択科目を考える グループ別発表準備 グループ別発表・優秀賞を決める。 探究成果発表会	実施内容の自己評価及び相互評価及び課題への取り組み状況、授業への積極的な参加状況等で評価を行う。 ワークシート・提出物等も評価の対象とする。 冬期キャリア課題	○	○	○	12
・異文化理解講演会 ・志望理由書ガイダンス、模試 ・ライフプラン講演会 「成人になるということ」 受験体験報告会 1年のまとめ	3年生に向けての心構え 志望校を絞った研究 志望理由書を検討することで進路希望を明確にする ・卒業生話を聞き、進路活動の見通しを立てる。 1年間のまとめと進路探究	年間計画に沿って自己の進路について考え、深めることができたか生徒による自己評価を行う	○	○	○	8
						合計 35

教科 ： 総合的な探究の時間 科目 ： 総合的な探究の時間

対象学年組 ： 第３学年A組～F組

教科担当 ：

使用教科書 ：

総合的な探究の時間の目標

論理的な思考力や表現力を育て、各自の探究活動やプレゼンテーションを実施することを通して、自己の在り方・生き方と自己のキャリアについて考え、それを踏まえた進路の決定を目標とする。自律・自己管理能力の育成を目標とする。

総合的な探究の時間の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に取り組む態度等】
自ら課題を設定し、情報を収集し、整理・分析し、まとめて表現できる能力。	「自己の在り方・生き方を考える」姿勢をもち、現在の自己の状況を客観的に見つめながら、進路実現に向けた「計画・実行・評価・改善」ができる能力、論理的思考力や表現力及び態度、粘り強さを養う。	演習や体験活動を通じて、自己と向き合い、社会の一員として地域と積極的に関わり貢献しようとする態度、主体的・協働的に行動できる、コミュニケーション能力や豊かな人間性を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	当
オリエンテーション 年間学習計画 進路希望調査 系統・分野別分科会 ～面接対策ガイダンス～ 夏の学習計画	全体説明会(目的、年間計画) 進路全般・体調管理法 受験のための学習計画 進路実現に向けた計画と立案 書き方の指導 進路学習の進め方 夏期講習の説明と受け方	授業内容の自己評価、相互評価及び課題への取り組み状況、授業への積極的な参加状況等で評価を行う。 ワークシート・提出物等も評価の対象とする。	○	○	○	13
自己の在り方・生き方 大学入学共通テスト説明会 進路説明会 模擬面接 併願校説明会 学習計画作成 過去問研究 学習計画	自己の進路を考える 出願の諸注意 志望校の決定について 志望理由等のまとめ 書き方指導 併願の考え方等 出願ガイダンス 講演会形式 実践報告	授業内容の自己評価、相互評価及び課題への取り組み状況、授業への積極的な参加状況等で評価を行う。 ワークシート・提出物等も評価の対象とする。	○	○	○	14
大学入学共通テスト研究	直前ガイダンス	授業内容の自己評価、相互評価及び課題への取り組み状況、授業への積極的な参加状況等で評価を行う。	○	○	○	8
						合計 35